季くらしと協同

2022 春号 No.39

特集 コロナに克つII ~つながりを紡ぎ続ける

学生座談会 大学生のいま ーオンラインと大学

コロナに克つⅡ~つながりを紡ぎ続ける

巻頭言

コロナ禍のもとで再認識 ……生源寺 眞一 1

特集 コロナに克つ Ⅱ ~つながりを紡ぎ続ける ……2

- 01 コロナ禍から考える人間のつながり一ともに食べる。ともに学ぶ。ともに暮す。
 - ……山極 壽一・聞き手 加賀美 太記 3
- 02 生産者と消費者を「つなぐ」オンラインサービスの可能性
 - 一(株)ポケットマルシェ 高橋博之氏に聞く ……御手洗 悠紀 15
- 03 オンラインだからこその広がりをつくる一協同組合のSNS活用事例 ……増谷 博昭 22
- 04 リアルとオンラインを架橋する~COOP WEB PROJECT
 - ……古江 啓二・近藤 將来・聞き手 楊 樂華 28
- 05 離れていても学生の支えになるように
 - 一コロナ禍の大学生協と食に関する取り組み ……山野 薫 36

座談会 大学生のいまーオンラインと大学

田中 陽菜・池田 智咲・寺山 有美・村上 結菜・澤木 翔・井上 明香・古賀 蒼大・只友 景士 …… 43

くらしと協同をたずねて

01 電気ポットで「さりげなく」みまもり、みまもられることを実現 一象印マホービン株式会社の「みまもりほっとライン」のケース― ……木下 和紗 66

書評

- 01 『孤独は社会問題 孤独対策先進国イギリスの取り組み』 多賀 幹子 著 ……浮網 佳苗 76
- 02 『DX とは何か 意識改革からニューノーマルへ』 坂村 健 著 ·····・上野 秀剛 78

誌上掲載

コロナ禍での人々の暮らしと医療福祉生協の課題

―社会政策の視点と協同組合の視点から―……佐藤 卓利 80

(第2回 コロナショック特別研究会(2021年11月14日(日)開催)の基調講演の再録)

研究所ニュース 「生協 10 の基本ケア」・「2021 年度全体研究会」 報告 93

バックナンバー/編集後記 …… 95

巻頭言

コロナ禍のもとで再認識

生源寺 眞一(全国大学生活協同組合連合会会長理事)

新型コロナ禍でキャンパスライフが激変 してから2年が経過しました。キャンパス ライフが消えたと表現されることもありま した。とくに都市部の大学では、入講制限 のもとで静まり返ったキャンパスが長引く ケースもありました。依然として過去形で 語ることはできません。まもなく新たに1 年生を迎える時期なのですが、オミクロン 株の感染拡大で行動の抑制を求められてい る地域も少なくありません。大学生協の経 営をめぐる厳しい状況も続いています。象 徴的なのが食堂です。学生不在の状況下で 休業を余儀なくされたことで、職員の配置 の見直しを迫られたケースも少なくないの です。むろん、学生の皆さんにとっても困っ たことです。不規則で偏りのある食生活が 続き、心身に不調をきたすことも少なくな いからです。

コロナ禍はキャンパスライフに深刻な影 響をもたらしていますが、他方で協同組合 や大学生協の存在意義を再認識するきっか けという面もあります。そのひとつが助け 合いの大切さの確認であり、大学生協連の 「たすけあい奨学金」を支える動きが加速 していることをお伝えしたいと思います。 これは扶養者を失った学生さんを支援する 仕組みですが、寄付者や賛助会員によるサ ポートが広がりつつあります。大学生協の 経営が厳しい状況下で、大学生協以外の団 体などによるサポートも増えているので す。この背景にはコロナ禍で厳しい状況下 に置かれた仲間が存在するなかで、人々に 助け合いの大切さへの思いが深まっている ことがあります。救貧活動や関東大震災の 支援でも知られる賀川豊彦の理念と行動が思い起こされます。

大学生協の存在意義という点では、会員 生協・地域ブロック・全国連の各段階で学 生委員を中心に若者力が存分に発揮されて の例ですが、昨年7月に実施された学生の の例ですが、昨年7月に実施された学生の も記述欄のリアルな声が公表されたことも も記述欄のリアルな声が公表されたこれ と国紙や地方紙に取り上げられま した。さらにアンケートを受けて、オカミ した。さらにアンケートを受けて、オカミ したが、朝日新聞社などが後援し、百をしたが、朝日新聞社などが後援し、だきました。 大学生協の社会への情報発信力を支えているのは、学生委員を核とする若者力だと申 し上げても過言ではありません。

大学生協は若者の成長の場でもありた いと考えています。長期の視点に立つと き、コロナ世代となる現在の学生の皆さん に大いに期待しているとも申し上げたいの です。コロナ世代との表現には、かつての バブル世代との対比が念頭にあります。80 年代後半に卒業したのがバブル世代で、就 職などに苦労がなかったと言われてきまし た。これに対してコロナ世代は、先が見通 せない状況下で互いに励まし合い、助け合 いながら困難を乗り越えることになるで しょう。そんな強さを大学生協の若者から 感じ取ることができるのです。コロナ世代 には、地球上に共通体験の仲間が多く存在 するという特色があります。これも広い視 野からの活躍への期待につながります。

特集

コロナに克つⅡ ~つながりを紡ぎ続ける

新型コロナウイルス感染症の世界的流 行がはじまってから、3度目の春を迎え た。コロナと向き合ったこの2年間を振 り返ると、私たちがもっとも戸惑ったこ との一つは、コミュニケーションの制限 ではなかっただろうか。対面で密なコ ミュニケーションによって培われていた 私たちの「つながり」は、そのための機 会を大きく制限されることになった。し かし一方で、そうした制限のなかでも、 インターネット等の ICT を活用して「つ ながり一を作る動きも広がった。コロナ 禍おいても、私たちは互いにつながりあ うために努力を続けてきたのである。本 特集は、そうした新しい「つながり」の 作り方をテーマとした。

特集のはじめには、元京都大学総長の山極壽一氏にご登場いただき、ご自身の専門であるゴリラ研究の知見を踏まえながら、人間社会における「つながり」のあり方について語っていただいた。そのうえで、コロナ禍において、「つながり」を紡ぐ事例として、産直eコマースであるポケットマルシェ、数ある協同組合の中でも随一のフォロワー数を誇るJA全農のSNSアカウント、コープ九州事業連合が展開するインターネットサイト、その実態を検討・紹介していただ

いた。また、コロナ禍の中で、とくに大きな影響を受けた大学生のリアルを知るために座談会を企画した。いずれの論考も、コロナ禍において「つながり」を紡ぐために奮闘する事業者や協同組合、そして一人ひとりの現状を伝えるものとなっている。

日本では、年明けから拡大したオミク ロン株による「第6波」がピークアウト しつつあり、3月下旬には全国のまん延 防止等重点措置も解除される見通しと なっている。世界では、イギリスなどヨー ロッパ各国でコロナ関連の規制が緩和・ 撤廃されているが、韓国などのアジア諸 国では過去最多の感染者数が記録されて いる。ワクチン接種が進展し、治療薬の 開発も進んではいるが、まだしばらくは コロナと向き合う日常が続いていくであ ろう。本特集をきっかけに、コロナ禍に おける、そしてコロナ禍以降の協同組合 の特徴である組織や組合員の「つながり」 について、読者の皆さんに一考していた だければ幸いである。

(本誌編集長 加賀美太記)

特集 コロナに克つ Ⅱ ~ つながりを紡ぎ続ける

01 加賀美太記(阪南大学准教授) (総合地球環境学研究所 山極壽一 氏 新型コロナ禍のなか、感染の拡大を防ぐために、 私たちの暮らしは様々な制限が課せられることに なった。ともに集まって語り合うことも、ともに 食事をとることも、そして学生たちにとっては共 に学びあうことも制限された。

もちろん、こうしたコミュニケーションの制限に対応するため、インターネットを核とした、多くのツールが普及した。困難ななかでも、知恵を絞って、私たちは互いのつながりを維持しようとしている。

しかし、そもそも、私たちのつながりとはどのようなものなのだろうか。当たり前のようにつながりあっているがゆえに、学術的な研究はともかく、日々の暮らしのなかでつながりについて考える機会はそう多くはない。そこで今回は、前京都大学総長で、現在、総合地球環境学研究所所長を務める山極壽一氏にお話を伺った。ゴリラ研究の世界的権威として知られる山極氏は、著書やインタビューにおいて、自身の研究成果から、オンラインのつながりの意義や限界、あるいは食事という行為の重要性を説いている。

私たち人間社会の特徴とは何か、私たち人間のつながりとは何か、つながりを紡ぐためには何が必要なのか。コロナ禍という、つながりを維持するための様々な方法が制限される今、本インタビューが改めてつながりについて考える一助となれば幸いである。

※インタビューは 2022 年 2 月 3 日午後にリモートにて行いました。内容は、その時点の情報に基づいたものです。

学びにおけるオンラインの限界は

【加賀美】山極先生は、対面コミュニケーション の重要性を説くとともに、スマートフォンやイン ターネットといったデジタルな技術によるつなが りが、人間の能力を超えたものになりつつ あるのではないか、と問題提起されておら れます。

しかし、新型コロナ禍において、社会ではオンライン/リモートの仕組みが急速に普及しました。大学でも講義のオンライン化が進みました。現在では、オンライン講義について学生・教員の双方から肯定的な意見が少なからず出てきているように思います。

まずは、大学における学びや教育という 視点から、学びのオンライン化にどのよう な可能性があり、どのような問題があると 考えられるでしょうか。

【山極】オンラインやリモートには利点もあります。たとえば、移動しなくていいし、コストが安く、いつでも自分の好きなかたちで出席ができる。しかも先生と1対1で話ができる。これらは利点ですよね。YouTubeで配信すれば、何万人が講義を受けられるわけだし、これまでとは違う利点が出てきたのは確かだけど、学びという点からは不十分だと思います。

ぼくは、3つの自由によって、人間は社会を作ってきたと考えています。3つの自由というのは、「動く自由」、「集まる自由」、「対話する自由」です。類人猿、ゴリラやチンパンジーと比較するとよく分かるのだけれど、ゴリラもチンパンジーも1年間あるいは1日に動き回る範囲は決まっていて、非常に狭い。集まる自由も、自分の群れでしか集まれない。他の群れに勝手に入っていくことはできないし、一度群れを離れたら自分の群れに戻ることもできない。

でも、人間は自由自在に遠い距離を歩き回り、いろいろな人に出会うことができる。 虫や鳥や獣、あるいは生き物だけじゃなく、 さまざまな風景や現象にも出会うことがで きる。そして、それを語ることができる。 つまり、人間は常に、出会い気付くことに よって、新しい未来を構想し、世界の変化 を知ることができているわけだよね。

学びというのは、この人間の3つの自由 によって成り立っている。学ぶためには、 出会わなくちゃいけない。実際にリアルで 対面しなくちゃいけない。しかも、ただ人 や物に出会うのではなくて、周囲の状況を きちんと共有しながら出会う必要がある。 橋の上で出会う、学校のキャンパスで出会 う、あるいは商店街で出会う、飲み屋で出 会う、これらは全然違った出会いです。学 校のキャンパスの講義室、あるいはゼミ室 で出会いながら、同じ学びをする仲間や教 員と一緒に、お互いが考えていること、頭 の中にあること、あるいは身体の中に埋ま りこんでいるものを共有する経験が、学び にとっては不可欠です。それが、オンライ ンではできなくなるというのが、すごく大 きい。

【加賀美】オンラインでは、学びにとって 極めて重要な、状況を共有しながら出会う ことが難しいということですね。

【山極】できないよね。今、ぼくはちゃんとスーツを着ているわけだけど、オンラインだと下はパジャマだっていいわけでしょう。しかも、画面背景をきちんと作っているから、隣に誰かいたって画面越しには見えないよね。つまり、相手と場所を共有していないという不安感が、無意識のうちに存在する。それが、なかなか同調しにくい、存在する。それが、なかなか同調しにくい、たろした壁になっているんだと思います。

それに大学生ではなくて、小中学生に とっては、身体の共有によって世界を理解 していくことがとりわけ必要です。あるい は、他者と身体を共有することによって、 他者が持っている能力を知る。あるいは、 他者から見た自分というものを、きちんと 位置付けることができるようになる。これ が小学校や中学校、つまり初等教育の生徒 たちの学びだと思います。それがオンライ ンではできなくなる。それは、とてもまず いことだと思います。

実際、大学生や高校生ぐらいになると、 情報を頭でハンドリングすることができる ようになるけれど、小学生や中学生だと、 情報と身体性が一体化しているわけです。 だから、たとえば小学生に道徳を教えると きに、頭で教えるのでは身につかないです よね。身体性に入り込んでいかないと、何 をやったらいけないのか、何をやったら褒 められるのかが納得できない。

身体というものが基盤になって、世界と 対峙していく。そういう経験をいくつも経 ないと、自分で、自分の身体と自分の心と いうものを、きちんと理解することができ なくなると思います。

言葉というコミュニケーションの 役割と限界

【加賀美】 先程、同調という単語が出ましたが、山極先生は人間が信頼関係を築くには、時間を共有して、互いに同調することが必要だと論じておられます。

ただ、一般的には言葉によるコミュニケーションが、信頼には重要だとされているように思うのですが、なぜ言葉ではなく同調が必要なのでしょうか。

【山極】 ぼくはね、言葉というのは不完全 なコミュニケーションだと思っているんで すよ。言葉は気持ちを伝え合うのには適し ていない。それがゴリラとずっと付き合ってきたからよく分かるんです。

ゴリラは言葉をしゃべりません。だけど 気持ちを伝え合うことはできる。言葉がな いせいで、むしろ気持ちはストレートに伝 わる。なぜかと言うと、言葉というのは、 世界にさまざまな名前を付けて分類し、要 素に分けて、再解釈することなんです。言 葉によって違うものを一緒にできるし、同 じものを分けることもできる。

しかも言葉はポータブルだから重さがない。どこにでも持ち運び可能で、遠くの、あるいは過去の他者の経験を、言葉を通じて体験することができる。ただ、実際には体験していないわけだよね。言葉は抽象化、シンボル化して伝えるわけだから、100パーセント完全に再現できるわけではない。他者の体験だけではなく、自分の気持ちもそうです。

人間にはサルと同じ視覚、聴覚、嗅覚、 味覚、触覚の五感があります。科学技術は、 視覚と聴覚を拡大するように働いてきたん ですね。言葉は、視覚を音に転写させて、 それをシンボル化して伝える1つの仕組み です。今の SNS やインターネットも、もっ ぱら視覚と聴覚を利用しています。

ただ、嗅覚・味覚・触覚については、技術ではなかなか拡大できない。視覚・聴覚は仲間と共有しやすい感覚なんだけど、嗅覚・味覚・触覚は共有しにくいんですよ。たとえば、「変なにおいがするね」と言っても、どんな変なにおいなのかを、言葉でそのまま表現できないでしょ。だからアナロジーを使うわけです。卵の腐ったようなとか、どぶ川のようなとか、りんごのような甘い香りとか。

そういう風にアナロジーを使ったとして も、本当にそういったにおいかどうかは、 実際に目にしないと、なかなか納得できな い。実は、われわれが嗅覚・味覚・触覚で感じたことは、視覚・聴覚に転用して初めて理解できるわけです。だから百聞は一見に如かずという言葉があるように、われわれは視覚優位の世界に住んでいて、見たことが真実なんです。見ないうちは、それは真実ではない。

だから積極的な努力が必要なんです。相 手と同じにおいをかいでる、相手と同じよ うに味わっている、相手と同じように肌触 りを感じているんだなっていう努力が。そ して、そこに共感力が芽生えて、同調する 意識が働く。それが重要なんだよね。

そうすると、気持ちは身体そのものなんです。気持ちは身体の外になかなか出てこない。情報化できないものなんですよ。だから、言葉にとって、気持ちを伝えることはあまり得手ではない。

それでは何のために言葉が出てきたのかというと、考えるために出てきたんですよ。言葉によって世界が構造化されて、あるいは因果関係ができて、過去や現在や未来、原因や結果が1つの中に見えるようになった。

これはゴリラの感じている世界と全く違う、人間だけの世界です。それを仲間と共有することが始まった。つまり、気持ちを伝え合うことによって言葉が出てきたのではなく、物語を作ることが言葉の大きなファンクションだった。それを間違えてはいけない。

今、われわれはインターネットや SNS で気持ちを伝えようとするけれど、それは 言葉の本来の機能ではないということを、きちんと理解する必要があります。言葉は、頭の中にある知識や、世界を切り分けるなかで情報として発達してきた、そうしたコミュニケーション手段であって、気持ちを言葉に乗せて伝えようと思っても、それは 無理だということですね。

むしろ言葉が伴わない音楽のほうが、よっぽど気持ちが伝わるかもしれないよ。音楽は、言葉と同じように、音の組み合わせによって文法ができている。でも、言葉の文法と違って、音楽は訳す必要がない。意味を伝えないから。音楽は意味を伝えずに、全体的な感覚や気持ちを伝えるわけです。だから、言葉よりも音楽が先に出てきた、とぼくは思っているんです。

つまり、意味を伝えるということは、気持ちを伝えるということを 100 パーセント反映していないんですよ。言葉は世界を意味付けた。もしくは価値付けたと言ってもいい。そこを仲間と共有することに言葉は役立った。ただ、そうした役割が忘れられ始めているから、言葉によって傷ついてしまう。今、フェイクニュースのように、導されているのは、その表れだと思いますね。

【加賀美】信頼し合うためには、まずは身 体の同調が必要だということですね。

【山極】共感 [エンパシー] の起源は、同調です。身体を触れ合わせること、共鳴させることが、同調の最初なんですね。それから、さらに認知能力が加わり、相手が置かれている立場を、相手の立場になって理解することができるようになる。これが同情 [シンパシー] です。

英語のエンパシーとシンパシーは違うものです。エンパシーはサルでもできる。でも、相手の気持ちが分かるということと、同情する、つまり相手を助けたいと思うという気持ちは違うものです。相手を助けたいと思うためには、相手が置かれている立場を理解しなくちゃいけない。サルにはそれは理解できないんですよ。だから、同情というのは、類人猿以上にならないとなか

なか起きてこない。だって相手の気持ちが 分かったら、相手を利用することだってで きるわけでしょう。相手を助けたいと思う 気持ちがなければ、相手に寄り添えないん ですよ。

さらに、自分と相手だけではなくて、みんなで一緒に苦難を乗り越えていこうという共同意識のコンパッションがあるけれど、それは人間だけにしか表れない行為なんです。だから、やっぱり段階があるんだと思います。

ただ、基本的には、それぞれに身体の同調というものが必要なんですね。類人猿は自分がその現場にいなければ、同情したり、相手を助けたりできない。人間は相手と離れていても、それができる心を持っている。それは言葉を持ったおかげだと思うけれど、その基本は、身体を共鳴させることにあるのだと思います。それを忘れてはいけない。

人類にとっての「食」の意味

【加賀美】身体の同調、共鳴ともかかわる と思うのですが、コロナ禍では共に食事を する機会が大きく損なわれました。

人間のつながりや信頼において、とくに 「食」の果たす役割はどのようなものなの でしょうか。

【山極】ぼくは、食事という行為は、人間にとって最も古い文化装置だと思っています。なぜかというと、たまにだけどゴリラやチンパンジーや類人猿も食物の分配はするんですよ。ただ、自分から積極的に相手に食物を与えることは、ほとんどありません。要求されてはじめて、相手に食物を分ける。なおかつ、食物を得た場所でしか分

配は起こらない。でも、人間は遠くから食物を運んできて、なおかつ食物を採集する 段階で、自分だけでそれを食べてしまわず に仲間のもとに持ち帰り、仲間と食物を囲んで一緒に共食をする。

そして、この共食を始めたからこそ、人 類は、熱帯雨林という、食物が豊富で安全 な場所を出ていくことができたと考えられ ます。熱帯雨林の外は植物が分散していて、 食物の採集に時間がかかるし、長い距離を 歩かなくちゃいけない。しかも、肉食動物 に襲われたとき、森林だったら木に登れば 助かるけど、木がないから助からない。そ れで、分担しなければならなくなったんで す。身重の女性や小さな子どもは、長い距 離を歩いて食物を探すのには適していない から、安全な場所に隠れていて、屈強な者 が食物を採集して、それを持ち帰って食べ るという行為が始まった。それを実現した のが、人類だけに現れた直立二足歩行とい う変な歩行様式です。二足歩行で自由に なった手で、食物を運んだと思うんですね。

だから人類は、類人猿が進出できなかっ た森林の外で生きのびることができて、それを力にして、社会力を強化して、アフリカの外へと出ていくことができた。そうしたとき、力になったのは共感能力なんではよ。遠くに食料を集めに行った仲間に対して期待をする、何か自分の好きな食物を集めている方は、待っている仲間が頭に持ちたので食べてしまわずに食物を持ち帰る。そういう能力が芽生えた。

しかも、食物を通じて、仲間と自分、仲間同士の関係を紡ぐことができる。つまり、食が仲間の絆を作るっていうことに気が付いたわけだよね。サルも類人猿も、基本的に食べるという行為は、個人的な行為で、仲間と一緒にする行為ではないんです。で

も、人間はわざわざ集まって食べることを 始めた。これが食事という行為なんですよ。 サルから見たら、けんかの原因になる食物 を挟んで、向かい合って食べるなんてとん でもないことです。サルにとっては、強い サルが食物を独占して、弱いサルは別の場 所に探しに行くというのが当たり前だけ ど、それはけんかを防ぐためにできたサル の群れのルールなんですね。

それを人間は食物を間に挟んで、私とあなたは、食物が原因でけんかをするようなことはしませんよ、そういう前提をおいて食事をしているわけだよね。日常的に当たり前のように、食物を囲んで談笑しているから、それを今の人間は忘れてしまっているけれど、人間と共通する胃腸を持ったサルや類人猿にとっては、とんでもない行為なんですよ。

ただ、そのとんでもない行為を始めたからこそ、人間の社会力が向上した。われわれは食事という機会を毎日のようにもつことによって、お互いの絆を確かめ合っているわけです。われわれは、肉食動物のように、3日あるいは1週間に一度、たくさんの肉を食べればいいという胃腸ではなく、毎日何度も食事をとる必要がある。だから、食事という時間も、毎日、何度も巡ってくる。人類は初期の時代に、それを社会的な絆を作るために利用したんですね。

それが今、全く忘れられている。食事というのは、会社の上司や嫌な家族とも一緒に食べたりしなければならない、むしろ煩わしいものだと考えて、自分が好きなものを、好きな時間に、好きな場所で食べられるということを欲求した。だから、コンド食品などが産業になったわけです。そうして自分の欲求を満たすことはできたかもしれないけれど、食べるという行為に、人間

の社会的意味が強く付与されていたことを 忘れちゃったわけだね。そのおかげで人々 のつながりが薄れた。

食事というのは、もちろん、しがらみといった意味では厄介なものかもしれないけれど、人と人とを出会わせ、人と人とをつなぎ留める大きな機能があったんですよ。それがこのコロナ禍で、さらに失われてしまった。これは非常にネガティブな影響が出てくると思いますね。

たとえプラスチックの壁を隔ていたとしても、同じ場所で、同じ味を共有しながら食事という時間を作ることは必要だと思うよ。面倒だからみんな個食にしましょう、レストランに行かないようにしましょう、飲み会も辞めましょう、というのは一時的には仕方がないとしたって、それを良いことに、外に出かけなくなったらダメだよなと思いますね。

【加賀美】共に食事をとることに、社会的な大きな意味があったのですね。

ちなみに、コロナ禍以前、京都大学の学 食にボッチ席と呼ばれる一人用のスペース ができて話題になったことがありました。 こうした、一人だけど集団の中で食事する ということにも、同じような意味があるの でしょうか。

【山極】ボッチ席ができたのはね、あの当時の、非常に屈折した若者の精神的な悩みが表れているわけです。みんなで食べたいんだけど、そういう勇気がない。だけど1人で食事しているのを見られたくもない。ボッチ席だと、型ができてるわけだから、1人で食べててもそんなに違和感を持たれない。こういう風に、すごく屈折してたわけだよ。

ただ、ぼくは食事というのは最も古い人

間の文化であり、また社交だと思ってるんですよ。社交というからには、ホストやファシリテーターが必要なんだよね。一緒に食事をしましょうと言ったとき、見ず知らずの人がパラパラと勝手に集まってきて、それで食事ができるわけじゃない。そこには、それをファシリテートする人が必要なんだよね。1人で食べたら食事なんてあっという間に終わっちゃうけど、みんなで食べる速度を合わせるから時間かかるじゃないですか。その時間がいんですよ。

信頼や期待、そういったものを人々の間で醸成するには時間が必要で、僕は信頼関係というのは、時間の関数だと思っているんです。時間をかければかけるほど信頼関係は深まる。いかにお金をかけたとしても、30秒や1分足らずじゃあ信頼関係は作れませんよ。

時間をかけるのは、それが何であってもいいんです。スポーツでもいいし、音楽の合奏でもいいし、ゲームでもいい。けれど、さっきも言ったように、食事は必ず1日に数回やってくる行事なんですよ。その機会をもっと有効に利用しなくちゃいけないんじゃないかと思うんだよね。

だから、もし、そういったひとりぼっちをしか食べられない子がいたら、ホスと要作って食事の席に呼んであげるとかも必要でだろうね。ご存じだと思うけれど、全国でだされたがってますがらとしたがってますがいなと一緒に食事という機会に、親と一緒に食事がいなと一緒にないなと一緒にはいるというないなかみんなと一緒にけいない子を呼び集めて、子どもがいなとったも、そこで食事をしながら談笑していまない。これがすごく増えていけれど、実はそれが一番自然に作れる仲間

の関係なんだと思います。特に子どもに とってはね。それを忘れてはいけないん じゃないかな。

共助の仕組みとしての共同体

【加賀美】いま、子どもの話も出ましたが、 山極先生は人間の社会性の特徴を、家族と 地域社会の両立にあると論じられていま す。そうした安定的なつながりを保てる規 模は150人であるという説も紹介されてい ます。これはどういったものなのでしょうか。

【山極】150人というのは、ダンバー数と呼ばれています。人類が脳を大きくするにしたがって増やしてきた集団のサイズであり、現代人の脳の大きさ、だいたい1,400ccの大きさの脳に対応する数なんですね。

200万年前に人間の脳は大きくなり始めたけど、それまではゴリラと同じくらいの脳の大きさだった。そのころの集団は、現在のゴリラの集団サイズ、大体10~20頭ぐらいと同じだろうと言われています。それから200万年前に600ccを超えたときに30人ぐらいになって、さらに50人、100人と脳容量の増大に対応して集団のサイズは大きくなってきた。それが現代人に至ると150人だという話です。

ぼくに言わせると、これは家族と複数の家族を含む共同体のサイズです。「共同体」のサイズですよ。150人が、ただそこにいるわけじゃなくて、そのなかに家族が複数あるわけです。この家族と複数の家族を含んだ共同体という重層構造の社会が、非常に大きな力を発揮したから、人類は世界中に広がることができた。つまり、この重構造は、すごく柔軟性に富んでいて絆が強いから、どんな自然環境にも対応できたん

です。この重層構造があったから、1人では立ち向かえない困難に、みんなで立ち向かうことができた。それが、人類がこれほど発展した理由でしょう。

この重層構造の社会において重要なことは、家族も、150人からなる共同体も、実は言葉でつながっていないってことなんですよ。ぼくは、これが音楽的なコミュニケーションでつながっていると思っています。音楽的コミュニケーションというのは、たとえば祭りのお囃子です。土地の人は、みんな知ってる。盆踊りもみんなできる。そういう音楽的なものです。

こうした音楽的コミュニケーションを拡 大解釈してみると、日常的な身振り、手振 り、仕草、そういったものもみんな共通し ていますよね。方言が共通してるように。 食事だってそうだし、服装だってそうです。 あるいは街並みや家の構造にも、土地土地 の様式がありますよね。本来それは、その 土地土地の身体のリズムに合わせて作られ ている筈で、音楽的と言えるのではないか と思います。そこに言葉は、原則的に介在 しない。人間の身体の中に埋め込まれてい る文化を共有しているからこそ、人々は自 然な流れに沿って交流できる。その証拠 に、異文化の人が入ってきたらすぐに分か るわけです。あっ、ちょっと動きがおかし いなとか、立ち居振る舞いが変だよねって われわれは思うわけです。それは身体のリ ズムによって作られているその共同体の共 有物、要するにコモンズなんですね。

では、コモンズは一体どう機能している のか。たとえば、少し前になるけれど、菅 総理が、自助、共助、公助の順番でやって いきましょうって言ったじゃないですか。

【加賀美】ありましたね。

【山極】みんな、何を言ってるんだって批判したけれど、実際、公助が全然うまくいかなかった。しかも、自助と言われたって困ると。まさに、時代的困難さが来ているわけです。われわれは家族も共同体も希薄になって、個人がバラバラにされたなかで、制度に付き合わされている。だけど、それでは生活できない人が増えてしまっている。

ここで重要なのは共助なんですよ。家族 共同体という重層構造だと思っていたの は、実は共助の仕組みだったわけです。今 われわれが考え直さなくちゃいけない は、この共助をどうやって働かせていない ということです。家族や共同体がどんど 意るいはボッチ席もいいがとれるいはボッチ席もいいがけど、個 をでもまった結果なんですよ。この新型 めてしまった結果なんですよ。この新型 かてしまった結果なんでないか、そうい と助け合ってめて考えるべきなんですね。

共同体とソーシャルキャピタル

この150人は社会関係資本、つまりソーシャルキャピタルと考えていいと思います。この150人は、言葉で結び付いた間柄ではなくて、過去に喜怒哀楽を共にした仲間や、あるいは一緒に暮らした人たちです。そして、そこには身体性が大きく関わっているから、無制限に広がってはいかない。ソーシャルキャピタルは、1,000人や10,000人にはならない。今、われわれはSNSで何百、何千、何万という人とつながってるかもしれないけど、それはソーシャルキャピタルにはならない。

ソーシャルキャピタルは、自分が困難に 直面したときに、疑いもなく相談できる相 手です。個人個人には、それが必要なんです。それがないと安心して暮らすことができないから。政府も自治体も会社も、安心・安全と言う。たしかに安全は科学技術で改善できるかもしれない。けれど、安心はソーシャルキャピタルがもたらしてくれるのであって、安心できる人たちに囲まれていなければわれわれは暮らしていけないんです、本当はね。

なぜなら、どれだけ環境が安全になったとしても、人がそれを破るからです。今年、大阪で精神科の放火殺人事件や、訪問医療していたお医者さんが患者さんの家族に殺された事件などがあったけれど、それらは人の行為なんです。そうした不安心したら、往来を安したなるしたったらなるしたったら、かまたことを行ってきなければ食べられなくうしたことを一切しなくて済むような社会をいるのに、今、またそういう不安が募り始めている。

つまり、ソーシャルキャピタルというものが壊れはじめているわけです。それを、共助によって新たに作り直さなくちゃいけない。そのためには、地域社会でやっていたような社交が必要です。小さいレベルで言えば食事会だし、大きいレベルで言えばお祭りみたいなイベントですよ。そういった集まりを積極的に作っていかないといけない。

でも、今そういうコミュニティは、だんだんできなくなってるわけです。インターネット上で、バーチャルなコミュニティがたくさん出来ているのかもしれないけれど、それはバーチャルなものであって、実際のソーシャルキャピタルとしては機能し

ないんですよ。だからこそ、これから、改めてきちんと作り上げてくことが必要なのではないかと思います。

【加賀美】地域生協でも、みんなで集まってわいわいおしゃべりしたり、食事をしたりといった、日常的な社交や交流がありました。実は今、そうしたものを作り直すことが、社会的に必要になるだろうということですね。

【山極】とくに、シェアとコモンズを拡大することが必要だと思います。今、だんだんと若者がシェアに慣れてきているでしょう。ぼくらの若い時代には、自己実現や自己責任と言われて、みんな一生懸命に個人主義を追求してきたけど、今はシェアが広がっている。理由はコストを下げるためであったり、あるいはモノを通じて人とつながったりするためで、インターネットがそのために利用されている。これはね、いいことだと思うんです。

それに、コモンズを拡大していかなければならない。先程の子ども食堂もコモンズです。それに学校もコモンズですが、今はなかなかコモンズになりにくくなってる。本来、子どもだけの場所じゃないんですよ、学校は。だから、地域社会を巻き込んでいかなければいけない。公立・私立の学校の区別なく、学校というのは子どもを預かるだけの場所ではなくて、地域全体で子どもを育てていく場所だということを思い直したほうがいいんじゃないかと思います。もちろん大学もそうです。

こうした半分コモンズになりかかっているもの、あるいはコモンズになれなくなっているものを、きちんとコモンズに仕立て 直す。これが、これからは必要になると思いますね。 それから、これまでは所有物が人間の価値を決めていたけれど、もうそれは常識でなくなっている。所有物ではなくて、行動が人間の価値を決めるという、考え方の転換を図らなくてはいけない。実際、インなタグラムや Facebook には、自分はこんななましたよという体験しましたよ、これを見ましたよ、といったことを写真や映像であげることが多いですよね。とくに若い人たちは、そうした方に移り始めている。

なぜなら、モノを持っていても、使わなければ意味がないからです。もし自分が使わないのだったら、フリマに出して交換したらいいわけです。そうした方向に経済をシフトさせていくことが必要なのではないかと思います。

『人新世の資本論』を書いた斎藤幸平さんも言っていますけれど、商品価値から使用価値へ。これまでは市場にモノがあふれていた。そのなかから、値段を見て、あるいは機能を見て、消費者が選んで買いった。だから商品が余ってしまったんですよ。だけど、使用価値を重視すれば、モノは使ってなんぼだとなりますし、まだ使えるものであれば交換すればよいということになる。つまり、値段と使う価値が、必ずしも一致しないということを覚えたわけです。

今、ぼくは京都市動物園の名誉園長を務めていますが、京都市動物園で最近いいなと思う取り組みがあります。それは、農家さんで余った野菜や果物、商品としての規格に乗らないから市場に出せない野菜や果物を、捨てるのだったら頂いて動物たちに餌として与えるというものです。ただ、動物たちだけでなく、人間にとってもこの野菜の味は変わらないはずです。本当は市場

に並べるために形をそろえる必要もなければ、色を付ける必要もない。そういうことを、もう一度見直して、食品の無駄やロスをなくしていかなければいけない。

あまりこういういい方はよくないかもしれないけれど、今までは大企業が商品の買取と販売を一手に引き受けていて、そのなかでさまざまな戦略があった。とくに今は知識集約型社会だから、買取と販売の両方を集めれば集めるほど、消費者を誘導できるわけです。だから、中小企業等がなかなか入りにくくなっているわけだけれども、別の方法はあると思います。

一つが、生産者と消費者を直接つなぐことです。たとえば、子ども食堂は、経営ではないですよね。食材を寄付してもらうなど、ギフトや投資によって賄ってる。あ者が生産者に投資をして、生産者が生産者が生産者に投資をして、生産者が生産ものを消費者に配るということもあれば、生産者は自分が作れる。消費者も、常に自分が作れる。消費者も、常に自分が欲しいものが来るわけではないけれど、生産者がこの家庭にはこれを食べても頼いというものが届く。つまり、信頼、あるいは期待で結ばれるわけです。

今、われわれ消費者は、生産者の顔が見えず、値段がつけられ、均一化された商品を買わされているわけだけど、そうではなくて、作る過程から生産者と一体になって、食物を生産・消費するというラインに参加していけば、食品ロスはなくなるし、信頼関係も生まれると思うんですよ。だからこそ、これからはそういう実践を積極的に進める必要があると思います。

地域のもつ力を活かす道とは

【加賀美】コロナ禍の見通しは不透明ですが、これからの社会を考えるにあたって、 人びとのつながりという点から、今だから こそ考えるべき問題について、先生はどの ようにお考えでしょうか。

【山極】ぼくは、ICTとかAIとか、そういった現代科学の粋を否定しているわけでありません。それらをワイズに、賢く利用するべきだと言っています。

国土交通省が、10年あるいは30年後の日本では過疎や少子高齢化が問題になっていくから、過疎化が進む地域の人たちを都市へ集めるといっているけれど、それは大きな間違いです。過疎こそ強みなんですよ。人々が、それぞれ違った個人の生きがいを見つけながらぶつかり合える。つまり出会いと、気付きをお互いにできる社会というのは貴重なんですね。

たしかに病院が少なくなるとか学校がなくなるとかといったことはあるかもしれないけれど、それを現代の科学技術でカバーしていけばいい。今はもう遠隔診療だってできますし、ドローン使えば薬品を簡単に遠方に届けられる時代がもうすぐ来るでしょう。あるいは遠隔的な授業を併用しながら学校を地域に残して、そこで人々がつながりあっていく。

人間をどんどん都市に集中させてしまった結果が、このパンデミックでしょう。今、やっと東京の転出人口が転入人口を上回りました。これは一時的な現象かもしれないけれど、各地で関係者人口をどう扱うかということが問題になっています。関係者人口というのは、住民票を持っていないけれど、その地域に一定程度居住する人たちです。若い人たちが多いのだけれども、この

人たちをどうやって地域に受け入れて、地域の共同体を作っていくかが問われています。

今までは地域に職がないから若い人たち が残らない、集まらないって言われていま したけれど、僕は逆だと思っていて、若い 人たちが集まれば、仕事が出来るんですよ。 たとえば、僕の教えていた学生が、静岡県 の富士宮にいるのだけど、彼女はエコロ ジックという法人で、地元のエコツーリズ ムをやるガイドなどをしています。その富 士宮は、今、東京から一時的にいわゆるワー ケーションで来る人などが増えている。そ うすると、地元にパン屋が出来るんだよね。 それから酒屋が儲かる。レストランができ る。なぜなら、ワーケーションでみんなテ ント生活をしてるから、食べ物や飲み物な んかを買いに出るわけです。パンを買って きて、テント場で火を焚いて、コーヒーを 沸かして飲む。そういったニーズが増えて くるわけです。

そして、人が集まることで新しいアイディンとが作まれて、いろいろなことができるきったなる。今、日本全体では840万も空き家があるけれど、この空き家も、行政がちょっと手を入れるだけで、若い人たちが低コストで泊まれたり、居住したりできるというに生まれ変わるわけだよね。そうした場所に生まれ変わるわけだよね。そうしたり、林業に携わったりしていけば、新したり、林業に携わったりしていけば、新したり、林業に携わったりしていけば、新したが、韓重まれるわけですよ。そうい方とを、積極的に行政も地域の人たちも支援していかなければならない。

それが、これから日本が諸外国に比べて 発展していく唯一の道ですよ。なぜかと言 うと、今、日本が置かれてる状況は発展途 上国と一緒だからです。東京に人口が集中 してしまっている。これは発展途上国の在 り方です。アメリカのワシントンに、どの くらいの人が住んでいるかというと、60 万人しかいないんですよ。ロンドンだって、 パリだって、ローマだって、1,000万を超 える人口の都市はありません。そういう意 味では、日本は少しおかしいんですよ。

ただ、まだ地域が力を持っているからこ そ、これからの可能性はある。明治に47 都道府県に分かれたわけだけれども、それまでの300を超える藩文化が日本には残っていて、それがいまだに人々のアイデンティティにもなっている。産業自体も、まだ力を持っている。そういうものを生かしながら、これからやっていくことが必要なのではないだろうかと思います。

山極氏は、本インタビューでも触れられていた、ゴリラ研究に基づいた社会の考察について、多数の著作を発表されています。以下、コロナ禍以降に出版された山極氏の近著の一部を紹介します。本インタビューはリモートで行われ、紙幅にも限りがありますので、より詳細な内容に興味のある方は、ぜひ下記作品をご一読ください。



『スマホを捨てたい子ど もたち 野生に学ぶ「未 知の時代」の生き方』 (2020) ポプラ社。



『人生で大事なことはみん なゴリラから教わった』 (2020) 家の光協会。



『京大というジャングル でゴリラ学者が考えたこ と』(2021)朝日新聞出版。

特集 コロナに克つ Ⅱ ~ つながりを紡ぎ続ける

| (梲) オクットマルミー

02

御手洗悠紀(京都大学大学院農学研究科博士後期課程グットマルシェー高橋博之氏に聞く



高橋博之氏

新型コロナショック以後、感染拡大防止の目的から人びとが直接会い、交流を重ねる活動には制限が課されてきた。見知らぬ人同士であれば、一層困難であるように思われる。しかし一方で、急激な生活環境の変化は、多くの人々に自らの生き方や働き方を再考することを促した。そうした中で、人びとが交流するための場としてオンライン空間が再評価されている。

今回は、主に産直プラットフォームを2016年から運営することで、生産者と消費者の交流の場を提供している株式会社ポケットマルシェの取り組みを紹介したい。2022年の3月時点で、登録生産者6,600人、登録利用者約51万人がサービスを利用しており、新型コロナの感染拡大をきっかけにして、生産者数は約3.3倍、利用者数は約10倍に増加した。新型感染症流行の影響も踏まえつつ、オンラインサービスの可能性や、ポケットマルシェ独自の姿勢について代表取締役の高橋博之氏にお話を伺った。

ポケットマルシェ創業まで

【御手洗】高橋氏の取り組みは元々、「NPO法人 東北開墾」(2013 年創設)による食べ物付き情報 誌『食べる通信』という独創的な取り組みから開 始しておられます¹。その関連事業という位置付 けで「ポケットマルシェ」が別法人として立ち上 げられていますが、どのような経緯で産直オンラ インサービスを始められたのでしょうか。

【高橋】事業を立ち上げたきっかけは、2011年3月11日の東日本大震災です。被災地は、実は震災前から生産地として立ち行かなくなっていたところ、津波でとどめ止めを刺されたような形になりました。一方で震災によって、それまで交流のなかった都市に住む人びとが、ボランティアで被災地を訪れました。それは、スーパーでしか食材

を見たことのなかった消費者が、食べ物が 生産される裏側を初めて覗くことでもあ り、結果として食や農の問題を自分事とし て考える契機になりました。費用対効果を 重視して、安い食品を選択する自分のそれ までの行動が、国内農業・漁業や農村の衰 退をもたらしていることに気づいたので す。同時に、自分たちの生活に必要なもの を自らの手で皆と力を合わせながら生み出 す人たちの輝いた姿を見た消費者は、「こ の人から買いたい」という、費用対効果の 最大化以外の物さしを手にしました。

以上のような変化をもたらすことを、震 災のときだけではなく、日常でもやりたい と思ったのが始まりです。「食べ物の裏側 の情報を可視化する」ことで、それが付加 価値になり、生産者が報われる仕組みを作 ろうとしました。ただ最初は事業の経験も 資金も十分にありませんでしたので、食べ 物付きの情報誌『食べる通信』からまず始 めました。

『食べる通信』は生産の裏側を可視化する情報誌をメインにして、付録という形で、食材を都市に住む消費者に届けます。そうすることで、被災地で人びとが体験したことを自宅で疑似体験できるようにしたのです。この取り組みを通して、消費者も食べ物が生産される裏側を知ることや、生産者との双方向コミュニケーションに価値を見出していることを把握することができました。

この取り組みは東北だけではなく、全国に広がっています。しかし、例えば『東北食べる通信』の場合は月刊誌なので、一ヶ月に生産者一人しか紹介できません。これは言い換えると、消費者の食卓を月に一度しか変えられないということです。この頻度だと生産地が疲弊するスピードには到底追いつきません。しかも、『食べる通信』

の場合は情報誌を発行するための編集部が 必要であり、編集者を探すことも障壁に なっていました。

生産者と消費者を直接つなげ、なおかつ 迅速に広げていくにはどうすればいいのか 考えたときに、目についたのがスマート フォンでした。農家や漁師などの生産者が 自ら、自分たちの価値を伝えられるように なれば、『食べる通信』が抱えている発行 頻度や編集部の制約から解放されるのでは ないかと思ったのです。そこで、生産者と 消費者をオンラインでつなげる「ポケット マルシェ」の事業を 2016 年 9 月から始め ました。

ポケットマルシェの 事業内容と理念

【**御手洗**】ポケットマルシェの具体的な事業内容や経営理念について教えていただけますか。

【高橋】ポケットマルシェは全国各地の生産者が旬の食材に自分で値付けを行い、オンラインのマルシェに出品して、利用者がそれを見て買うものであり、産直 EC と呼ばれています。

ただし単なる産直 EC ではなく、「産直 SNS」だと私は表現しています。あらゆる 分野が供給過剰状態の社会において、多く の人が希求しているものが「つながり」や「関係性」だと思っています。だからこそ、SNS がこの 10 年間で爆発的に若い人から お年寄りまで様々な世代に広がっているの ではないでしょうか。

ポケットマルシェを使う消費者は、単に 食べ物を買うだけでなく、自分の食卓を 彩ってくれる、あるいは自分の健康を作っ てくれる生産者とつながって、「ありがと うございました」、「ごちそうさまでした」、 「おいしかったです」を伝えます。

食べ物に本来くっついている、「誰かに 生かされている」、あるいは「誰かを生か している」という、「関わり合い」が今の 社会では見えなくなっています。むしろ、 合理化や機械化のなかで、人と人の「間(あ いだ)にある関係性」は無駄なものとして、 生きる手応えや、リアリティから遠ざがら、 とりで生きている人はいないので、「誰 かに生かされ」・「誰かを生かして」います。 かに生かされ」・「誰かを生かして」います。 う」と言われる、そういう関係性のなかに こそ、生きる手応えやリアリティが立ち現れてくるはずです。

ポケットマルシェは、ただ食べ物を売り 買いする場を提供するだけではなく、生産 者と消費者、あるいは都市と地方の「あい だ」を生み出していくという思想をもって 事業を展開しています。「生かされている」 という思いがあれば、地方や食べ物の生産 現場の疲弊を多くの人が他人事にできなる なります。自分事にできないのは、生産者 と消費者、あるいは都市と地方の「あいだ」 が分断して見えるからです。だから実際に は切れていなくて、つながっていること、 「あいだ」があることを、ポケットマルシェ を利用することで感じて欲しいと思ってい ます。

生産者の自立化をめざして

【御手洗】人と人の「つながり」を広げていくために、新規出品者(生産者)をどのように探しているのでしょうか。

【高橋】これが最初のころは大変でした。 この事業は、出品者がいないと成立しませんが、自分たちで値段を付けて売買するという話は多くの生産者にとって、あまりに「うまい話」で胡散臭く見えます。ですから、簡単に出品者は集まりませんでした。

まず、すでに『食べる通信』で築いてきたネットワークが全国に広がっていたので、それを活用しました。私自身も、とにかく現場に行くことを信条としているで、全国駆けまわって、農家と漁師のよで、全国駆けました。また、メディーのとはお声がけしました。また、こういう売り力もできることを周知できました。新型コロナショック以後、行き場を失った生産物で対えて困った生産者が私の話を思い出してくれて、蒔いていた種が発芽したような形です。

あとは、やはり生産者には生産者の友だちが多いので、農家や漁師自身が自らの体験を SNS で発信すると、口コミで広がっていきました。

【御手洗】生産者が出品者登録をする基準 として、趣味で生産活動している方をお断 りしていますが、基準はどのように決めて いるのでしょうか。

【高橋】登録生産者は、農業や漁業を生業にして生活をしている人たちに限定しています。「産直デフレ」とも言われますが、趣味や生き甲斐で生産活動をしている方が安く出品すると、生業にしている人たちが生活できなくなるような価格崩壊が生じうるので、それは避けなくてはいけません。

【御手洗】なるほど。では出品物の価格は、 どのように設定していますか。 【高橋】農家や漁業者が自身で決めています。従来生産者には価格決定権がありませんでした。このような生産だけして、販売を農協や漁協に委ねる方法は、物が欠乏していた時代には良かったと思います。しかし、フードロスが問題視される飽食の世の中において、食べ物の価値を上げていかなくてはいけません。そのためには生産者自身が、自分たちで再生産可能な価格を設定して、販売していくことが重要です。

【御手洗】再生産可能な価格設定を、これまで価格設定をしてこなかった生産者ができるものなのでしょうか。

【高橋】基本は全部お任せです。上手に販売している生産者の中には、消費者に相談する方もいらっしゃいます。マーケティングの基本は、消費者を知ることです。でも、その消費者から最も遠ざかっていたのが生産者であったと言えます。作ることには天下一品だけど、売ることには疎い、という人たちが多いのです。そうした生産者が直接消費者とやり取りするなかで、「消費者が今求めている物はこういうことだ」、「求めている量はこういうことだ」と知って、マーケティング力を向上させていくのが、直販の面白いところです。

例えば、とある愛媛のみかん農家は、新 しい商品を作ると、「いくらぐらいだった ら売れると思う?」と消費者に聞いていま す。消費者のなかには、バイヤーの経験が ある人もいて、他所の小売店で価格調査を して、生産者に価格提案をします。生産者 自身が全部をするのではなく、それを得意 とする消費者と、一緒に協働するのです。

【御手洗】大変興味深いエピソードです。 マーケティングをこれまでしてこなかった 人がいきなりできるようになるものなのかな、と思っていたのですが、交流のなかで力を向上させていくのですね。

消費者から「生産消費者」に

【高橋】都市に住む消費者の側においても同じことが言えるかと思います。基本的に都市に住む人たちは皆、一生懸命仕事をして、稼いだお金で生活必需品を買っています。そうした人たちを消費者と呼ぶわけですが、生活に必要なものを自ら生み出すということはしていません。そうした状態に倦んで、脱サラをして農業始める人たちもいます。

でも、生産者に自らなる方法以外にも、消費者として生産に参加する方法もあると思います。つまり、先程の生産者に足りていないマーケティングの部分を自ら担うような「生産消費者 (プロシューマー)」(トフラー)になる方法です²。

今日の仕事は極度に分業化しているので、自分が従事する仕事が一体どこの誰の役に立っているのか見えにくくなっています。その中で、自身の仕事に「やりがい」を感じられない人が増えているのではないかと思います。ですから、自分が培ってきた知見を、それを求める生産者のために提供することで、生産者から「ありがとう」、「あなたのお陰で、売れるようになった」と直接お礼を言われることは喜びであり、「やりがい」になります。

このように、生産者が次年度以降も再生 産可能になるように、精神的・経済的リソー スを提供する消費者が登場してくるのも、 求められる変化だと思います。今はまだ、 それは一部でしか起きていませんが、こう した変化が消費社会を変える力になり得る はずです。

【**御手洗**】生産者同様、消費者の新規登録 者の獲得にも苦労があったのでしょうか。

【高橋】利用者を増やすことも、最初はなかなか苦労しました。多忙な現代社会のなかで、最初に「時短」の対象になるのが食事です。私の取り組みに共感を示してくれる人にも、料理をする時間もなかなか確保できないなかで、わざわざアプリを立ち上げて、生産者の情報を見比べて、選択して、生産者とやりとりして、そして注文するという一連の行動をとる時間の余裕はありません、と言われました。

メディアにとりあげていただいたことも 利用者が増えたきっかけではありますが、 新型コロナショックによる「ステイホーム」 で時間が生まれたことが大きかったです。 その時間をより楽しく過ごすには何ができ るか考えたときに、それまで「時短」に よって蔑ろにされてきた食が見出されまし た。しかも、スーパーに外出することは感 染リスクが高いとされ、生産者もまた、売 り先がなくなり困っていました。そのなか で、生産者から直接おいしい食材を買って、 ちょっと時間かけて料理してみようという 消費者が増えました。

このように新型コロナが外部環境の変化をもたらした結果、ポケットマルシェを利用してくれる人は増えました。ですが、これから状況が落ち着いて、みんなが外に出始めたときに、どう対応していくかは課題の一つになります。

【御手洗】たしかに外部環境が元に戻ったら、生活も元通りになってしまうかもしれません。

【高橋】新型コロナの影響で多種多様な消費者がポケットマルシェを利用し始めたので、対応も色々と変えていく必要はあるでしょう。

ですが、サービスを利用する入り口はなんでもいいと、私は思っています。「おいしいものを探したい」というのでも、かちろんいい。だけど、送られた商品がない時に、「送ろうと思ってといたられない時に、「送ろうと思って全のとないが荒れている。というが生産者から届かない。その理由を聞いて、は事場であるととまれている。そうにない。これが農るで野菜でしまってそういか」、「魚を獲るってそういう。とまれている。ときます。「これが農業や漁業でいる。」と、生産する世界についくわけです。

【御手洗】つまり生産者とのやり取りのなかで、消費者自らが食べ物の世界について 気づきを得ていく、ということでしょうか。

【高橋】そうです。「答えを出すのは私たちじゃないよ」と社員には言っています。答えを出すのは、生産者と消費者のつながりです。食べ物を作る人と食べる人が意気投合すると、私たちが想定していなかっただらな楽しいこととか、課題の解決方法だとか、みんなが考えだしていきます。そこに私たちがあいだに入って、「答えがこうだ」と言ってしまうと、なかなか自発性は生まれてきません。ですので、あいだには極力スらないことを私たちは大事にしています。

もちろん販売には責任が伴うわけですが、基本的に自分たちで対応してください というこのスタンスは「冷たい」と言われ ることもあります。私たちがあいだに入っ て、例えば代わりに売ってとをすれば、クレムを聞いてあげるということをすれば、生産者の側からすれば、楽かもしれませにもいる。本のでは、従来の従属構造から生産者は逃れないでしょう。生産者の皆さんが、自分たちで消費者とやり取りをする中でであります。もちつけて、関係性を育んでいると思います。と考えています。方がプラスになると考えています。

【御手洗】あいだに可能な限り入らないことによって、生産者と消費者が、ポケットマルシェ抜きで直接結びつくことはないのでしょうか。

【高橋】それが意外とありません。やはり 生産者が自分だけでネット販売するのは結 構手間がかかり、大変なことです。例えば 配送に関して、私たちはクロネコヤマトと システム連携をしているので、伝票発行の 手間を減らせます。このような手間に関し ては、あいだに入ることで、力になりたい と思っています。

生産者と消費者の「あいだ」を オンラインで「つなぐ|

【御手洗】最後になりますが、生産者および消費者の貴社のサービスに対する評価や 感想を教えてください。

【高橋】まず生産者にとって、自分の言い値で生産品が売れるようになるのは、楽しいことです。これまでは、どんなに手塩にかけて育ててもどこに売られているのかは

分からなかったわけです。でもそれが、売られた先が分かって、どのように食べてもらえたか知ることができるようになります。

農家や漁師の仕事は孤独です。日ごろ、誰に見られるわけでもなく、褒められるわけでもなく、自然を相手に仕事をしています。でも、インターネットの力を使えば、全国各地のどこで生産活動に従事していても、注文が入って、「こんなふうに料理して、食べました」、「食材を使ってお祝いをしました」と伝えてもらえます。そうなると、生産者は、必要とされていることを認識できるようになりますし、仕事にやりがい出てきます。

こうしたやりとりを通して、関係性が築かれていきます。2020 年春に東京都知事が記者会見をした後、買い占め騒動が生じました。その様子は全国ニュースでも職力でも報子は全国ニュースでも悪家や漁師が、東京に住む常連の利用者に「東京は食でもではなるではないだけど、なんでも多いました。単なる生産者と消費者の会話ではなく、まるで上京したわけるもを案ずる親のような会話が生じたわけでもを変するがあら人間的な付き合いしているからこそ、こういう会話が生まれたのだと思います。

これまで生産者と消費者はお互いの顔が 見えなかったので、相手は「利用すべき手 段」のような存在でした。要するに、生産 者はできるだけ手間かけずに高く売りた い、消費者はできるだけ安価にたくさんの ものを得たいという考えが占めています。 この場合、生産者と消費者の「あいだ」に つながりがありません。だけど、人間関係 が育まれるとお互い他人事としては考えら れなくなって、まるで親戚づきあいのよう になっていきます。

こうした関係を築くためには、手間や時間がかかります。この二つにも人間と同様、「間(あいだ)」の字が入っていますが、こうした「あいだ」を省く社会がますますが、こがって、人間らしさとか、人間臭さとができるとができると思います。だからとができると思います。だからこそ、ポケットマルシェはこういう変化をもたらしたいし、実際に一部ですでに変かられたらしたいけるかどうかは、これからの課題です。

食べ物の流通量だけでは、もちろんスーパーには勝てません。やはり、食べ物の裏側に生身の存在である農家や漁師がいることをまず、知ってほしい。それを知らないと、栄養補給のみを目的とするような工業的な食事、つまりスマホの充電のような工業食事が主流になり、その結果として食べ物の価値も下がってしまう。だからこそ、人臓のようになってしまう。だからこそ、人間関係をもう一度、生産者と消費者の「あいだ」に取り戻したいのです。

インタビューを終えて

まん延防止等重点措置の実施に伴い、本稿の元になる取材は Zoom によって行われた。東京と京都という二つの街をつないだのは、インターネット技術である。チャットやメール、音声通話からビデオ通話に至るまで、通信技術はきめ細やかで迅速な情報伝達を可能にしている。一方で、匿名性を利用した誹謗中傷やネット依存症など、オンライン空間の問題点が指摘されているのも、また事実である。

本稿で紹介したポケットマルシェは、感 楽症流行以前から情報やコミュニケーショ 開してきた。 取材のなかで印象的だったた 関してきた。 取材のなかで印象的だったな さしである。 地方に住む生産者と都市に住む は である。 地方に住む生産者と都市に 変者と がり 費者が、 それぞれ自立した存在に変化 する時、生産者や消費者という区分を超えた生身の人間同士のつながりが生まれう て、 とを顔の見えない関係にし、分断 で 場ることもできるが、 遠距離に住む人び とを 「顔の見える関係」にすることもできる。

最後になりますがご多忙の中、取材に応じてくださった、高橋氏、スタッフの皆さまにこの場を借りてお礼申し上げたい。

注

- 1 『食べる通信』については、阿部正幸・渡辺瑛子・ 加賀美太記「一次産業を情報産業へ—生産の『裏 側』の価値を伝える『食べる通信』」『くらしと 協同』、25、2018 年、3-12 頁。も参照のこと。
- 2 アルビン・トフラー、鈴木健次・桜井元雄訳『第 三の波』日本放送出版協会、1980年。

特集 コロナに克つ Ⅱ ~つながりを紡ぎ続ける

03

――協同組合のSNS活用事例にからこその広がりをつくる



増谷博昭氏

はじめに

2019年の総務省の資料によれば、あらゆる産業で DX (デジタルトランスフォーメーション:以下 DX)をスピーディに進めることが求められている¹。同資料の中で、DX とは「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義されている。

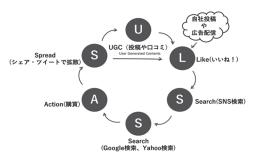
また、DX は、自社の現状や課題の認識を共有した上で、あるべき姿を目指すために次に何をするべきか、アクションについて議論し、実際のアクションにつなげることが重要だと指摘されている。一方、2019 年以降、世界的に新型コロナウイルスが蔓延する中、リアルコミュニケーションや対人コミュニケーションの機会が減少している。それらに代わり、コンピュータやスマートフォン等の機器を用い、インターネット経由で情報の収集、処理、分析等を行い、それら加工された情報を受発信するデジタルコミュニケーションが増大し、コミュニケーション・スタイルが変化している。コミュニケーション・モデルや消費者行動モデルの視角からコミュニケーション・スタイルの変化考えると、『AIDMA(アイドマ)モデル』か

これは、SNS 4 を利用した自社投稿などについて「良い画像を上げること」を意識するのは大事。しかし、「いいね!」やRT(リッイート) 5 が付き、ULSSAS が生まれる仕掛けを作ることがもっと大事。この仕掛けによりマーケティング的な効果 6 が得られる。ULSSAS が回ればシェアも自然と増えるため、SNS を利用したデジタルコミュニケーションの構造や仕組みをつくることが重

ら『ULSSAS(ウルザス)モデル』へ変化²して

いる、と言われている³。

図1 デジタルコミュニケーションにおける 新たなコミュニケーション・モデルの例



出典:Marketing Native「ULSSAS のイメージ図」 から筆者加筆修正

要、ということである。

上記のような DX 時代、デジタルコミュニケーション時代を迎える中、今回は、非営利組織のひとつである全国農業協同組合連合会(以下 JA 全農)の広報・調査部広報企画課の福田敦子氏のインタビューなどを通し、同組織が運用している SNS を取り上げ、DX やデジタルコミュニケーションとの関係について紹介する。

そして、DXをアクションプランとして 組織内へ取り込み、企業文化・風土を変革 し、競争上の優位性を確立すること、また、 デジタルコミュニケーションの構造や仕組 みをつくること、に関する示唆について検 討してみたい。

JA 全農の組織概要

JA全農は、日本全国の農業協同組合、経済農業協同組合連合会(経済連)、専門農協の連合会(専門連)などの連合組織である。主な事業は、生産資材・生活用品の供給と共同利用施設の設置、農畜産物の運搬・加工・貯蔵、販売農業技術・農業経営向上の教育、海外の農協組織と提携した農業の開発協力などであり、事業収益は約6兆円、営業利益は約45億円の巨大な非営

利組織である7。

ヘッドオフィスは東京にあり、従業員数は約8,000名。フードマーケット事業部、 畜産生産部、米穀部、園芸部、耕種資材部などの部署を持っている。このほかにも飼料畜産中央研究所、家畜衛生研究所などの研究施設も保有している。

経営理念は「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」でありく営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。><安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。><地球の環境保全に積極的に取り組みます。>の3つの視点で構成されている。

尚、「JA グループ」全体の中で「JA 全農」 は経済事業を担うポジションとして位置づ けられている。

図2 全国農業協同組合連合会 (JA 全農) の経営理念



出典: JA 全農 HP より 図3 JA グループ組織図



出典:JA グループ ファクトブックより

JA 全農の出版/広報戦略

JA全農は、JAグループの経済事業を担当し、国産農畜産物の販売や農業生産に必要な資材を全国に供給する事業を行った。農家・組合員の農業所得の増大や農業生産力の拡大を支援していくこと、さらにはそうした活動を通じ、国民への安定的な食料供給を果たし、地域の暮らしを守ることが、JA全農に課せられた役割である。そうした役割を果たすうえでキーワードになるのが「農は国の基」、とのコンセプトを新聞や雑誌、TV、ラジオなどのメディアの活用や生産現場での対話などを通し、経済事業へ少出版でも結びつけることが広報・調査部の出版/広報戦略のミッションとなる。

消費者や生産者へメッセージを届けるメディアの一つに今回取り上げる SNS がある。 SNS は JA 全農の Web サイトに「全農ソーシャルメディアアカウントー覧」として掲載されている。 2022 年 2 月現 在、Twitter や Instagram、Facebook、YouTube に 16 アカウント 8 を持っている。

JA 全農の SNS 活用内容

LINEを含め Twitter、Instagram、Facebook、YouTube などの SNS は利用者数や機能などに違いがある。全世界での利用者数の1番目は Facebookで 29億1,200万人。2番目は YouTubeの 20億人、3番目は Instagramの10億人、4番目は Twitterで3億3,000万人、5番目は LINEの1億9,000万人である。しかし、日本で利用者数が最も多いのは LINEで9,000万人、2番目が YouTubeの6,900万人、3番目は Twitterで4,500万人、4番目は Instagramの3,300万人、5番目は Facebookで2,600

万人となっている⁹。

また、Twitter はニュースや話題が素早く広範囲に共有される特徴を持ち、リツイート機能で、他者の投稿を自分のページに投稿することが可能である。拡散の速さや広がりは他の SNS より特筆している。Instagram は利用者が直感的に楽しめる写真や動画の投稿が可能である。Facebookはビジネスにも使われることもあり、コミュニティづくりを目的として利用されることが多い。YouTube の最大特徴は動画再生に特化していることである。

2019年7月からはじめたJA全農のTwitter「日本の食を味わう」では、様々な国産素材を利用した料理レシピや贈答品に利用できる花のアレンジなどのコンテンツを掲載し、16万人以上のフォロワー(登録読者)がついている。一般的に10万人を超えるフォロワーがついていれば、ミドルインフルエンサー10と呼ばれ、ネット上で大きな知名度と影響力を持っていると考えられている。

「日本の食を味わう」は、JA 全農が非営利団体という難しい組織¹¹でありながら、16万人を超えるフォロワーがつくとともに、新聞、雑誌、NHK のニュースなどで紹介されるなど、広報戦略としては成功事例と言える¹²。

成功要因は凡そ以下のように考えられる。「日本の食を味わう」は、単なる料理レシピ紹介だけではなく、日本各地の農産物・畜産物を利用した料理レシピが掲載されていること。日本各地で開催されるマルシェや食品フェアの告知をしていること。更には新規就農者研修説明会の開催告知などを掲載し、フォロワー間のコミュニティ形成を促進させるコンテンツ発信を行っていることがあげられる。

また、食品ロスや食品廃棄問題などの社

図4 JA 全農の Twitter「日本の食を味わう」

出典: JA 全農 HP より

会性の高い記事を掲載することで、生産者、 消費者の双方に食に関する問題提起を行っ ていることも、成功理由の一つではないか。

加えて言えば、JA全農のコンテンツ戦略は、ネット上にいくつも存在する料理レシピ紹介サイトとは異なったビジネスモデルとなっている。例えば、有名な料理レシピ紹介サイトのビジネスモデルの成功要因は、顧客セグメントを「無料会員と有料会員に分離したこと」「魅力的なレシピを選定していること」などがあげられる。また、芸能人や有名料理研究家のサイトは、知名度・認知度を活用したビジネスモデルで、好感度アップやレシピ本の販促を狙っている。大手食品メーカー等のサイトは、自社商品の販売促進のためのビジネスモデルとなっている。

ビジネスモデルは経済的収益を上げるための事業構造と解釈されるが、経済的収益だけではなく、価値創造を共創する為やソーシャル・グッド ¹³ を創出する為の事業構造と捉えることもできる。

非営利団体のJA全農の場合、SNSを利用しフォロワーと生産者の架け橋となることで双方の共創価値を作り上げている。具体的には「日本の食を味わう」のフォロワー

は、JA 全農が取り扱う農産物・畜産物などの長期的なファンとなり、結果的に生産者のモチベーション向上や収益などへ還元される。また、「日本の食を味わう」のフォロワー間で、新商品開発や新たなサービス展開が生まれる可能性もあり、体験的な価値の創造にもつながる。

従って、JA 全農の SNS のコンテンツ戦略は、経営理念の「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」や「農は国の基」のコンセプトに沿った展開がされているため、SNSを利用した広報戦略の成功は偶然ではないと考えられる。

オフラインとオンライン

新型コロナウイルスの影響は「新しい生活様式」の導入とともにアナログコミュニケーション(以下オフラインと表記)からデジタルコミュニケーションへ(以下オンラインと表記)とコミュニケーション・スタイルを変化させた。例えば、学校や企業ではWebを利用したオンライン授業・会議が急速に広まった。また、飲食関係ではネット注文による宅配サービスが急拡大している。更に、外出自粛によりネットショッ

ピングの需要が高まっている。

こうした社会的変化が進行する中、ネット上での情報収集、動画閲覧、ショッピングに充てる時間が増加し、対面型のコミュニケーション(オフライン)が減少したことで、その代わりとなる SNS やメールなどを利用したオンラインが増加している¹⁴。

オフラインとオンラインを利用したマーケティング手法はいくつかあり、そのひとつに OMO マーケティング (Online Merges Offline) がある。これは、ネット上で商品やサービスに関する情報提供を行い、実店舗での購買行動に影響を与えるような仕掛け (例えば、ネットで注文し、実店舗で商品を受取る)を施すなどのマーケティングを指す。

JA 全農の実施している SNS の活用は OMO マーケティングのひとつである。「日 本の食を味わう」サイトを通し、JA 全農 が取り扱う様々な商品やサービスに関する 情報を Twitter 利用者へ提供することで、 オンラインからオフラインへ、オフライン からオンラインへの人、モノ、情報の流れ をマネジメントしながら、共創価値の創造 を行っている。そして、JA 全農は OMO マーケティングを通し、DX を実現してい る。それは、福田氏の次の言葉に表され ている。『SNS を多くの方々に利用しても らっていることは素直に嬉しいですね。そ して、驚いたこともあります。SNS をス タートさせてから、各部署が、こんな話が あるんだけど…!こんな商品を紹介でき る?といった声やアイデアをたくさん出し てくれるようになりました。組織文化や風 土が変革した、とまでは言えませんが、組 織内の反響の大きさに驚きと広報担当とし てのやりがいを感じています。』

まとめと今後の展望

国としてのDX 推進や新型コロナウイルスの発生など、外的要因はあったもののJA 全農の実施している「日本の食を味わう」のSNS 利用はデジタル時代に適合したマーケティング戦略の一つの成功事例だろう。その理由は、JA 全農の経営理念「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」や「農は国の基」のコンセプトに沿い、広報部門が他部署の協力を得つつ、共創価値やソーシャル・グッドを創造する仕組みを作り上げた内的要因に依るところが大きいからである。

そして、組織外部とのコミュニケーションツールの SNS は、DX のアクションプランとして組織内へ取り込むことにもつながっている。結果、外部とのリレーションシップが強固になるとともに組織内部の空気感が変わり、広報担当者らのモチベーションアップにつながっている。

言い換えれば、SNSというオンラインの仕組みを取り入れることにより、組織内外とのオフラインを含めた関係性が向上している。こうした取り組み方の事例から、他組織も示唆を得ることができる。

尚、「日本の食を味わう」は Twitter のため、短文(原則、全角で 140 文字、半角で 280 文字)と画像・動画しか扱えない。それは、拡散性を重視した機能に特化したサービスだからである。従って、何か詳しい情報を提供したい場合は、他の SNS を利用する必要がある。

JA 全農では、情報がフローとして過ぎ 去ってしまう Twitter では難しい JA 全農 の食への想いや食材にまつわるストーリー などを、もっと深く話しができる、note (ノート) ¹⁵ という新たな SNS を 2020 年 10 月からスタートさせている。 noteでは、産地ブランドのリブランディングの話題や農業現場で深刻な問題となっている生産者の高齢化と人手不足の話題を含め、農業市場の問題や社会問題などの記事も掲載している。今後、6次産業化の課題、農家直販サイトとの共存など、どのような話題をnoteで取り上げ、JA全農の想いを消費者や生産者に向けたストーリーとして展開できるのか、そして、今後どのような共創価値やソーシャル・グッドを新たに創出できるのかは未だ分からない。

しかし「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」との理念や「農は国の基」のコンセプトを具体化、メッセージ化する挑戦的な取り組みとして期待したい。

<謝辞>本稿は JA 全農広報・調査部広報 企画課の福田敦子氏へのオンラインでの取 材により執筆しました。取材にご協力いた だいた福田氏をはじめスタッフのみなさま に心より感謝いたします。

【主な参考文献】

飯髙悠太 (2019) 『僕らは SNS でモノを買う』, ディスカヴァー・トゥエンティワン.

ピーター・ドラッカー (1995)『非営利組織の「自己評価手法」- 参加型マネジメントへのワークブック』, ダイヤモンド社.

【主な引用サイト】

JA 全農 https://www.zennoh.or.jp/ JA グループ https://org.ja-group.jp/ 経済産業省 https://www.meti.go.jp/press/2019/07/ 20190731003/20190731003.html

消費者庁 https://www.caa.go.jp/policies/policy/ consumer_research/white_paper/ assets/2021_whitepaper_0003.pdf

総務省統計局 https://www.stat.go.jp/data/joukyou/pdf/n_joukyo.pdf

Marketing Native https://marketingnative.jp/marketing-innovator-yuta-iitaka/

株式会社フルスピード (Full Speed Inc.) https://growthseed.jp/experts/sns/number-of-users/

- 1 経済産業省 HP 参照。
- 2 Attention:注意⇒ Interest: 関心⇒ Desire: 欲求⇒ Memory:記憶⇒ Action:行動
 U = UGC: User Generated Contents: ユーザーが
 SNS (Social Networking Service: Facebook、
 Instagram、LINE、Twitter等が代表的なサービ
 ス) に投稿するコンテンツや口コミなど。L =
 Like S = Search1(SNS)S = Search 2(Google、
 Yahoo!) A=Action S = Spread。
- 3 Marketing Native 参照。
- 4 Social Networking Service: Web 上で、友人、 趣味の合う人などと文字や写真、動画などを使 いコミュニケーションするサービス。
- 5 ツイートは、Twitter 上にメッセージ(文字や画像など)を投稿すること、もしくは、投稿されたメッセージを指し、リツイートは他者もしくは自分の投稿を再度投稿すること。
- 6 組織(企業等)のブランドを含む商品やサービスの価値を最大化し"結果としての利益"を獲得すること、とする。
- 7 日本の一般企業と比較した場合、6兆円を超える 売上げがある企業は十数社。
- 8 ネット利用者が企業や個人のサイトなどにログイン(ネット利用者の身元等を識別しサイトにアクセスするための資格情報を取得するための操作)するための権利。
- 9 「SNS の利用者数とユーザー属性や特徴まとめ」 (株式会社フルスピード) HP 参照。
- 10 SNS のフォロワー数が 100 万人以上をメガインフルエンサー、10 万人~ 100 万人をミドルインフルエンサー、1 万人~ 10 万人をマイクロインフルエンサー、1000 人~ 1 万人をナノインフルエンサーと呼んでいる。
- 11 非営利組織のマネジメントは、ビジネスよりも 難しい。なぜならば、非営利組織はビジネスと 違い、業績を計るための利潤という物差しがな いからである。財務的な判定基準によって自ら を律することがない(ドラッカー1995)。
- 12 JA 全農の全ての SNS に 10 万人以上のフォロ ワーいるわけではない。
- 13 地球環境や社会活動に対し、良い影響を与える 商品やサービスの開発・販売、活動全般を指す。
- 14 総務省統計局 HP、消費者庁 HP 参照。
- 15 文章、画像、音声、動画などの記事を投稿でき、 他の SNS へも拡散できる。

特集 コロナに克つ Ⅱ ~ つながりを紡ぎ続ける

04

〜COOP WEB PROJECTリアルとオンラインを架橋する

| 聞き手 | 楊/樂華 (徳山大学経済学部 講師||プ九州事業連合||事業政策支援本部CRM推進部||プロデジンで、「東音/





近藤 將来氏(左)・古江 啓二氏(右)

はじめに

今回お話をうかがったのは、コープ九州事業連合(以下コープ九州)で管理本部機関運営・広報部門を担う古江啓二氏と事業政策支援本部 CRM 推進部門を担う近藤將来氏である。

これまで、生協の広報企画の取り組みは紙媒体 である商品カタログや各生協のサイトの商品情報 の掲載が中心だったため、生協の商品の価値や組 合員とのコミュニケーションを大事にする「協同 | を理念とする価値が内外に十分に伝えられていな いと長い間言われ続けてきた。従来の広告のよう なものを目にすることで生協の商品の価値や生協 そのものの価値が届かなくなることがある。特に SNS の時代において、組合員(消費者)に生協 の商品の価値や生協そのものの価値に共感しても らうためには、生協は組合員と共同で多様なコン テンツを発信したり、共感したりすることが必要 となるのではないか。今回、コンテンツの発信を 重視するコープ九州の取材を通じて、コープ九州 の COOP WEB PROJECT をめぐる取り組み、組 合員とのコミュニケーションの変化、およびコロ ナの影響や今後の展望について、古江氏と近藤氏 にお話をうかがった。

コープ九州と COOP WEB PROJECT の特徴

【楊】コープ九州はほかの事業連合と比べて、 COOP WEB PROJECT 以外、どういった特徴が あるのでしょうか。

【古江】コープ九州は九州・沖縄の8県の生協で 構成しています。コープ九州とエフコープの本部 は同じ建物の中にあるので、管理部門の一部は部 署を統合していますが、他の会員生協は個々の地 域の特徴を尊重して、商品の調達以外は本部機能 もそれぞれの会員生協ごとに独立しています。コープ九州では、会員生協のメリットの拡大とコスト削減を追求するため、商品の仕入れやシステム、物流などを共同して事業を進めています。

コープ九州事業連合

コープ九州事業連合は 1993 年に、九州・沖縄 8 生協の出資により発足。現在、組合員数は 199 万人、供給高は 2,187 億円 (2021 年 3 月 8 生協の合計)。事業内容については、商品の開発・改善や仕入れ、物流やシステムの運用・整備、リサイクル事業などを担う。

【楊】以前ご紹介いただいた際、COOP WEB LABO の取り組みは、カタログ改革から繋がっているといったお話があったかと思いますが、どういった経過だったのでしょうか?

【近藤】カタログ改革は、会員生協の組合 員から長い間「生協は良いことやっている のに、宣伝が下手よね。」と言われ続けて きたことがきっかけになったと聞いていま す。そこから、宣伝下手つまり「ロベタ」 を解消すべく価格訴求ではなく、価値訴求 への転換を図るために、生協が提供してい る商品価値を見直す様々な取り組みがカタ ログや紙のツールを通じて行われてきました。

そして、2014年にコミュニケーションツールとしてのITの活用に着目し、生協の商品価値や生協そのものの価値の訴求に特化したサイトの試行を始めました。それまでは、カタログや資料に書かれている情報は、使ったら終わりでしたが、サイトに掲載することでWebの環境がある方であれば、いつでも、どこでも、情報を取り出せることが出来るようになりました。そし

て、最終的にはサイトから、必要な情報を 紙に持ってくることが出来るようになれば という議論も当時のメンバーで行っていま した。

【楊】今、運営しているウェブサイト COOP WEB PROJECT は COOP WEB LABO とどんな関連性があるのでしょう か。また、このサイトを始められた意図は どのような点にあったのでしょうか。

【近藤】「くらしと協同」2018年夏号 N0.25 に書かれている内容が基本的な取り組みのきっかけではありますが、COOP WEB PROJECT と改称したのは、2019年になるかと思います。

COOP WEB LABO は2014年の下期、2017年下期に、「SATETO」と「TSUKURO」というものを作りました。それと同じぐらいの時期に、「日に日にコープ」という漫画もつくりました。これらは、コンテンツの制作を検討していく中で、COOP WEB LABO のコンセプトとは違うが、組合員にとっては必要な情報ではないかといった議論を行い、役割を整理した上でサイトを分けるということを行いました。

そして「こういう活動全体を1つにまとめることで、生協がこれまでやってきたこと、これからやることも含めてプロジェクトとして全体の関係性が見えるようにしたほうがよいのではないか」という話がありました。

それまでは、ばらばらのサイトで、多くの組合員から「何がどこにあるのか分からない」、「サイトの関係性がつかみづらい」といった意見を頂いていました。そこで、全体のサイトの総合案内所的な位置付けとして、COOP WEB PROJECT を立ち上げました。



図 1 複数のサイトが組み合わさった COOP WEB PROJECT

【楊】確かに総合案内所の画面に行ったら、いくつかの関連のサイトが表示されていますね。それぞれのサイトの特徴について、少しご紹介いただけますでしょうか。

【近藤】たとえば、「SATETO」は、くら しの中にあるさまざまな知恵を集めるとい うコンセプトのもと、料理レシピを中心に コープ商品の背景や使い方、おいしく食べ るために家庭で気をつけたい衛生管理な ど、くらしに身近な話題をコンテンツ化し ているサイトです。また、「TSUKURO」は、 組合員さんの声で改善された事例や、声が 商品開発・改善にどう活かされているのか といったことをご紹介し、組合員さんから 気軽にアイデアをだしてもらうことで、組 合員さんと一緒に「つくっていく」という ことをコンセプトにしているサイトです。 「組合員の声に応えて」で紹介している改 善事例は、いくつかの会員生協の機関紙な どにサイトの二次元コードと併せて掲示し ていただいています。

このようなサイトにある情報は、自由に活用してくださいということを会員生協に向けて発信をしています。コープおおいたさんのLINEや生協コープかごしまさんのTwitterでSATETOのコンテンツを「コープ九州のサイト」ということではなく、自

分たちの情報として発信していただいているのを見たときは本当にうれしいです。どのように活用していいのかわからないということもお聞きしたりしますので、今以上にもっと気軽に活用していただけることを考えていきたいと思っています。

【楊】この COOP WEB は会員生協と組合員さんのコミュニケーションの場になるのですね。実際のサイトの記事や動画は、組合員以外の一般消費者も対象にしておりますか。

【近藤】もちろん組合員や生協職員ということを意識はしていますが、対象としては、組合員かそうでないかということについては、特に区別はしていないですね。生協くいうことを前面に出さずに自分たちのしたよくしたい表して生協に加入してります。そこに、共感して生協に加入して自分に、共感に言うと生協の組合員はがそういう情報に自信を持って自分たちがそういってきたことの積み重ねが、この今のサイト作りにつながっていると思います。そちは他の方に発信していただくと考えています。

【楊】COOP WEB を立ち上げる際、コープ 九州の内外はどんな反応だったでしょうか。

【近藤】初めは、新しいコンテンツではなく、既に持っていた情報を整理し、コンテンツ化したりしていました。サイトのデザインについては、いい意味で生協らしくない雰囲気で、きれいといったような反応があったり、これからどんなコンテンツができてくるのかが楽しみというご意見だったりがある一方、商品の利用促進等、事業として

どう活用していくのか?厳しいご意見もた くさんいただきました。

情報が少しずつ増えてくると、会員生協によっては、新人の仲間づくりの成約担当等に学習してもらう情報として活用できるとご報告もいただけるようになりました。 最近では、九州以外の生協の方が興味を示していただき、情報交換させていただく機会もあります。

【**楊**】「日に日にコープ」という漫画は、非常に面白いですね。

【近藤】ありがとうございます。制作チー ムの皆さんが、とても喜ぶと思います。日 に日にコープは、実際に生協を利用する中 で組合員として感じている事や、日常的に 寄せられている組合員の声を中心に漫画の ネタをみんなで考えています。そのネタを もとに、漫画を描いていただいているデザ イナーの稲田ゆきこさんがふくらましてく れて、考えもしなかった漫画になって出て きます。伝えたいことは、漫画の中だけで はなく、漫画とセットになっているテキス トも含めて考えていることで、よりネタの 面白い部分に光を当てた漫画ができるのだ と思います。生協職員だけでは決して考え つかないような表現がたくさんあって、関 わっている私が一番楽しんでいるかもしれ ません。

【楊】最近の活動をご紹介いただけますで しょうか。

【近藤】去年は、生協コープかごしまの組合員活動に携わる方から組合員の交流会の中で、「SATETO」の学習会をしてほしいと声をかけていただきました。コロナ禍でリアルな活動が制限されていますが、組合

員活動をオンラインだけではなく、ひとりからはじめられることもあるのではないかという検討の中で、「SATETO」にして着目いただくこととなりました。

このようなことをきっかけにして、会員 生協への情報提供や、ミーティングの参加 を呼び掛けたりということをやっています。

組合員との コミュニケーション変化

【楊】この COOP WEB の開始以前と後では、コープ九州は組合員とのコミュニケーションには何か変化はあるのでしょうか。

【古江】以前は、確かにコープ九州に直接 声を届けたりするという場は少なく、ホームページに広報宛てのアドレスというのが あるぐらいで、組合員さん側からコープ九 州に直接何か声を発する場というのはそん なにありませんでした。今はこのサイトが あるので、知っている方は書き込んでいた だけるというようなことにはなってきてい ます。

【楊】より多くの生活者にこの COOP WEB を知ってもらうために、コープ九州 はどんな工夫をしましたか。

【近藤】カタログに載せたことも何回かありますけれども、やはりカタログのなかで、この2次元コードを見つけて、そこを読み取られる方は非常に少ないのが実態です。ここ数年は、できればウェブからウェブに行ってもらいたいということで、eフレンズという EC サイトから COOP WEBに飛んでもらうような仕掛けをいろいろとしております。それをおこなっている1つ

が、KARTEというウェブの接客ツールですね。そういうツールを入れて、eフレンズに来たときにポップアップを表示させて、そこを経由してCOOPWEBに誘導しています。「日に日にコープ」だと1週間1万人ぐらいが、そこに見に来るようになります。新しいコンテンツを立ち上げた時や、今見てほしいコンテンツがあったりすると、できるだけ多くの方に見ていただくことで少しでも商品の利用につながるようなきっかけづくりができればと思ってやっています。

【楊】COOP WEB 以外には、専用アプリ も展開しておりますか。

【近藤】今は売り場を作ろうと考えております。もともとeフレンズという日生協さんが作られているECの基盤のサイトがありますが、やはり制約もいろいろと多いので、なかなか自由にできないところもたくさんあります。アプリは、単品の商品を音声で検索するためだけの単機能の「SATETO商品情報検索」アプリというものを準備しています。

また、商品の利用と結び付けたいということも考えております。以前、eフレンズの基盤移行に関わった際に、非常に制約が多くなかなか自由にできない環境だということを知りました。これまでに蓄積してきた情報、特に「SATETO」は日常のくらは近い情報がたくさんありますので、「情報」をいかに流用しながら、複数のプロモーションを考えつつ、商品の利用に結びつけられないかということを考えています。

COOP WEB の運営

【楊】COOP WEB を立ち上げる際、3カ年で1億5000万円の費用を想定したと聞きましたが、大きな投資ですね。このサイトの運営・管理は外部に委託しておりますか。

【近藤】そうですね。基本的には、福岡にある会社にコンテンツの制作、それからサイトの管理、全部お願いをしています。そこで、毎週オンラインかリアルで打ち合わせを行っています。基本的なところは、「どういう方向に向かっていくのか」という確認と、「どういうコンテンツをやりましょうか」という話をお互いやりながら、コンテンツを作っているところです。

【楊】コンテンツを作る時、大事なことは ありましたでしょうか。

【近藤】私がコープ九州に出向してきて間もないころからかかわっている事なので、初めはコンテンツを作ることで精いっぱいになっていた時期もありました。

2015年にコンテンツの量を増やしていくために、複数の会社にコンペにご参加いただきました。今は、その会社を中心にコンテンツ企画・制作を一緒にやっていますが、先ほどお話ししたようにどこに向かっていくのかということに一番時間を使っています。コンテンツの一つ一つは、もちろん重要ですが、情報をどう貯めて、将来的にどう活用していくか。といったことを議論することが多いです。

また、コンテンツを作っていく上では、 組織内のいろんな部署の方にお願いするこ とも多いです。せっかく協力していただい て作ったコンテンツなので、少しでも多く の方に見ていただけるような機会もできる だけ作れるように気を付けています。

【楊】組合員(消費者)が共感できるコンテンツの開発・制作は重要ですね。ほかの会員生協との連携はいかがですか。

【近藤】最近は、「日に日にコープ」のミーティングに会員生協にご参加いただきたくて声掛けを行っています。COOP WEB で作っているコンテンツは、会員生協で自由に活用していただけるように制作していますので、そのことを認知いただきたいということと、当事者として関わっていただく機会を作っていくことで、より会員生協にとって自分たちの情報として活用いただける場面ができてくるのではないかと考えています。

コロナの影響と今後の展望

【**楊**】新型コロナウイルスがコープ九州や 会員生協にどんな影響を与えましたか。

【古江】各会員生協の場では、やはり組合員を増やしていく仲間づくりのところで直接訪問というのができなくなったんです。もちろん、ウェブで加入できる仕組みがあったので、それで加入される方はいらっしゃいました。組合員の数も増え、注文の数も去年の春以降、急激に増えて、物流がパンクする状態もありました。

当時は苦渋の決断でお取引先にもお願いして、商品は出せるけれども、物流の調整のために計画欠品で商品を停める状況も起こりました。かなり商品担当は苦しかったようです。お取引先へも、ずいぶんご迷惑をお掛けするような状況が発生しましたの

で、その後は調整して、ある程度の数が発 注されても対応できる体制づくりを構築し ていると聞いています。

【楊】計画欠品について、「日に日にコープ」というサイトには、コロナ渦での商品配達・物流状況に関わる漫画記事が載っていますよね。こういう漫画は役に立ちましたか。

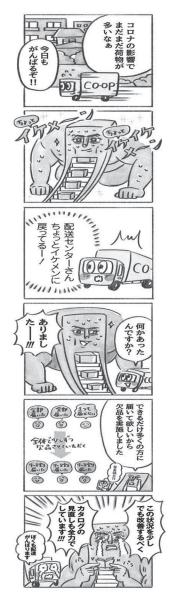


図2「日に日にコープ」サイト。テーマは072. コロコロなコミック計画欠品。

【近藤】組合員からも、どういう状況か分からなからなから、すごくもやもやしのたたけれども、この漫画を見て、組合員のためにいるな方たちが尽力しているもりましてもようなことをきっかけにムなられた。このようなことをきアルタイムな合けにして発信では、リアルタインち合わせにして発信でしました。デザレーを頻繁にするようにしました。デザレーが、オンラインでの打ち合わせにしたことでもは、県外で子育でも忙しいたとで、オンラインでの打ち合わせにしたことでもは、県外で子育でしました。で、を月に2回程度するようになりました。

それ以外では、SATETOのレシピを掲載していただいている料理家さんのお宅での撮影も難しい状況がありましたので、自宅で工夫されている事等、料理家さん一人ひとりにいろんなアイデアを出していただいてお料理レターというコンテンツを急遽作りました。どんな情報を発信すれば、組合員さんたちのくらしを少しでも楽しく変えられるかを考えていました。

【楊】コロナ渦で多くの消費者の買い物や 交流の場がリアルからネットに移行してい ます。組合員さんとのコミュニケーション には、どのような変化があったのでしょう か。

【近藤】多くの方が、ウェブを使った情報収集やコミュニケーションを始めざるを得ない環境になったのだろうと思います。そういう意味で、先ほど話した生協コープかごしまでは、このウェブを使って、自分たち一人一人が学習できるような、支援をしていきたい人が会員生協からも出ています。この COOP WEB をより近くに感じてもらえる状況になってきたので、そういったところで組合員さんとのコミュニケー

ションが少し変わったのではないかと思っています。

毎年5月に組合員商品活動交流会という イベントを、福岡で実施していますが、今 回はオンラインで実施することになりまし た。

その際、事前の学習動画を掲載し、開催後のアーカイブを作成する等、COOP WEB を情報の置き場所として活用し、リアルな環境ではなかなかご参加いただけないような人数にサイトを訪問していただき、学習していただける機会になったと思っています。

【楊】コロナ渦で COOP WEB の取り組みや役割もいろいろ変わったとおっしゃられましたが、「参加と協同」を目指すという点で今後考えておられることはありますか。

【近藤】コロナという状況で、暮らしがやはり変わらざるを得ないという環境になったのだろうとは思います。ただ、このサイトを始めた当初から、目指していることは、さほど変わってはいません。一番は、ウェブという媒体を使って、一人一人の暮らしがより豊かになるような環境をどうやって作れるかということを模索していきたいと思っていますし、それを模索してきた8年だったと思います。

今、少し構想しているのは、1つは消費者同士のコミュニケーションの形もどんどん変わってきており、例えば、若い世代の方になると、もう Google での検索ではなく SNS 上での検索というのが中心になってきたりしているところなど、情報の信頼性という意味で言うと、やはり企業が発信している情報ではなく、消費者が発信している情報、特に自分に近い方が発信されて

いる情報ですね。我々としては、一人一人が暮らす上で必要な情報をお届けしたり、 みんなで共有したりするために、SNSの 活用というのも、これからいろいろと考え ていきたいと思っています。

あとは情報の整理ですね。これまで作ってきた情報をさらに見やすく、使いやすく変化させていきたいと思っています。例えば、「SATETO」というサイトにはレシピがたくさんありますが、今その「SATETO」のサイトを開いて単純にレシピだけ見ようと思うと、非常に見づらいんですね。何がどこにあるか分からないというような状況もありますので、今ある情報をまずは整理して、レシピを見たいという人には、もうすぐにいろいろな条件で検索をかけらことを考えています。

やっていくことはこれまでの考えと変わらずに、「協同」ということをキーワードにして、いろんな人たちが自分たちで暮らしをより良くしていくための情報を、どうやっていろんな媒体で使えるようにするかということを、いろいろと考えていきたいと思っています。

【楊】わかりました。本日は貴重なお話を ありがとうございました。

【謝辞】

本稿の執筆にあたっては、コープ九州の事業政策支援本部 CRM 推進部の近藤將来様と管理本部機関運営・広報部の古江啓二様にインタビューにご協力いただきました。新型コロナウイルス「オミクロン株」の影響もあり、現地取材がかなわず、オンラインでの取材になったなかで、多くの情報をご提供いただきました。末筆にはなりますが、改めてご協力に御礼申し上げます。

特集 コロナに克つ Ⅱ ~ つながりを紡ぎ続ける

05 入学生物理工学部 感染対策を行った生協食堂

新型コロナウイルス感染症の拡大により、大き く様相が変わったもののひとつが、大学である。 授業は、感染状況に応じて、インターネットを使 用するオンライン授業と教室での対面授業が適宜 切り替えられ、現時点で全ての授業が対面授業に 戻った大学はまだ限られている。クラブ活動等の 課外活動には一定の制限が設けられ、大学祭など のイベントは2年もの間、中止か大幅な規模縮小 に迫られている。大学内での活動のみならず、日 常生活においても影響を受けた学生は多く、経済 的に困窮する学生や、食の機会に困った学生は少 なくない。このような大学および大学生の姿に連 動して同じく大きな影響を受けているのが、大学 生協である。特に食堂の運営に関しては、学生の 食を支えるという重責と、感染を拡大させないこ との両方をいかにして実現させるかという点で大 きな葛藤を抱え、頭を悩ませてきた。

未だ終わりが見えないコロナ禍であるが、大学生協は生活必需品である食を提供するために様々な工夫を行い、状況に合わせた取り組みを行ってきた。本稿では、この2年間、大学生協が、学生の食についてどのように議論し、実際にどのようなアプローチをしてきたのかを紹介する。なお、特別な記述がない限り、本稿で述べる内容は、主に北海道、東北、東京、東海、関西北陸、九州の6ブロック(地区)の様子を総合したものである。

コロナ禍における大学および大学生協の様子

はじめに、新型コロナウイルス感染症が拡大しはじめた 2020 年 3 月から現在までの間、大学や食堂を含む大学生協がどのような様子だったかを時系列で整理したい。

① 2020年3月~9月ごろ

2020年3月から5月の間は、一斉休校、全都

道府県への緊急事態宣言の発出があり、大 学内に学生の姿がほとんど見られなくなっ た。生協食堂も全国のほぼ全ての大学で休 業または超小規模営業を余儀なくされ、供 給も量、金額ともに大きく落ち込んだ。学 生の様子を把握することも困難になり、大 学生協はほとんど身動きがとれない状況と なった。

6月以降は、大学の授業は行われたものの、教室を使用しない遠隔授業やオンライン授業が中心となり、学内での活動は基本的には停止していた。そのため、学内人口は回復せず、生協の供給も停滞状態が続いた。

② 2020年10月~2021年3月ごろ

9月までに比べると、全国的に学内での 活動を再開する傾向にあり、学内人口もや や回復した。しかし、12月の感染再拡大、 1月以降の入試等への備え、大都市圏にお ける2回目の緊急事態宣言発出やその後の まん延防止等重点措置の適用の影響を受 け、学内活動の方針や許容範囲は短い周期 で変更された。学内活動の状況が定まらな いため、それに連動して、生協および生協 食堂の供給も浮き沈みを繰り返した。また、 この時期にはそもそも新型コロナウイルス 感染症への対応方針が都道府県や大学ごと に異なっており、個別の大学生協単位では ともかく、ブロック単位や大学生協事業連 合FS (フードサービス) 事業部(食に関 する事業を取り扱っている)では学生の動 きを包括的に把握しにくいという課題が生 じた。大学間で学内活動や生協の供給状況 に大きな差が生まれ、特に大学生協事業連 合 FS 事業部では対応に苦慮する場面が増 加した。

③ 2021 年 4 月~現在

新年度は、対面授業や学内活動を一定程

度許容した形でスタートした。しかし、2~3月の感染拡大の流れを十分に押さえ込めていなかったことや、大学生をはじめとした若い世代で感染者が急増したことの影響を受け、4月後半から再び、大都市圏を中心に緊急事態宣言(3回目)が発出された。ただし、学内活動を全面禁止とした大学は限定されたため、生協の供給も、前年のような大きな落ち込みは免れた。

緊急事態宣言の解除後は、学内活動のさらなる再開によって、学内人口に回復の兆しが見られたものの、デルタ株の流行や、特に東京を中心とした地域ではオリンピック後の感染拡大などもあり、前年同様に生協の供給は短い周期での浮き沈みを繰り返した。10月以降はワクチン接種が進んだことも手伝って、学内人口はさらに回復したが、最終的な生協の供給は、19年度比の6割程度にとどまる大学が多く、しかも、西日本や地方大学に限られた。

20年度に比べると、21年度の特徴には、 感染拡大の影響が都市部だけでなく、地方 にも及んだ点。そして、生協の供給は前年 同様に、大学ごとには大きな差があるもの の、ブロック単位で見た場合、ブロックご との差は小さくなった点の2点が挙げられる。

コロナ禍における 学生の食生活・体調の変化

前述のように、学生不在となったキャンパスにおいては、大学生協と学生の関わりが希薄にならざるを得ず、生協が学生の様子を把握することも難しくなった。これは全国の大学生協に共通の状況であり、なおかつ、学生生活に深くかかわる立場としては大きな課題だったことから、全国大学生活協同組合連合会(以下、大学生協連とす

る)では2020年の4月、5月、7月の3回にわたって、全国の大学生を対象に、コロナ禍における勉強・授業やアルバイトを含む日常生活の様子、困りごとについてのアンケート調査を実施した。ここでは7月実施分から、質問項目をふたつ抜粋し、コロナ禍における学生の食生活や体調にどのような変化が生じたのかを紹介する。

この調査では、食生活について、「食生 活での不安があれば教えてください」とい う質問について、当てはまる選択肢をすべ て選ぶ方式 (複数回答) で回答を求めてい る。その結果、「栄養バランスが悪い」を 選択した学生が 3,249 名にも上り、これは 全回答者(9,086名)の35.8%にあたる。 ほかにも、「体重が増えた」と回答した学 生が21.9%(1.993名)を占めた。また、 体調に関しては「最近の体調で気になるこ とはありますか」という質問をしている。 こちらも複数回答で回答を求めたところ、 「やる気が起きない」が46.0%(4.183名)、 「目の疲れ」が45.3%(4.120名)、「ストレ スを感じる」が41.5%(3.768名)となった。 一方で、「特に問題はない」とした学生は 17.3% (1.572 名) にとどまった。

調査時期である 2020 年 7 月は、全国的に遠隔授業やオンライン授業が主として実施され、課外活動の多くは活動が停止されていた時期である。これらふたつの質問と回答を見る限りでは、学内活動の制限を含む、コロナ禍での生活の変容は学生の食生活や体調に相当の影響を及ぼしたと読み取れる。

なお、紙幅の都合から、ここでは以上の 紹介に留めるが、当該アンケートでは学生 生活に関する多くの質問がなされ、興味深 い結果が得られている。本稿末尾の参考資 料欄に結果の公表先を掲載するので、参考 にされたい。

コロナ禍の大学生協における 食に関する取り組み

以上のことを背景に、大学生協が学生の生活を食の面から支えるために行ってきた取り組みを具体例を挙げながらみていきたい。ただし、食に関する取り組みといっても非常に多岐にわたるため、①食事の提供方法に関すること、②食事機会の確保に関すること、③栄養面でのサポート、④経済面でのサポート、⑤生活必需品の提供、⑥人間関係の構築に関すること、の6つに分けて接近する。

なお、言うまでもないが、手指消毒用アルコール、カウンターにおける飛沫防止カーテン、卓上仕切りといった備品の設置、および、座席数の間引きや必要な距離の確保といった基本的な対策は大学生協のすべての食堂・店舗で実施している。

①食事の提供方法に関すること

大学における飲食品提供の中心である食 堂は、言うまでもなく、休業や時短営業、 規模を縮小しての営業をせざるを得なく なった。また、感染対策を行って営業を継 続しても、座席の間引きによって収容人数 が減少したことへの対応や、密を回避する ための対策が求められたため、食事をとる ことに不便が生じないよう、様々な代替手 段が講じられた。

多くの大学生協では食堂や売店・購買以外の場所で弁当等の臨時販売を行った。それだけでなく、従来のテイクアウト商品に加えて新たなメニューの開発や、内製弁当(学内の施設で調理した弁当)の製造・販売を新規に開始した大学も多数あった。その他にも、カフェ業態(喫茶)の店舗を、テイクアウト商品の販売店舗に変更するという対応をとった大学もあった。また、食

堂における従来のカフェテリア形式の食事提供と並行して、食堂用メニューの一部をテイクアウト用容器に盛り付けて提供するという対応をとった大学もあった。東日本の大学ではこのようなメニューを「学食BENTO」と名付け、例えば盛岡大学生協では写真1のように日替わりで複数メニューを提供している。



写真 1 盛岡大学生協における「学食 BENTO」の案内 出所:盛岡大学生協 Twitter より転載

②食事機会の確保に関すること

学内での活動機会が失われたことや、大学生協・食堂が休業・時短営業を行ったことの影響は、学生の食事機会の喪失という形でも表れた。そのため、各大学生協に直接寄せられた要望や地域の実情に合わせて、食事機会が確保できるような方法が検討されてきた。

2020年4月の一斉休校期間には休業した生協食堂も多かったが、九州・北陸等の地方は大都市圏に比べると感染者数がさほど多くなかったため、一人暮らしの学生の比率が高い国立大学を中心に、非常に厳しい感染対策を講じて、食事の提供を行った例がある。これは、市中の飲食店も休業したため、食事をとれる場所が著しく減少したという状況に鑑みたものだが、この取り組みに対しては、大学生協が対応してくれ

たので、安心だし、ありがたいという声もあった。

他にも、個別の大学の取り組みとして、 大分大学生協では、無料通信アプリ LINE を利用して学生のニーズを調査した。その 結果、夕食営業への要望が多数寄せられた ため、当初は昼食時間帯のみとしていた食 堂の営業時間を夕食時にも拡大し、結果的 に利用者も増加した。

東北大学生協では、一人暮らしの学生を 念頭に、冷凍弁当の配達を開始した。これ は、食堂で提供しているメニューを冷凍の 弁当形式にして、学生の自宅へ届けるサー ビスである。5食分が1セットになってい るため、2~3日は食事の心配から解放さ れる上、ミールカードでの支払いが可能な ため、金銭的な負担も多少軽減される。な お、当該サービスの開始にあたり、東北大 学生協では急速冷凍機を導入した。

③栄養面でのサポート

前出の大学生協連のアンケート結果にも 表れていたように、自らの食生活における 栄養バランスの悪さを自覚している学生は 多い。そこで生協でも、栄養バランスが偏 らないような食生活の提案など、栄養面か らのサポートも行った。

東日本の主要な大学では、食堂利用者だけでなく、食堂用メニューのテイクアウト利用者を対象に、栄養バランスを考慮した食べ合わせを提案する POP を掲出した(写真 2)。

また、本稿では省略したが、大学生協連 アンケートにおいて、自炊機会が増えた学 生が一定数存在することが明らかになった ため、大学生協連と大学生協事業連合の管 理栄養士が中心となって自炊レシピの提案 を行っている。不足しがちな栄養素を手軽 に補えるメニュー、お金と時間がなくても



写真 2 食べ合わせ提案の POP 出所:大学生協事業連合・高橋氏提供

作れるメニュー、料理が苦手な人でも作れるメニューの3つにテーマを絞り、学生委員との調理実演会の実施や、大学生協連及び大学生協事業連合の HP への掲載、冊子(データ版)の配布などを行って普及に努めている。レシピの詳細は、参考資料欄に掲載する URL を参照いただきたい。

オンラインでの食生活相談会を実施した 大学生協も複数あった。食生活相談会は、 コロナ禍以前も対面で行っていたが、自宅 からでも栄養士に気軽に相談ができるよ う、オンラインで実施することとなった。 対面実施時に比べると参加者が少なく、小 規模での開催となったが、学生からの、食 生活に危機感を持っているが改善方法がわ からない、といった質問に対してワンポイ ントアドバイスを行い、好評を博した。食 生活相談会は、生協単独での取り組みにと どまらず、大学の保健センター等と共催し た例もある。

TwitterやHPを利用し、食堂のメニューについての情報発信を強化した大学生協も多い。これは、学外からでもその日の食堂のメニューを知ることができれば、あのメニューを食べたいから食堂に行く、しっかり食事をとりたいから食堂に行く、行動に結びつくのではないか、という考えに基づいている。

4経済面でのサポート

コロナ禍では、アルバイト先が休業になるなどの理由から、アルバイトができない、あるいは時間数が減ったという学生も多数存在する。そのような学生にとっては、日々の食費は大きな負担となり、いかにして抑えるかが生活面での重要な課題のひとつとなった。

全国の多くの生協食堂では、学生の経済 的な負担を少しでも軽くできるよう、割引 価格でメニューを提供する機会を作った。 ワンコインでの食事を可能にした「100円 ランチ」や「100円弁当」は各大学や大 学後援会等の支援を受けて実現した例が 多い。また、全国の生協食堂にて期間限 定で行った「ライス 10 円引きキャンペー ン」は、農林水産省の協替を受けたもので ある。他にも、地元の JA や生産者団体か ら食材の提供を受けた大学が多数あり、そ の食材を使用したメニューは割引価格で販 売された。なお、提供を受けた食材は米が 多く、これは長期保存が可能という理由に 加えて、市中の飲食店の時短営業や休業に 伴って、米の消費量が減少したため、大学 生協で消費を促進してほしいという背景が ある。割引価格でのメニュー提供は学生の 家計に直接的な効果があるため、利用者か

らも大変喜ばれた。

また、一部の大学では、長期休暇や年末 年始に帰省が叶わなかった学生が利用でき るよう、長期休暇中の食堂の営業時間を拡 大したり、食事費用の一部を大学側が負担 した例もある。

また、本来は食費負担を軽減するための 仕組みであるミールカードについても、食 堂の利用回数の減少や営業時間の短縮を理 由に、限度額まで使い切れないという声が 寄せられた。そのため、返金や、利用対象 を売店・購買で販売する商品にまで拡大し た大学も多数あった。

⑤生活必需品の提供

経済面でのサポートと類似しているが、 食料や日用品といった生活必需品(物資) の無料配布を実施した大学も全国に多数存 在する。生活必需品の配布は、地域生協や 地元の企業・団体から協力を受けて実現し たものも多く、なかには、フードバンクの ように日頃から生活支援のノウハウを蓄積 している団体からの協力を得た大学もあっ た。

⑥人間関係の構築に関すること

これまでは、食事は友達や先輩後輩との 繋がりを広げるためのツールのひとつであ り、食堂は人が集い、人間関係を構築する 場という役割を果たしていた。しかし、コ ロナ禍ではそのような機会は激減し、食堂 は単なる「食事を済ませる場」となってい る。また、1年生を中心とする少なくない 割合の学生が、学内に友達がいない、とい う悩みを抱えるようになったため、感染状 況が比較的落ち着いていた 2020 年 9~10 月ごろには、いくつかの大学においてサー クル活動の勧誘や1年生向けの友達づくり のイベント等が実施されることもあった。



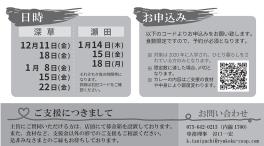


写真3 龍谷大学生協「ご縁カレー」の案内 出所:龍谷大学生協 HP より転載

k.taniguchi@ryukoku-coo

なかでも、食を通じた企画として、龍谷 大学生協で提供された「ご縁カレー」を挙 げることができる (写真3)。「ご縁カレー」 とは、日頃生協とつながりのある事業者か ら寄付を募り、一人暮らしの1年生に無料 で振る舞われたカレーのことである。食事 中は上級生が声をかけてコミュニケーショ ンを図り、人との「ご縁」も感じてもらえ るような時間にした。この様子は NHK の 京都地域向けニュースでも紹介され、番組 のHPより映像が閲覧できる。末尾の参考 資料欄にて映像の参照先を示しておく。

また、市中の感染状況に応じて、大学側 と相談の上で、パーテーションの数を必 要最小限にするなど、感染対策とコミュ ニケーションの場の提供が両立できるよ う、柔軟な対策をとることを心掛けている

生協食堂もある。例えば、宮崎大学生協では、食堂を感染源にしないための対策会議を月1回程度設けている。この会議は、生協、大学の担当者に加えて、産業医がメメバーとなっていることが大きな特徴で、学内の保健だけでなく、学内の保健をフターに寄せられる相談内容(コナ対策としている、などメンタルヘルスに関するものを含む)も重視して食堂内の感染対策を検討している。

まとめにかえて 一大学生協・生協食堂に、 今後、求められること

本稿では、2020年3月以降の大学、および、食堂を中心とした大学生協の様子を紹介した。大学生協では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって苦境に立たされた学生を食の面から支えるために、どのような方策が打ち出せるかを常に議論してきた。一回限りの企画から現在も継続中の取り組みまで、規模も大小さまざまだが、感染対策を行いながら学生の支援になることを積極的に行っている。

今後は、ブロックや大学によっては対面 授業の割合が一層増加すると見込まれてい るため、利用者が集中する時間帯の混雑を さらに緩和するための対策や、短時間で食 事を提供できるような業態を検討する必要 があると考えている。また、感染が落ち着 いている時期には、前述の宮崎大学生協の ように可能な範囲で制限を緩和し、憩い・ 交流の場としての食堂の機能を回復したい という意向もある。

ところで、市中の感染状況や大学の活動 方針にあわせて、時短営業や休業を繰り返 したことの影響は、生協自身にも重くのしかかっており、この2年間、全国の大学生協はほぼ例外なく、大きな赤字を計上している。また、元々、大学の食堂運営を担っていた一般の給食業者が撤退するケースも相次いでおり、そのあとを生協が引き受けるパターンも少なくない。

生協の供給高は学内人口との関連が大きく、仮に大都市圏や大規模大学において、部分的とはいえオンライン授業が継続されると、生協にとっては依然として苦しい状況が続くと予想されている。先が見通せない状況の中で事業規模を維持し、経営を成立させるためにどのような方策が打ち出せるのかが、すでに大きな課題となっている。

本稿の執筆にあたっては、大学生協事業 連合東4地区FS事業部商品課の高橋亮子 様にご協力いただきました。記して感謝申 し上げます。

参考資料

大学生協連実施 学生アンケートの結果 「『第3弾 大学生向けアンケート』7月実 施版 結果報告」(大学生協連 HP より) https://www.univcoop.or.jp/covid19/ recruitment_thr/index.html

自炊レシピの提案

「フライパン1つでできる、超カンタン★ レシピ」(大学生協連 HP より)

https://www.univcoop.or.jp/parents/cooking/fryingpan/index.html

龍谷大学生協「ご縁カレー」の紹介

「ワタシの半径5m コロナ禍の学生を支援する"ご縁カレー"」(NHK 京都放送局HPより)

https://www.nhk.or.jp/kyoto-blog/gakuseiouen/index 2.html

学生座談会

大学生のいまーオンラインと大学

【出席者】

田中 陽菜 龍谷大学経営学部2回生。

池田 智咲 札幌学院大学心理学部2年。

寺山 有美 弘前大学農学部2年生。

村上 結菜 東北大学法学部2年生。

澤木 翔 群馬大学教育学部3年。

井上 明香 日本女子大学理学部3年。

古賀 蒼大 長崎県立大学佐世保校地域創造学部3年。

【コーディネーター】

只友 景士 龍谷大学政策学部 教授

【只友】本日は、お忙しいところお集まり 頂きましてありがとうございます。私は、 龍谷大学の教員の只友景士と申します。最 初に、今日の学生座談会の趣旨を説明して おきましょう。本誌は、地域生協の方々を 主な読者とする雑誌なのですが、読者の皆 さんのところにも「コロナ禍で大学生の生 活は大変らしい」という話が伝わってき ているのですが、「学生の実態はどうなの か?」とお感じの人が多いようです。そこ で、今日の企画は、コロナ禍における大学 生のリアルな実態を知ってもらうことを目 的としています。大学の外の世界の皆さん に、オンライン授業がなされる大学の今の 学びの状況や大学生の暮らしの状況なんか を知ってもらいたいと考えています。

自己紹介と大学の状況

【只友】最初に、自己紹介も兼ねて皆さんの大学の様子について教えてください。2回生から生きましょうかね。トップバッターは、田中さんからお願いします。

【田中】龍谷大学経 営学部2回生の田中 陽菜と申します。今 日はよろしくお願い します。龍谷大学の 様子ですが、今年の 前期は週2回、言語 の授業だけが対面授



業でそれ以外は全部オンライン授業でした。一応、週に2回だけ学校に通っていました。周りの友達とかは、学部の専攻科目とかでも対面の授業が結構増えていたの

で、去年に比べるとすごい対面授業とか、 大学の中の人の多さとか食堂とかも昼休み すごい列になっていたので、結構対面も増 えてきているのかなっていう印象でいました。課外活動とかも、大学の活動制限レベルによって対面オッケーのときと、対面駄目っていうときがあるんですけど、今年の前期は、緊急事態のときは対面駄目だったんですけど、後期とかはほとんど対面できたので、大学の制限も緩くなって活動できたので、大学の制限も緩くなっていう印象でいます。

【只**友**】はい、ありがとうございます。田中さんは、後期もそうだった?後期も言語だけだった?

【田中】後期も言語だけでした。

【只友】そうですか。それも実は学部の特性によってちょっと違っていたりとかったみたいですね。ありがとうございます。それでは、次の2回生は、池田さんお願いします。

【池田】はい、全国 大学生協連合会北海 道ブロックで学生事 務局を務めておりま す。札幌学院大学心 理学部臨床心理学 科2年の池田智咲で す。今日はよろしく



お願いします。札幌学院大学の様子は、前期は一時期立ち入り制限が入りまして、後期は制限が少しかかりつつも大学には少し入れるような状況でした。心理学部は結構ロールプレイといってコミュニケーションをとる科目が多いのですが、それでも3分の1くらいが対面で、残りは遠隔授業が多かっ

たですね。

他の学部、法学部とか経営経済学部とかだと、もう半期に1、2科目くらいしか対面の授業がないだとか、3年生になってくると、ほとんど対面はなかったという話も聞いています。課外活動は、年に3分の1くらいの日数は対面が許可されていたのですけれども、サークル棟や体育館などサークル活動する場所が立ち入り制限になったりしていて、札幌市近郊ということもあって、コロナの影響が大きかったかなと思います。

【只友】はい、ありがとうございます。 じゃあ、次の2回生は、寺山さん、お願いいたします。

【寺山】全国大学生 協連合会東北ブロッ クで学生事務局を務 めております、弘前 大学2年生の寺山有 美と言います。テラ と呼ばれています。 弘前大学の状況は、



2年生の2021年前期のときは、特にコロ ナの影響はそれほどでもなく、普通に全面 対面授業で冬休み前までは全部対面で た。ところが、冬休み明けてから学内で 染者が出たりするようになって、弘前市の ほうで感染が拡大して、今も「まん防」出 ていたりとかしました。そのため、1月か さいたりとかしました。そのため、1月か も多くがオンライン授業に切り替わったが も多くがオンライン授業に切り替わったが もの教授によって、対面授業って 行われたのは、やむを得ない実験とか、て 当の教授によっては、私の所属する農学部では、 先生が実験を操作しているのをオンライン で見せるっていうような授業が展開されていたりしていました。

【只友】ありがとうございます。そうですね、たぶん弘前大学にとっては、2021年の2年目のほうが大変だったかな。20年はあんまり影響受けなかったんじゃないかな?

【寺山】2020年は、前期かな。前期は、さすがに日本国内でバタバタしてたので、それはさすがに。

【只友】なるほど、その頃は全国に緊急事態宣言が出されたしね。ありがとうございました。それでは、次の2回生は、村上さん、お願いします。

【村上】はい、全国 大学生協連合会東北 ブロックで学生事務 局をしています。東 北大学法学部2年生 の村上結菜です。出 身は岩手県盛岡市で す。東北大学の状況



は2021年の前期はほとんど全部の授業が オンラインでしたが、後期は週に5コマぐ らいが対面になって、だいたい3割から4 割ぐらい私は対面授業を受けることができ ました。2021年前期は、大学がやや慎重で、 BCPレベルが、国内で緊急事態宣言とか が出されるとあんまり活動ができないって いうふうになっていたので、対面授業も、 全員は集まれないので、事前に来る人を集 約して対面授業でやるとかっていう方式が とられている授業がありました。言語の授 業で対面がある人もいたのですけど、私の とっていた授業は、先生が持病を持ってい

らっしゃったりして、念のためにオンライ ンでやることになっていました。そのため 言語の授業でも対面授業はほとんど経験し ませんでした。後期はちょっと緩和されて、 初めて対面授業に本格的に参加した感じに なりました。先生によって対応も様々あり ました。ある先生は、後期も対面ではほと んどオンラインで生徒がプレゼンテーショ ンをやるような授業だったり、あとは、対 面でも全員参加の対面授業は少なくて、対 面授業でもやるし、その授業を録画してオ ンラインにも上げて、オンデマンドで対応 してくださる先生もいらっしゃったりしま した。そうしてもらうと対面授業とオンデ マンド授業のどちらでも好きな方を学生が 選べる様になるので便利でした。

【只友】はい、ありがとうございます。村上さん、ひょっとして 20 年の後期もオンラインが多めでした?

【村上】そうですね、1年生のときはほとんどオンラインでした。

【只友】ということは、2回生の後期でやっと対面授業やったっていう感じだったのかな?

【村上】はい。2回生になって、ほとんど 初めて対面授業という感じでした。友だち にも全然会っていなかったです。

【只友】ああ、そうですか。私は東北大学の公共政策大学院に集中講義に行っているんですけど、2020年2021年と2年連続でオンライン授業やりましたね。東北大学は、結構慎重な対応だったのですね。よく判りました。それでは、次から3回生ですね。澤木君お願いします。

【澤木】はい、群馬 大学教育学部数学専 攻の3年になります 澤木翔です。自分は ちょっと2020年度 の話からすると、群 馬大学はコロナ対策 凄く厳しくて、実習



実験だけ対面っていうことでした。私はあまりそういう授業取らないものなので、昨年度はたぶん1年で5回ぐらいしか大学行ってないという感じです。それで2021年度になってからは、4月ぐらいは、人数が少ない講義だけ対面で始まりましたが、他はオンラインという感じでした。5、6月頃にまたコロナが少し流行ったてきたということで、一度全面オンラインに切り替わり、7月になってオンラインだったのを少し対面に戻したというかたちで前期が終わりました。

後期はちょっと私、教育実習があったの で、授業をほとんど取ってないんですけど、 教育実習の話をすると、付属の学校に行く ときは100人ぐらいでまとめて教育実習行 くのですけど、そのときは人数が多い関係 もあって児童生徒との接触は基本なしとさ れました。自分が授業するときは教室入っ てやりますが、他の人の授業を見るときは 廊下からの参観になりました。そして、休 み時間とか昼休みは控室で待っているとい う感じでした。授業の練習はできたのです けれども、あまり子どもとは接することが できなかったというかたちで教育実習は終 わりました。後期は確か対面授業がわりと ありました。私も対面授業を取っていた ので、対面で受けていましたが、2021年 1月にまたコロナ流行っちゃったので、全 面オンラインになりました。課外活動もだ いたい同じような感じで、できたりできな

かったりを繰り返している感じです。

【只友】はい、ありがとうございます。そうか、教育実習も教室に入るときぐらいしか直接は児童と接しなかったという感じだったのですね。分かりました、どうもありがとうございます。教育実習の期間は一応3週間やったのですか?

【澤木】群馬大学は実習2回ありまして、5週間プラス3週間です。そして、5週間のほうが付属校のほうに私は行きましたが、こちらが先ほど話したようになりました。3週間のほうは県内の公立の小中学校で、そのときはずっと教室にいられました。

【只友】ああ、そうでしたか。

【**澤木**】教育実習も学校によって対応が ちょっと違ったようです。

【只友】龍谷大学からも毎年何百人か全国に教育実習に行っています。昨年から文部科学省が特例を認めているので、実習期間3週間のところ2週間に短縮したりとか。それから、実習を受け入れる予定だったのに受け入れが取りやめになったりした事例もでています。そのような場合は、代替措置を学内で執ったりしなけばいけなかったりとか、なかなか大変でした。

はい、ありがとうございます。じゃあ次の3回生は、井上さんお願いします。

【井上】日本女子大学の理学部3年の井上明香と申します。日本女子大学は都内の文京区にあるので、わりとこの2年間は制限が多かった大学かなと思っています。2020年は、私自身は一度も大学に行かないまま1年間を過ごしました。すべてオンライン

授業で。2021年に 入ってからは週1日 だけ登校してい専立 た。私は数学の専攻 でして、数学系の演 習の授業やゼミとか の研究室の関連だけ が対面で、それ以外



はオンラインでした。大学の課外活動の制限としては、緊急事態宣言が出ているときはもうすべて禁止で、何か今みたいに「まん延防止」が出ているときは、大学への申請が通れば許されるって感じだったので、サークルの活動内容によっては、なかなかできない状況が続いていました。

【只友】はい、ありがとうございます。 じゃ あ次、最後の3回生、古賀くんお願いしま す。

【古賀】はい、本日 はご参加させていた だきありがとうござ います。全国大学生 協連合会九州ブロッ めで学生事務局も賀 めております、古賀 蒼大です。私は、長



崎県立大学佐世保校の地域創造学部実践経済学科というところに所属しています。よ るしくお願いいたします。

長崎県立大学の現状としては、まず授業 形態から話します。授業は、一応大学側か らは「オンラインと対面を大体半々、1対 1くらいで」っていうことになっています。 ただ、授業によっては100人規模とか、結 構大規模で授業するっていう場合もありま す。その場合には、オンラインで授業をす るっていうところもありました。なので、 ゼミとかそういった少数の授業の場合は先 生の判断で、対面で行うという対応を取っ ていました。1年生のときに言語を必ず取 らないといけないんですけど、英語の授業 とかやっていて、それも1年生に聞いてみ ると、オンラインでやりましたっていうの を聞いてたりして。で、初めて同い年の友 だちと対面で、授業で会いましたっていう のが、確か前期の後半ぐらいになって、やっ と初めて会いましたっていうことを言って いました。サークル活動に関しても、基 本、僕の大学は比較的、そこまで制限は掛 けられたりとかはしてはいなかったんです けど、やっぱりどうしても佐世保が最近に なって結構感染者が、人口比で比べると高 い感染率を出しているので、そういった場 合にはサークル活動が全面的に禁止になっ たりとかしている状況ですね。

【只友】はい、ありがとうございます。 ひととおり皆さん 自己紹介も兼ねて、 さっと大学の様子いを話してもらいま した。まん延防止事態



宣言が出たりとかすると、対面授業からオンライン授業に切り替わったり、厳しい課外活動の制限が出ていたり、規制が解除されると対面再開とかが繰り返されたといった現状が明らかになったかなと思います。

コロナ禍での学生生活 ~コロナ世代の日常~

【只友】次に、このようなコロナ禍での学 生生活について、聞かせてもらいたいと思 います。

今度は3回生から聞いていきたいと思います。3回生は1回生のときにコロナ以前の大学を経験しています。今では、すごく貴重な経験になりつつあります。今の4回生は、この2022年3月で卒業します。コロナ以前の大学ってこうだったっていうのを知っている人は、2022年度には、今の3回生だけになってしまいます。コロナ以前との対比をしながら、コロナ禍での学生生活、「コロナ世代の日常」を聞かせてください。

それでは、3回生の古賀君からお願いで きますか?

【古賀】はい。そうですね、コロナ前と比 べると、一番に挙げられるのが授業の形態 が対面からオンラインに切り替わったって いうところですね。単純にオンラインに切 り替わったというところで、学生としては 結構助かったなっていう部分もあります し、それでもやっぱり「ちょっと」ってい うところもあります。オンデマンド型授業 やリアルタイム型授業とか、先生によって 違うのですが、学生にとって良かったなっ て思うところは、オンデマンド授業であれ ば、自分の好きな時間に、自分で計画を立 てて勉強できるっていうところが良かった なと思っています。あと、対面授業ではど うしても大学に行かないと受講できなかっ たのですが、オンライン授業であれば、家 ですぐ受講できる。朝起きて直ぐにパソコ ンを開いて Zoom に参加するといったこと も可能で、コロナ前の対面の授業に比べれ ば、少し大学生にとってはちょっと楽に なったかなっては思います。

【只友】絶対それあるよね、私も「先生! 9時始まりの授業に出るのに、7時半に起 きなきゃいけなかったのが、オンライン・ ライブだったら8時55分でいいんですよ」 と学生から聞いたことがあります。

【古賀】そうですね。学生の中には、片道 2時間かかっている人もいて。そういった 学生からしたら、それこそさっきの先生の 話のように、授業始まる5分前に起きても 何とかなるみたいな感じで、そこは良かっ たよねっていう話はしていました。

一方で、オンライン授業では、対面のときと比べて、どうしても学びを得られたっていう実感が薄くなったと凄く感じています。例えば、授業の最後の試験であったりとかも、対面が難しいということで、Googleフォームであったりとかのオンラインでのテストとかもありましたし、レポート形式での成績評価などがあったりとかしました。そうしたなかで、自分はこの授業で学びを得られたのだろうか、ちゃんと身についているんだろうかっていう不安が残るところがありました。

【只友】ありがとうございます。学生のリアルな実態として今のような話ちょっと聞きたかったですね。ありがとうございます。 次の3回生は、井上さんお願いします。

【井上】私は、この2年間、対面授業とオンライン授業を経験して、両方を比べたときに、「人との距離感が凄く変わったな」と思っています。対面授業のときは、授業で分からないこととかがあったときに、ちろん周りに友人がいるので、小さなことでも聞けたり、先生にすぐ聞いたりっことができる環境だったのですが、この2年間、オンライン授業では、何かちょっとしたことで先生に聞きづらい環境になってしまったっていうところがすごく大きな

違いだなと思っています。私の対処法として、友人と通話しながら勉強して、なるべく対面と同じような環境で勉強するようにしています。それでも、やはり先生とコミュニケーション取るほうは、学生から改善する手段はなかなかないなって感じています。

一方で、先ほど古賀さんが言っていたように、通学時間がなくなったところは、すごく大きな変化だと私も思っています。日本女子大学の場合は、ほとんど8割9割が自宅生なので、わりと家が遠い人が多いので、通学の負担が減って、その分、アルバイトに時間を充てるなど、時間の使い方が変わった人も多いなと思っています。

授業というかアルバイトの話になると、 私の場合は、1年生のときは塾でアルバイトをしていたのですが、コロナ禍になって 塾自体も閉まってしまって、私は2年生の 夏ぐらいまでアルバイトがまったくできない状況になってしまったので、生活に困っていたわけではないのですが、遊びを含めて学生らしく使えるお金がなくなってしまった部分はありました。

【只友】ありがとうございます。井上さんは、 友だちと通話しながらも勉強するという工 夫をやったわけですね。 Zoom なんかでつ ないで、「何時から一緒にやろうね」って いうような感じで勉強していたのですね。

【井上】はい、そうです。

【**只友**】一方で、先生とのコミュニケーションの改善の手段は、学生主体ではなかなか作れなかったと。なるほどね。

先ほどの古賀君の発言で、「やっぱり身 についたという実感というのがちょっと乏 しいです」っていうのが、教員としては何かすごく気になりました。たぶん身についていると思うのだけど、何か身についてると思える実感できるようなシチュエーションがないからだよね。期末試験をやったぞっていうあれだよね。

それでは、3人目が3回生の澤木さん、 お願いします。

【澤木】私も前おふたりと同じところがあります。やっぱり人とのつながりはどうります。ただ、1年生のときに人間関係作れていたっていうのもあって、今の1、2回生よりかは、元のもあったつながりは保てていたので、そういまったるは、まだ3回生以上はいいのかなと思っています。オンライン形態でもので、イクアウトルームとかがやりやすいので、イクアウトルームとかがやりやすいので、いる人と話すことはできたなと思っているわけではないのですが、何かいろんな人との関りは増えたかなと思います。

課題とかメールがよくくるので、自分でパソコンをよくチェックするようになりました。そういうところは社会に出たときには、何か役に立つのかなと思っています。パソコンに触れる機会が多いと、パソコンのスキルが身につくので、そこは良かったところかなと思います。

コロナで、オンラインになって良かった ことは、私は数学の授業を取っているん ですけど、数学のテストが凄く難しいの で、テストが期末レポートとかになったの はとってもありがたかったです。テストだ と、どうしても単位がなかなかということ になってしまうので、ちょっとそこはあり がたかったと思っています。

アルバイトも、自分も2年生になってか ら半年ぐらい行けなかったので、すぐ辞め ちゃって、別のアルバイト先に変えたのですけど、新しく入ってきた今の1、2年生だと、先輩からアルバイト先を紹介してもらえないっていうのもあって、どんなアルバイトがいいのかって情報の入手が難しいかなと思いました。

【只友】ありがとうございます。3回生は1年生のときの人間関係がいきていたと。それでは、コロナ世代の2回生からリアルな学生生活の体験をお話しいただけたらなと思います。じゃあ、村上さんからお願いします。

【村上】はい。私は5点に分けて話したい と思います。まず、授業について、先ほど 出席のお話もありましたけど、私の所属す る法学部では、出席をコロナ前からほぼ取 らず、テストだけで成績を決めるっていう 授業がほとんどです。それはコロナ禍でも 変わっていません。リアルタイム配信の授 業なら授業時間に視聴しないと見られなく はなってしまいますが、オンデマンド授業 はいつ視聴してもいいので、時間割どおり に見ていく人もいますけれども、その時間 に授業以外のことをしているという人も結 構いました。それで、私は時間割どおりに、 リアルタイムでもオンデマンドでもできる だけ視聴するようにはしていました。大学 には行かないで一人で家で授業を視聴して いたのですが、友だちもいないですし、ずっ と家で動画を見ているのは、「大学生とし てこれでいいのかな?」と。家にずっと一 人でいて、何か通信教育とかと変わらない のではないかと思ったりしました。そんな ことで勉強に身が入らなかったなっていう ときもありました。そこは、大学の友だち ができていた3回生の皆さんとはちょっと 違って、私たちは友だちができる前に全部 オンラインだったので、友だちと教え合ったりするっていう友だちもあまりいないし、そもそも聞こうっていう気にならないところもありました。対面授業が始まってからは改善されていったのですけれども、私は2年生の前期、後期から早めに演習系の授業を取り、少人数で受けられる授業を増やす工夫をていました。

次に、アルバイトのことですが、私は最近まで、アルバイトというアルバイトはほほしていませんでした。2020年の1回生の時に、東北大学のある仙台に行けなくて、ほとんど実家の岩手県で過ごしていました。大学から「後期から大学に来られる準備をしてください」と言われていたけど、結局行かなくても大丈夫だったみたいなことがあったりしました。いつ大学が対面再開されるか見通せず、今地元でアルバイト始めて、すぐ大学のある仙台に行とかも思って、1年生のときはアルバイトを始めにくかったです。

【只友】じゃあ、1年生はずっと盛岡にいたのですね。アルバイトができなかった理由っていうのを私は聞いてびっくりしました。

【村上】ずっとというか、夏休み前半の9 月頭ぐらいまで盛岡にいて、夏休み後半から、家は借りていたので、ひとり暮らしの 大学生活に慣れようと仙台に行ったんですけれども、結局授業はほとんどオンライン で、試験もオンラインだったので、年末年始に帰ってからはずっと春休みもそのまま 実家で過ごしました。

【只友】分かりました。アルバイトができ なかったっていう理由を聞きました。それ では、続きをお願いいたします。

【村上】私は、「無料法律相談所」という、 法学部生が自主的にやっている特殊なゼミ のようなものに所属しています。そこは対 面の活動をしていたのですが、出来なく なってしまいました。活動の詳細を知って いる人が3年生だけになってしまったの で、その3年生の皆さんが、コロナ禍でも オンラインで頑張って、後輩に勉強会を企 画するなどの工夫をしてくださいました。 最近、やっと対面で活動ができるように なって、何とか立て直してきたっていうの が今の状況です。サークルがコロナで活動 できなかった間に、役割を理解している人 がいなくなってしまうとか、活動できなく て入っている意味がないからと辞めてしま う人が大勢でたりすることがありました。 私は一応今も続けていて、これからは2年 生が中心になって活動していく段階になっ ています。

【只友】法学部の無料法律相談のサークルっていいですね、結構な人数いるのではないですか?

【村上】そうですね、結構減ってしまった と思うのですが、一学年20人弱くらいで す。市民の方から相談があるのですが、大 学が、学外の方を大学内に入れるのを規制 しているので、活動が制限されるという状 況が続いていました。

【只友】なるほど。ありがとうございます。 続きを聞かせてください。

【村上】次は、友だち関係のことです。これは、私の個人的な感覚なのですけれども、 高校まではあまり積極的に友だちと会って 遊びたいとは思っていませんでした。です が、大学生になってコロナになって、人と 会うのが制限されてからは、人と会って しゃべることって、いろいろ何か自分の考 えを言えたりとか、ただしゃべるだけでも 結構ストレス発散になったりするんだなっ ていうふうに、結構実感しています。そこ で、大学で自分から話しかけるようにした りだとか、友だちと一緒にごはんに行くみ たいなことをできるだけしたいなっていう ふうに思い始めました。今年の後期からは、 対面授業が先ほど言ったように始まって、 その対面授業に来ていた人もそんなに多く はないのですが、対面授業を一緒に受けた 友だちと休日に会って遊んだりだとか、勉 強の話をしたりだとかというような機会が できて、とても充実した感じがします。

最後に、これからの学生生活でやりたい ことについてです。1年生のときに全学教 育科目というどの学部でも受けられる専門 科目ではない授業があります。それがほと んどオンライン授業になってしまいまし た。東北大学は総合大学なので、ほかの学 部の授業を受けたり、ほかの学部の友だち ができたりするのも入学前は楽しみにして いたんですけれども、それがオンラインに なってしまったのでできませんでした。普 通は1年生の間に全学教育科目の卒業単位 は全部取る場合が多いんですけれども、3、 4年生になっても全学教育科目をちょっと 取って、専門以外の勉強とか、友だちとの 交流を作れたらいいなというふうに考えて います。

【只友】ありがとうございます。今の話何かいいですね、総合大学だとやっぱり他学部の友だちできたらいいですよね。

じゃあ、次は寺山さんですね、寺山さん、 お願いします。

【寺山】初めに言うと、私そこまで真面目 にオンライン講義を受けていませんでし た。対面はさすがに「教授目の前にいる し」っていうのがあって真面目に受けまし たが (笑)。なんですけど、授業の受け方 として、興味ある専門の遺伝子関係などの 話だったら画面の前で「本当に動画見てい る | 感じで、「へえ | と思いながら聞いて いたりしていました。でも、必修だけど、「単 位はレポート提出とか出席のみで評価 | み たいな、「受けてれば単位取れます」みた いな授業もあって、しかもオンラインとか。 そういう科目は、基礎的なものだから前期 にあったりします。入学した1年の前期は 全面オンラインだったから、最初は真面目 に受けましたが、「これは何か真面目に受 けなくても何とかなるんじゃね? |とか思 い始めて(笑)

【只友】いや、リアルでいいです(笑)。僕も授業しながら、授業の画面の向こう側では、画面を消してあるから何をしているかわからないけど寝ている人もいるだろうなと思いながら、真っ黒い画面に向かってしゃべっていました。ひょっとしたらつけっ放しにしといて違うことしている受講生もいたでしょうね。リアルな話ありがとう。

【寺山】何か授業を聞いているだけだと、どうしても周りに誰もいないし、退屈だしで、授業の音を流しながら部屋の掃除を始めたり、自炊しながらキッチンにスマホを持っていったりして、スマホの画面見ながら料理してたりとかっていうのは普通にありますね。あんまり公に言っていいのか分からないですが。

【寺山】今の話に関連した余談ですが、先

生はやはりいるかどうか確認したいじゃなムですか。弘前大学は、基本リアルタイコで配信して、電波悪かったとき用にレング撮っといて、あとでオンディング撮っといて、出席はリアルターで感じなので、出席はリアで判断したりです。なか、フォーム送ったりで判断し席とかです。すると「送っちゃえば出席になる」って勘違いする学生がいて。先生のです。「との対面の対面の対面の投業能に、そういて、なりとのです。「いるか?」と、人に集中的に当てるのです。「いるかどう」と、

【**只友**】そういうときの先生の気持ちも分かるな。

【寺山】「誰々いる?」って言うと、返事が返ってくるときもあれば何にも返ってこないときがあって。先生は、返事がないと「あーあっ、欠席っ」とかはありましたね。村上さんのほうからは真面目なほうを言ってくれたので、ちょっと不真面目なほうをしゃべりました。

【寺山】私は、アルバイトの話をしたいと思います。私は1年前期、5月まで入学式も特になくって、弘前大学側も「5月から授業やります」みたいな感じだったので、暇だなって思っていました。1年の4月でらいから塾のアルバイトをしました。弘前は、そこまでひどくなかったっていうのもあって、5月の緊急事態宣言出されたとさは休講になったのですけど、本当に数週間、1週間2週間くらい休講して、それ以外はずっと授業できていたので、恒常的にバイトのほうも入っていました。

最近、弘前がまん防になってからは、やっぱり親御さんとかの相手側でコロナ感染者

出たりとか、小中高で出てしまったりとかで、中学校の子たちは来させられないとかっていうのがあって。普段は私たちも対面でやっているのですが、急遽、オンライン授業に切り替わったりしました。講師は塾に来て、塾から自分のスマホを使って塾生とオンラインで授業することになりました。

あとは、なかなか帰省ができません。私 一人暮らしで、出身は関東なのですが、 バイト先に「お盆に帰省したいのですけ ど・・・」て言うと、「お盆明けた弘前に戻っ てきた後、2週間自宅待機してね」となる ので、もう気軽に帰れないとかっていうの もあります。

【只友】気軽に帰省できないこともあるか な。ありがとう。

【寺山】お友達関係ですが、弘前大学生協のウェルカムパーティーが私たちの代は中山になっています。今は、オンラインに切り替わっていますが、2020年度はなかったので、友達を作るツールが少なかったです。私は Twitter とかで、『#春から弘大生』とかでつながり持っていたりとかしました。本当に Twitter そんなに触んないとかっていう人は、そういうつながりなく、「友達どうやってつくったの?」みたいながあります。それこそ対面になってから、おおあります。それこそ対面になってから、やっとオンラインでずっと名前だけは知っている人とつながったり、同じ学科の人とつながったりしました。

最後に、これからやってみたいことは旅行です。本当は、私、大学生になってからいろんなところへ旅行に行ってみたかったのです。温泉が好きなので、温泉旅行に行きたいなとか思ってたのですけど、移動が制限されているっていうのもあってで、今

はまだ厳しいかなっていう感じです。

【只友】ありがとうございます。そうね。 そうか。結構、友達にリアルで会えないから『#春から○○大生』とかでつながるっ てのは結構大きかったのかもしれません ね。

【寺山】私はそうでした。でも DM 送られてきて、それに答えて、「あ、よろしく」とか「教科書一緒に買いに行こうよ」みたいなことで、初めて会うみたいなのはありました。

【只友】ありがとうございます。そういう SNS の新しいツールの活用もされていたっていうことですね。はい。次は池田さん、お願いします。

【池田】はい。今のお話聞いていて、もうめちゃくちゃ「それなーっ」で思って聞いていました。まさに遠隔授業の Zoom のときに何か作業をしながらやるっていうのは、私のところでも「あるある」でした。2時間ぐらい続けて Zoom あるときは、みんな洗濯するっていうのが「あるある」でした。裏で、洗濯機回して、洗濯干しながら聞くとか、食器洗いながら聞くとかっていうのはよくありましたね。

アルバイトのことですけど、私は1年生のときは、2、3カ月くらいしか大学に通えなかったので、ほとんど実家に帰って授業を受けていました。「実家の両親とか家族にコロナ移したら困る」とか、「私がバイト先からコロナを持ってきたりされたら困る」ということで、アルバイトも両親から禁止されていました。家の中で本当に隠れ身じゃないですけど、マジで帰ってきていることを隠しながら実家にいるっていう

感じでした。

2年生になってからは札幌のほうに戻っ てきました。やっぱり札幌のほうに出ると コロナにかかる確率はすごく高いなと思っ て怖かったので、学内のバイトをしてまし た。このバイトもたぶん遠隔授業ならでは だと思うのですが、遠隔授業に使うサイト があって、そのサイトの使用方法、マニル アル書いたりだとか、学生が何かトラブル あったときに電話対応とかしたりだとか、 あとパソコンに不慣れな教授の授業作りの お手伝いだとかも、結構していました。

【只友】ありがとうございます。オンライン授業のサポートですね。

【池田】はい、そうです。オンライン授業のサポートのアルバイトをしていました。 友達のなかには、飲食店とかでバイトを探していたのですけど、やっぱり競争率も札幌は高くって、なかなか見つからないっていうところもあったりだとか。あとは、あんまり中心部に入ると、それこそコロナの確率が高くなるとだかで、かなりバイト探しには困っている人が多かったかなと思います。

サークルに関しては、うちのサークルは、まだ全員で対面による活動をしたことがまだあんまりなくて、ほとんど Zoom でしか活動できていないです。そういうサークルも結構あったりだとか、コロナに入ってからまだほとんど活動してないっていうサークルも多かったので、うちの大学全体のサークル加入をで言うと、1、2年生でサークル加入しているそうです。課外活動をしてない学生が多いので、就職活動の時に、学生時代に力入れていたことが言えない学生が多くなるのではないかと、大学の方でも

問題視されているようです。

友達関係は本当に浅い関係が多いなと思っています。大学でZoomのブレイクアウトとか、ちょっとしたグループワークで1回お友達になった人は顔見知りにはなれても、そのあと深い関係につながるっていうことが本当に少ないと思います。会ったときに手振る程度の友達はいっぱいいるのに、何か友達少ないなって感じることが多いですね。

あんまりこれはほめられることじゃないと思うのですけど、近くの一人暮らしりにないる同じ学部のお友達同士、私の周りは5人くらいで、家族のように今、過ごしています。ルームシェアじゃないのですけど、頻繁にご飯一緒に食べたりだとか、一緒に課題にいたりとか、あと一緒に課題やったりとかしています。本当に一日もあったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこもりがちになったり、本当に引きこれでいる。

ハッシュタグの話もあったと思うのですけど、入学前2年以上前くらいに知り合ったハッシュタグのお友達と、12月くらいにやっと会うことができました。たまたまゼミで一緒になって、「あれ? やっぱりあのとき知り合った子だよね?」みたいな話を2年越しにできたのが、ちょっと面白かったかなって思います。

学業に満足しているかっていう点だと、 現状は諦めてというか、しょうがないよと は受け入れつつ、社会に出たときに、「コ ロナ世代」っていう感じで、「大学であん まり勉強しなかったでしょう」とか、「色 んな経験不足でしょう」みたいなふうに言 われるのはちょっと怖いなと思っていま す。

学業に力を入れているっていう自覚も持ちにくく、コロナ以前に勉強した人に比べて絶対学びの質は下がっているのではないかと思えて、将来コロナが落ち着いた後にどう言われるのかなってところは、今、すごく不安です。

【只友】ありがとうございます。池田さん、今言ってくれたことは、私たち大学の教員が気を付けなきゃいけないことだと思いました。今のコロナを経た学生たちに、社会から『君たちコロナ世代だね』って悪い意味で絶対に言わせないようにするってことを、私たちは考えなきゃいけないね。

それに、池田さんの話の、近所の同じ学部の学生達と何か一緒に何か家族のように、ちょっと共同生活みたいな勉強をしているていうのも、それも一種のコロナ世代の「ガクチカ」だと思うんだよ。そういうふうに何か発想を変えるようなこととかして、私にとってのガクチカっていうのはこれだと。

「家族にうつしたらいけないのでバイトをしないのも私にとっての感染対策のガクチカです」と言えるだろうし、対面授業始まってからの「大学で友達と一緒に勉強するっていうのはかけがえのないガクチカです」とか言ったほうがいいような気がしました。

学生たちのそういったたくましさってい うのを、私たちが意識して押し出してあげ なければならないと思いました。もう話聞 いていたらね、学生たちのたくましさをた くさん感じることがあるんだけどね。はい、 ありがとうございます。

それでは、次は、田中さんお願いします。

【田中】コロナ禍での学生生活は、何か東

北の方たちは結構制限が厳しいなっていう ふうに話聞いているした。私は 今、大阪の岸和田っていう「だんじり」道2 時間かけています。オンライン授表 時間かけています。オンライン投表 時間かけばりさいます。人言まずといてで ますってはます。で寝がたいている 間に合うので、2年間通じてするりがたいています。コロナ禍の学生生活でも います。コロナ禍の学生生活でいて はことがら結構感じることが 多くなりました。

なんか1年生の間は、やっぱオンライン授業でずっと家にいることが多くなり、ずっとアウトドア派で高校まで生きてきたので、インドアにも対応できる人になったなっていう個人的な感想があります。

遊びに行かなくなった分、結構お金が浮くので貯金をしていています。あと、下宿 予定だったのですけど、今は実家で暮らし てるので、定期代がちょっと高いなぐらい で済むので、その辺もすごいありがたく過 ごしています。

あとは、最近はすごい Zoom を結構、学生は使いこなしていると思うんですけど、何か、暇な子を集めてグループとかに勝手に Zoom リンク送って、暇な子、来てとか言って、みんなでオンラインのゲーム、人狼とかをやったり、NumerOnっていう数字当てるゲームとかをやって。そんな感じで暇なときは Zoom つないで遊んだりしています。あと Zoom の背景を変な背景にして、みんなで写真撮ったりみたいな。オンラインで結構遊んだりしています。

最近始めたのが、あんまり勉強してない よなっていう話を友達としました。国際学 部の子と結構仲いいんですけど、その子た ちも TOEIC の勉強をしてないという話が 結構あったりして。1人やったら絶対しないから、電話しながらやろうっていうふうな習慣をつけて、何曜日の何時からは絶対電話して勉強するみたいな感じで、今はちゃんと勉強を進めています。

あと学生生活は、ソロ活、一人活動を楽しんでいます。これは『ソロ活女子のススメ』っていうドラマがあったのですけど、それを見てから、1人で映画見に行ったり、一人焼き肉とか、何か一人で普通にショッピング行ったりみたいな。一人で行動するのは、まん防とかが出ていて友達と会うのが厳しいときでも一人やったら許されるだろうという自分の範囲があるので、ソロ活で遊びに行ったりしています。

今年の夏は、オンラインですが、インターンシップにも一応行きました。情報の収集とかにも目を向けるようになったので、通知とか全部オンにして、何かあったらすぐ見るようにしてっていう習慣も結構つけました。あとは友達と夜に散歩行ったりして、健康面にも気を遣うようになりました。

次にバイトの話なのですけど、私は半年前までショッピングモールのフードコートの飲食店でアルバイトをしていました。去年2020年度の春、緊急事態のときは休業で、解除されてからは時短営業で夜の8時まで営業やっていたので、その期間は普通にバイトに行っていました。うちは親も「バイト行け、行け」と言う人なので、それもあって、しっかりバイトは行っています。

私もオンデマンド授業のときに普通にバイトに行っていました。緊急事態とか出たら、すぐ休業になってしまう場所だったので、その休業中に何か違うところで働きたいなと思って、スポーツジムのアルバイトにちょっとだけ行きました。それは、子どもに水泳を教えるバイトをしていたのですけど、それは親に「子どもはマスクしてな

いよ」みたいな感じでめっちゃ詰められて、 やめてって言われて止めました。周りの子 もバイトは、がっつり行っている子が多い 印象です。

サークルなのですけど、自分はサークルっていうか、この生協学生委員会だけ所属していて、1年生のころは一応、バスケットボールのサークルも行っていたのですけど、何かあんまり活動もなく、辞めました。生協入っただけでも先輩後輩とつながりができて、すごく楽しいなって思っています。授業についてなんですけど、授業は、1年生のころは本当に真面目に真剣にオンライン授業も受けていました。この前、掃除をしていて、すごい資料がたくさん出てきて、真剣に受けてノートも何かびっくりするぐらいちゃんと取っているなって昔の自分はすごく偉いなって思いました。

2年生になると全然オンラインを見なく なってしまって。これ、皆さんたぶん「あ るある」だと思うのですけど、何か謎の「大 学生の余裕|が出てきて、オンライン授業 流れている、あとで見ようってなって、そ の「あとで」がいつまでも来なくて、レポー ト前にすごい必死に徹夜して見るっていう 感じになっていました。よくやっていたオ ンライン授業なのですけど、オンデマンド の配信がない授業、オンラインのライブ型 だけのやつとかは、友達と交代交代で画面 録画しながら受けて、その画面録画をあと で共有して、レポート前にもう1回見てみ たいな感じでやっていました。それがすご い携帯の容量を取られるので、すごく大変 だったなって思います。

あとは、自分の周りには結構オンラインのほうがいいって言っている子も多くて、自分もオンラインのほうが何回も見られるのがすごいいいし、2倍速とかで見れるのも結構いいなと思っています。あとは、2

回生になって初めて期末テストを対面で受けて、学生証提示とか、初めて受けて、楽しかったなというふうに思いました。あとはゼミが一応、少人数なのですけど、先生が結構コロナ怖いっていう方でオンラインだったので、ゼミぐらいは対面でもいいのかなと思いました。ゼミで対面じゃないいかなと思いました。学生委員の友達しかいないので、少人数のやつは対面のほうがうれしいなっていうふうにはちょっと思っていました。

諦めみたいなものなのですけど、それは やっぱり課外活動の合宿とか、コロナ前の 資料とか見ると、結構、対面合宿でいろい ろ楽しそうな写真がいっぱいあるのがすご くうらやましいなと思って見ていました。

やってみたいことなのですけど、学園祭です。龍谷大学の学園祭を経験したことがなくて。今年もたぶんやっていたようですがオンライン開催でした。友達と「学園祭で屋台とかやりたいよね」っていう話をしていました。

今のところ龍谷大学は、課外活動の制限 レベルが絶対禁止ではないので、一応、2 月はまん防も出ているので友達づくり企画 はオンラインなんですけど、3月にやるほ うは一応、対面で進めているので、入学前 に新入生、友達いっぱい作ってほしいなっ て思って準備しています。自分たちの代が、友 達づくり系の企画が何もなかったので、自 分たちの代みたいになって欲しくないなっ ていうのがあるので、そういう企画は対面 でやろうっていうふうには、進めています。

【只友】ありがとうございます。たくさんいろんなことを教えてくれてありがとうございました。先ほどの田中さんの小テストの話とかリアルでしたね。でも大丈夫、先

生もそういうことがあるだろうなと思っています。学びを実感できるように大学の先生がもっといろいろと考えなきゃいけないことを沢山教えられた気がしました。

ありがとうございます。本当に何か大学の先生たちが、この雑誌は大学の先生もたくさん読む雑誌なので、すごく意味があるかなと思って、ひととおりの話を聞かせてもらいました。

学生支援・大学への期待と 大学の未来へ

【只友】確かに、学園祭とかやりたいよね。いろいろとやりたいことがたくさんあるのかなと思います。そこで、最後に、次の三つのテーマから好きなことを話してください。一つ目は、コロナ禍で学生に対する支援でどんなことが必要か?二つ目は、皆さんは大学のこれからの変化をどう予感しているのか?三つ目は、皆さんは大学での学びでどんなこと期待しているのか?少し難しいかもしれませんが、お願いします。古賀君が動いているから、古賀君、発言できますか?

【古賀】はい、僕が今お話を聞いていて考えていたこととしては、一番基本的なことだとは思うんですけど、やっぱり人とのつながりっていうところが、やっぱり一番本当に大事だなっていうのは、この3年間、大学生活を送っていくなかで一番本当に感じたことです。1回生のときというのは対面で授業があったりとかして、サークルとかも普通に活動をしているというなかで、やっぱり友達とご飯を食べたり、友達とだったり、友達とバイトに行ったりっていう、ごく当たり前の生活を送ってい

ました。ところがコロナ禍で2年生、3年 生って上がっていくなかで、2年生のとき は、ぼくはまだサークル活動が現役だった ので、そこで少しつながりがあったのです けど、3回生で引退するともう本当にまっ たく人とのつながりがない状態です。一人 暮らしもしていたので、本当に先ほども皆 さんが言っていたように、机にただ座って Zoom の授業を受けて、終わったら、もう、 一人っていう。その時間が毎日あるってい うところを何かずっと繰り返していくうち に、本当に精神的にくる部分がありました。 本当に人と人とのつながりっていうのが大 事だなっていうのを思いました。今後、オ ンライン授業っていうのが、楽な部分や便 利な部分とかってあるとは思います。今 後、オンライン授業が進んでいくと、つな がりという部分がどんどん希薄になって いって、「本当に大学に行く意味があるの かな?」っていうところまで、本当にいく のではないかなというふうに僕は考えてい ます。ごく少数とかでもいいと思うのです が、5人とか10人とかでもいいので、何 かその対面で、本当にしゃべるだけ、ご飯 食べるだけでもいいので、そういう場を少 しずつでも各大学や大学以外のところでも いいんですけど、そういった場を作れれば いいんじゃないかなと、僕は考えました。

【只友】ありがとうございます。なるほどね、机に座って Zoom が終わったら、終わったら一人っていうのがね。そのとき、授業すぐに振り返れるようなこととか、何か、ちょっとそういう工夫とかを先生もしたほうがいいのかな。先生のほうは授業が終わったら、やっと終わったってホッとしているから。先生はホッとしていて、学生は一人で、何か取り残された感があるかもしれないかな。

【古賀】どうしても Zoom とか終わって、 みんな、「お疲れ様でした」って言って切っ たら、「ああ、終わった」ってなって。つ いさっきまで結構明るくしゃべっていた人 とかも、どっと疲れたりして、ちょっと参っ ちゃう部分があるのかなと思いました。

【只友】分かりました。ありがとうございます。次は澤木君、いきますか?

【澤木】はい、まず学生に対しての手助けの部分で、自分は大学の講義以外での学生のつながり、ちょっと古賀さんと似ている意見ですけど、講義以外でのつながりを作れるといいのかなって思いました。どうしても大学が面倒を見るのって講義の部分だと思うので、難しいとは思うのですが。

大学の変化についてですが、このままオンラインが定着するのかなと何となく思っています。オンラインならば、ウイルスとかの危機事象が起きても対応できますし、対面よりオンラインの方が、リスクが少ないので、安全を取るならこのまま定着しちゃいそうだなとは思っています。

それでもやっぱり対面のほうがすごく楽しいので、学びでの期待としては、やっすり人と一緒に勉強っていうのが、ないないないます。3年になっています。3年になっています。4年にもまったのですけど、同じないですが出ているのですけど、何かそういうのですがしているです。オンカとどうってもやるべきことを淡しながらでもゆってもかるで、何か雑談しながらなものがすると思っています。

【只友】ありがとうございます。大学の変化、 オンラインがずっと続くのかもと。 たぶん 大学によって温度差とか結構あるかなとい うのを思っています。

では次は、井上さんお願いします。

【井上】私も授業以外でのつながりもそう以下ですし、やっぱり大学って授業を受けるといると思うので、そういると思うの支援が欲しいなと思ってで、これは短期留学に行きましたし、学園祭があります。1年生のときはきましたので、そうした経験があります。2年生になかったなという印象があります。2年生にながコロナで難しくなりましたが当ましたがコロナで難しくなりましたが当ましたが当まとがあったらいなどで、私の大学はもあったので、オンラところは、私の大学はもともの形態はずっと残り続けるかなと思っています。

【只友】ありがとうございます。次は2回 生の池田さんお願いします。

【池田】大学に学びの面から提供してほしいなと思っているのは、私は心理学部との施設見学っていうとので、児童施設などの施設見学っているのが大事になってくるかなと思っていません。動き見てとか、写真を見てこんな雰囲を見てとか。あとは実際に疾患を抱えているなきとか。ありますみたいな感じなのです。参考書を見て知強しているような状態なのではよりないただとか、よりも多いに見学させていただとか、そういめに足験面でのフォローを今までよりも多いてほしいかなと思っています。

サークルとかの面になってしまうのです けど、先ほどのお話にもでましたが、大学 祭をまだ私たちの代は経験したことがない 人が多くいます。サークルの加入率が低 いっていうのも、せっかくコロナが落ち着 いているときに、練習する機会だとか、企 画する機会があったとしてもそれを本番の 晴れ舞台で披露するっていう場面がまだな くて、そういうやりがいもなくなってきま す。なので、新入生に勧誘ウィークみたい な感じで、「勧誘していいよ」「廊下で勧誘 していいよしみたいな機会をもらったとし ても、勧誘するときに、「どんなことをで きたのですか? 一って聞かれたときに、「い や、練習しかしていませんしみたいなこと につながってしまっているので、そういう 成果を発表できる晴れ舞台を提供してほし いなと思っています。

【只友】ありがとうございます。晴れ舞台が欲しいですね。また、経験面でのフォローっていうのは、全国教職員委員会が考えている「学生生活ブースター」といって考えていることですね。学生諸君が、「やった」という実感をどうやったら持ってもらえるだろうか、学んだっていう実感とかを持ってもらえるだろうかってことを考えています。

ありがとうございます。次は、寺山さん お願いできますか。

【寺山】私、パッと思いついたものが、必要な手助けっていうか、助かったなって思っているのは、大学の一括ワクチン接種がすごく助かったなって思っています。というのも、活動が制限されているのもあるし、場所によってはワクチン2回接種の証明書を提出してくださいとかもあります。大学生の中には住民票を移してなくて、帰らないとワクチンが打てないとかあったりとかするので、大学で一括接種ができる

とかっていうのは、すごいたすかりました。これからもこういうことはやってほしいなって思いました。ワクチン接種しているだけでできる幅広がるし、大学も、もう皆さんワクチンを打っているので、対面授業を再開しますとかっていうのもあったので、そういうのはあるんじゃないかなって思いました。

大学がどう変化するかについては、このワクチン摂取率が高まり、そもそもコロナウイルスも、インフルエンザみたいな感じにまで収まるのではないかなと思っています。近い将来はちょっと無理かもしれないけど、ほとんど元には戻るのではないかなと思っています。

【只友】ありがとうございます。ワクチンの職域接種のようなものっていうのは、学生の活動の幅を広げる手立ての1つといえますね。次は、田中さんお願いします。

【田中】どんな手助けがいるかっていう部分では、龍谷大学では「百縁夕食」という100円で夜ご飯が食べられる企画とかがあったのは助かりました。もともと下宿生対象だったんですけど、自宅生も対象にてくれたので、結構夜遅くまで大学に残ってはすごく助かったなって思いる部分ではすごく助かったなからと苦労いる部分とか、何か親とうまくいった部分にも目を向けていただけると、すごくありがたいなって思います。

あとは、最近よく同期の友達としゃべる ときに、20年度に入学した大学生が、た ぶん一番オンラインで苦労した代だろうな と。21年度になるとオンライン授業とか

も確立していたり、パソコンの配布とかが 始まっていたりといった感じで、対応がす ごくできているし、対面授業もわりとある し、オンライン企画も柔軟にあったのか なっていうふうに思うので、20年度入学 の悲しさを忘れられている気がするよねっ ていう話とかしました。そういう話は、龍 谷大学生協の谷口専務さんと話したり、今 の2回生に向けて、2回生が楽しめる企画 を1個やってみたりしたほうが大学生生活 楽しめるのではないかみたいな提案とかも 結構あったりしています。まだできていな いのですけど、大学の変化については、龍 谷は結構対面が増えそうだなっていう印象 です。2021年度の4月は、ほとんど対面 授業でした。初めはほとんど対面授業で、 キャンパスは人であふれて、何かお昼ご飯 食べる場所がなくてみたいな感じでした。

オンラインでも喜んで受けますっていう 学生の意見も多いかなって思います。学び への期待は、オンライン授業のオンデマン ド配信って、1時間半の動画撮る先生が少 なくありません。私がうれしかった授業は、いつも授業動画を20分で、ポイントだけ を集めた動画をあげてくれる先生の授業で した。20分やったらちゃんと見ていたの で、1時間半とかより、そういう30分と か1時間以内におさえているほうが、学生 からしたらちゃんと見る動画なのかなって いうふうに個人的には思います。

【只友】ありがとうございます。そうね、20分でポイントのみのほうがいい。分かりました。最後は。2回生の村上さんお願いします。

【村上】私はこれからの大学のこれからの変化について、私は、オンライン授業はやっぱり続くんじゃないかなと、続くというか

活用されていくのではないかなというふうに思っています。そこで大事になってくるのが、皆さんが言っていたような人とのつながりとか、リアルなオンキャンパスの意義をどれだけ感じられるかというところだと思います。

友達とこんな話をしました。「オンライン授業で先生が動画を撮って上げていくっていうふうになっているなら、来年もその動画を使えばいいんじゃないかなと思う」と話をしたときに、「先生も自分たちの研究をしていらっしゃるから、その年によっても研究の最先端とか支持している学説だとか、オンライン授業を毎年取り直せば、そこに先生の考えの変化が反映されていくから、それはそれで意義があるんじゃない?」と言われて、確かにそうだなと思いました。

今のオンラインと対面が混ざった大学と いうのは、どこの大学に行って誰から何を 学ぶかが固定されている対面の状況と、ど こからでも誰からでも学べるということの 狭間にある状況だと思いますが、その狭間 にあるところを、どういうほうに持ってい くのかを考える局面なのかなっていうふう に思っています。先生方や大学側の教育内 容の進化とかも求められるのかなとも思う し、大学への期待にも関わってくるんです けど、高校生の延長で勉強をやり通せばっ ていうふうに大学はなるのではなくて、勉 強したいことがあったり、勉強しながら働 いている人とか、自分のそれぞれの活動を している人がいろいろ混ざった場所じゃな いと、その大学に行っている意味はあまり 感じられないと思います。特に法学部とか はどこの大学にもあるようなもので、教科 書を読んで勉強するのが基本なので、その 大学のその先生じゃなくてもいいのではな いかなというふうに思うときが多かったん

ですけど、大学自体にもっといろんな人が 集まればもっと魅力的になるんじゃないか なというふうに思います。

【只友】村上さんは、結構面白いこと話し てくれました。大学自体が進化を求められ るのでははないかって、私もそう思います。 2020年4月に入る前に全面的にオンライ ンに切り替えを決めたのですが、オンライ ン授業を始めて1カ月目ぐらいかな、「こ れひょっとして、コロナが収まった後は対 面授業の価値っていうのを高めないと、学 生、大学来なくなるぜ」って思ったのを思 い出しました。さらに、予備校とかがオン デマンド教材の配信事業とかしているのだ けども、そのような教材で勉強した学生も 増えてくるわけですから、大学も変化に対 応が必要ですね。大学に行く意味って何な のですかねっていうふうになると思うの で、大学に行って対面で学ぶ意義っていう のが何なのかっていうのを、やっぱり実感 できるようにしなきゃいけないかなと。

今日話を聞いて、やっぱり友達とのつながりが大事とかって言ってくれてたんだけども、その話を聞きながら、友達とのつながりのなかで何か一緒に知識を確かめるっていう経験っていうのは、やっぱり大事なのかなっていうふうに思いました。知識を確かめ合う経験っていうね、感覚を確かめ合う、知識を確かめ合うっていうね、をういうようなのは大事なんかなと思って話を聞かせてもらいました。

最後言い残したことがあるから言っとき たいっていうことがある人、どうですか? 寺山さんどうぞ。

【寺山】普通に自分の暮らしのなかでしゃべるじゃなくて何かほかの人、それこそ東

北のことだったらブロック事務局で集まったときとかにしゃべるし、自大学は自大学でしゃべるし、ただ、集まることってあんまり、集まってしかも自分のことに関してしゃべることってあんまりないから、いろ聞けて面白かったなって思いました。コロナ世代っていうのを、そういう考えを私、持ってなかったので、ああ、確かになって思いつつ聞いていました。ありがとうございました。

【**只友**】ありがとうございました。田中さん最後に一言。

【田中】今日はありがとうございました。 最後に只友先生がおっしゃってたコロナ世 代をいい言葉に変えるっていうこと、世間 から見て、「コロナ世代の子はすごいんや で」っていう感じを焼き付けたいっていう か、みんなでしてほしいなっていうふうに すごい思いました。

【只友】ありがとうございました。次は池田さん。

【池田】何かコロナ世代の人を世間の人は、結構かわいそうだとか、そういう哀れみの目で見る人もわりといるのかなとも思うんですけど、そうじゃなくて、只友先生がおっしゃったように頑張ってきてるっていうふうに見てもらえるんだなっていうふうなのが、すごくうれしかったです。そういう認識がもっと広がればなと思いました。今日はありがとうございました。

【**只友**】ありがとうございました。じゃあ、 古賀くんお願いします。

【古賀】今日は参加させていただいてあり

がとうございます。コロナ世代っていうと ころで、これから就活であったりとか、あ とはいろいろなところで何か少し、小言を 言われたりだとかっていうところもあると は思うのですけど、ただそのなかで、たぶ ん今僕たちは、そういった厳しい状況下で も、先ほど先生方もおっしゃられてたよう に、自分たちで、こうやったらいいんじゃ ないかだったりとか、それなりに順応して いっているので、僕たちそんなになまけて はいないんだぞと、ちゃんと頑張っている んだぞっていうところはあると思うので、 そういったところはしっかり、もっともっ と出していければいいかなっていうのは全 体を聞いて感じました。今日はありがとう ございました。

【只**友**】ありがとうございました。じゃあ、 次は村上さんお願いします。

【村上】私も皆さんの話を聞けたのがすごくよかったなと思います。自分たちのコロナの状況の大学生活を振り返ってこんなにしゃべるのは、なかなかないなと思ったのでもそのなかでも、いろいろ工夫自分でくましさとかを、皆さんがそれぞれ自分たちの場所で頑張っているのだなっていうなりできるのかはちょっと分からないんですけれども、大学生活をより充実とせたものになるように頑張りたいなと思いました。今日はありがとうございました。

【只友】ありがとうございました。じゃあ、 次は井上さんお願いします。

【井上】今日はありがとうございました。 ほかの地域の方の話とか聞く機会がなかっ たのですごい自分にとっても新鮮だなと 思ったのと、あと3年生だとコロナ禍で就活とかしていて、家でどうやって過ごしてたのとかいう話になったときに、結構そういう工夫いいねみたいに褒められたりするところもあったりすると、コロナ禍が全部悪いわけではないのかなっていうのは、私も感じました。本日はありがとうございました。

【只友】ありがとうございました。次は澤 木くんいこうか、最後に一言お願いします。

【澤木】今日はこのような機会でお話しさせていただきありがとうございました。自分はコロナで、やっぱりコロナ禍だからこそこういういろんな大学の人と話せたと思うので、やっぱりコロナでもいいところいっぱいあったので、全然気にせずにみんなで頑張っていければいいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

【只友】ありがとうございました。本当に 長時間ありがとうございました。皆さんの 声を聞いて大学ももっといろいろと考えな きゃいけないかなと、それが一番の支援に なるのかなって思いました。学生に対する 支援っていうのは、やっぱり大学がどうい うふうに学生たちのこと考えてインフラを 作っていくのかなっていうことだと思いま した。それでは、今日の学生座談会はこれ でお開きにしたいと思います。どうもあり がとうございます。

座談会を終えて

只友景士

コロナ禍に翻弄される大学

全国で活躍する大学生協の学生委員の皆 さんと2時間の座談会を終えて、若干の感 想を記しておきます。2020年から始まっ たコロナ禍は3年目に突入しようとしてい ます。この2年あまりの間に、大学はコロ ナ禍に翻弄されてきました。2020年の前 期は全面オンラインに移行した大学も多 かったかと思います。その後は、感染状況 による緊急事態宣言やまん延防止等重点措 置などの国や都道府県からの行動制限を大 学の行動制限の基準としながら、大学とし ても行動制限を強めたり、緩めたりを繰り 返し、それに対応して、オンライン授業と 対面授業が混在する大学の授業風景が普通 の風景となっています。コロナ禍に翻弄さ れながらも、オンライン授業を大学の標準 装備として実装した意味は大きいのではな いかと考えます。

今回の座談会記事を読んで、オンライン 授業が入った大学の学びが大きく変化しつ つあることも実感して頂いたのではないで しょうか。そうした変化の中で、学生達は 苦労しながらも順応もしてきてくれていま す。今回の座談会では、学生達の逞しさ、 より良く生きようとする学生さんの生き様 の一端を知って頂けたのではないでしょう か。

学生生活ブースター

~学びの実感の希薄化を乗り越える~

座談会の中で、「学びの実感が希薄化している」と言った趣旨の発言もありました。この問題は、全国大学生協連合会の全国教職員委員会でも問題意識を持っています。2021年12月には、全国教職員委員会から

全国の会員生協の理事長・教職員理事向けの呼びかけ文「第65回全国大学生活協同組合連合会・通常総会に際し、大学生協の再生に向けて会員大学生協の理事長・教職員理事に呼びかけます」を提出しました。その中で下記のように述べています。

(学生生活ブースター)

4. 多くの学生が、学生としての実生が、学生としての学生が、学生としてのおきしてのだけ、のだというできるできるできるできない。学生をできるできるできるできるできるできるできるできるできるない。 スター」となる取組を追いる経験から

全国教職員委員会は、学生の学びの実感 を高める取り組みを様々なレベルで強めな ければならないと考えています。それは学 生にとって切実な要望であることも、今回 の座談会を通じて分かりました。また、そ の学生達の望んでいることは、人とのつな がりの中でゆっくりでも確かめ合いながら 知識を確かなものにしていくプロセスであ り、人格の陶冶なのだなと改めて実感しま した。

コロナ世代を勇気づける

座談会では、コロナを経験した世代を「コロナ世代」と呼んでいたのですが、学生から「マイナスイメージにとられないかと怖い」との懸念が出されました。この「コロナ世代」という言葉が世間に流布するなら



ば、必ず良い意味で使われるように大学及び大学人は今一層の奮起が求められると思いました。私たち大学人は、学生のためになることをできるだけやっていこうと考えています。学生諸君に呼びかけます。どうか一緒に考えながらキャンパスの再生に取り組みましょう。

くらしと協同をたずねて

電気ポットで「さりげなく」みまもり、 みまもられることを実現

―象印マホービン株式会社の「みまもりほっとライン」のケース―

木下 和紗 (高松大学経営学部 講師)

はじめに

国内外問わず、高齢化が急速に進展している。なかでも日本では、2007年に高齢化率(65歳以上人口の割合)が21%を超え、「超高齢社会」に突入した。2021年9月15日現在、日本の高齢化率は29.1%と世界で最も高い水準に達している¹。

他国に類を見ない速度で高齢化が進展する日本では、65歳以上の単独世帯も増加している²。そうした中、顕在化している社会問題のひとつが高齢者の孤独死である。実際にも、日本では21世紀に入って以降、自社の従来製品やサービスを開発し、提供する民間企業が増加している³。なお、日本ではさらなる高齢化の進展により、高齢者単独世帯は今後も増加すると予測されている。つまり、離れて暮らす親のみまり問題は日本社会として対処すべき喫緊の課題である。

そこで本稿では、日本企業の中でも他社に先駆け、2001年から「みまもりほっとライン」という高齢者みまもりサービスの提供を開始し、かつそのサービス内容がユニークな特長を有する象印マホービン株式会社(以下、象印マホービンとする)⁴の事例を検討することで、高齢者のみまもりのあり方を考える一助としたい。また、このサービスの提供が同社にとって、どういっ

た意味を持つのかについてもあわせて考えたい。

象印マホービンの概要

1. 事業内容とその展開

象印マホービンは、炊飯ジャー・電気ポット等の調理家電製品、ガラス・ステンレスマホービンを中心としたリビング製品、空気清浄機や加湿器等の生活家電製品の製造・販売等の事業を国内外に展開する、大阪市に本社を置く家庭用品メーカーである。

従業員数はグループ会社を含め 1304名 (2021年11月20日現在)、売上高は 776億7300万円(2021年度)である。また、製品区分別売上高構成比(2021年11月期実績)は、調理家電製品 71.8%、リビング製品 20.9%、生活家電製品 5.0%、その他 2.3%となっている。とくに調理家電製品が、同社における現在の主力事業となっている。

さらに、象印マホービンの 2021 年度売上高のうち海外が占める比率は約3割で、その7割をアジア地域が占めている。つまり海外の中でも、とくにアジア地域を中心に象印ブランドが浸透していることがわかる⁵。

2. 原点とビジョン

現在でこそ、幅広い分野と地域で事業を展開している象印マホービンだが、同社の原点は1918年、愛知県出身の市川銀三郎(兄)と金三郎(弟)の2人が大阪市で創業した「市川兄弟商会」であり、真空断熱という、当時のハイテク技術を結集した1本のガラスマホービンの中ビン製造である。

現在に至るまでには、象印マホービンを 取り巻く環境にもさまざまな変化があっ た。しかしそうした中でも同社は創業 来、「暮らしを創る」を普遍的、かつ不変 のビジョンとして据え、このビジョンのも と、多くの人々に共感してもらえる、快 で便利な暮らしの品々を届けることを にて企業活動を展開してきた。また、「生 活者の視点に立ち、生活実感を大切に考え る。そして心から喜ばれる商品開発を進め る。」は同社のモノづくりの原点であるコン セプトである。

3. 社会ニーズへの対応

だが、象印マホービンはただ製品を製造、 販売してきたわけではない。製品の基本性 能の向上をベースにした商品開発や、商品 の新たな価値やライフスタイルの提案など の情報発信活動のほか、製品・サービスの 開発、提供を通じて社会問題の解決にも取 り組んできた。とくに社会問題が多様化、 深刻化する昨今では、これら諸問題の解決 への貢献が企業にも求められるようになっ ており、この要請に対応すべく、さまざま な企業が多様なアプローチを試みている。

本稿で焦点を当てる象印マホービンの場合、社会問題の解決に向けたアプローチのひとつとしてあげられるのが、「みまもりほっとライン」の提供である。以下では、

このサービスの内容や特長を検討するとともに、このサービスが、契約ならびに利用する人だけでなく同社、ひいては社会とって、どういった意味を持つのかをあきらかにしたい。

「みまもりほっとライン」の サービス内容と特長

1. サービスの概要としくみ

「みまもりほっとライン」とは、象印マホービンが、株式会社富士通関西システムズ(現・富士通株式会社)と株式会社 NTTドコモ関西(現・株式会社 NTTドコモ関西支社)の技術協力のもと開発し、2001年3月から、3社の提携により提供を開始した高齢者みまもりサービスである。そのサービス内容は、i-POT(写真1、2)という無線通信機を内蔵した電気ポットを使い、離れて暮らす家族の生活をそっとみまもることができる、というものである。このサービスの累計契約数は1万3500件である(2021年11月20日現在)。



写真 1 i-POT 本体



写真 2 i-POT のパネルアップ

サービスのしくみは、以下のとおりである。まずi-POTを使うと、操作信号がNTTドコモの携帯電話通信網を通じて富士通のシステムセンターの専用サーバに送信される。次に、このサーバで受信した操作信号がメールに書き換えられ、使用状況(電源のオン、給湯、保温中)が1日2回、指定した時刻に家族の携帯電話、またはパソコンにEメールで通知が届く(イメージ図1)。



イメージ図1 使用状況の通知メール

「みまもりほっとライン」の料金は、ポットー台につき、初期費用が5500円(税

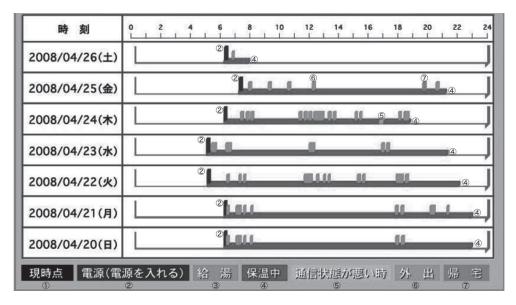
込)、サービス利用料が月額 3300 円(税込)である 6 。また、ポットの使用状況が通知されるメールアドレスを最大 2 件まで追加できるオプションサービス [※1件につき 110 円 / 月(税込)] も用意されている。

2. サービスの機能面の特長

「みまもりほっとライン」の機能面のサービス特長は、以下の3つである。

1つめは、ポットの使用状況を1日2回 通知する E メールサービスである。2つめ は、気になるときにいつでも、最新のポッ トの使用状況を確認できるメールリクエス ト機能である。「今朝はポットを使ってな かったから、次の配信時間まで気になる といったときには、直近で受信したポット 使用状況の配信メールからメールリクエス ト用URLにアクセスすれば、随時、最新 のポット使用状況が記載されたメールを受 信することができる。3つめは、1週間の ポットの使用状況をグラフで確認できる ホームページサービスである(**イメージ図** 2)。 さらに利用者の提案から、2008年に i-POT に追加した「おでかけ」キーを押す と、外出または帰宅の情報も1日2回のE メールで通知を受け取ることができる。

なお、高齢者みまもりサービスと一言ではいっても、近年ではセンサー型(動作センター、人感センサー、ライフライン)、通報型(緊急対応)、対話型(訪問、電話、配達)、カメラ型、GPS端末型など、実にさまざまなタイプのサービスが提供されている。ただし、他社のサービスは設置工事が必要であったり、初期費用が高くついたりする場合も少なくない。これに対して、「みまもりほっとライン」は設置工事が不要なだけでなく、電気ポットの中に無線通信機が内蔵されているため、携帯電話さえつながる環境があれば、インターネット回



注)実際の使用状況グラフはカラー表示である。ただし本誌はモノクロ表示となるため、本図では便宜上、 使用状況に番号を付した。なお、本図で番号を付していない短い灰色の縦棒は給湯(③)を示している。 イメージ図2 1週間のポットの使用状況グラフ

線や Wi-Fi も必要ないという手軽さも特長 である。

3. サービスの契約面の特長

「みまもりほっとライン」の契約の平均 継続期間は5年前後だが、サービスの提供 を開始した 2001 年当初から 20 年以上に及 ぶ継続契約が10件程度あるほか、10年以 上の継続契約となると 150~200 件程度も あるという。なかには、1年にも満たない 短期間で解約するケースもあるが、その理 由は i-POT の利用者である高齢者の施設 入居が多いという。また、疾病や骨折等の 怪我での入院による解約も少なくない。そ こで退院してからも再び利用できるよう、 3か月休止のサービスも導入している。こ のほかに多い解約理由としては、利用者の 死去があげられる。こうした不可抗力によ る短期間での解約があることを想定し、 i-POT はレンタルとしている。

「みまもりほっとライン」の契約につい

ては、他の高齢者みまもりサービスと同様、 みまもる側の子どもが契約するケースが圧 倒的大多数を占め、離れて暮らす両親のど ちらかが亡くなってしまったといったよう に、高齢の親が単独世帯になったのをきっ かけに契約する事例が多いという。契約 者の年齢層は50~60代が約70%を占め、 利用者はその契約者の親世代となるため、 80~90代が多いという。また、契約者お よび利用者の居住地はともに、日本の人口 分布と同様、東京都、神奈川県、大阪府と いった大都市圏が多くなっている。

さらにこのサービスの契約、ならびに利用を検討している人たち向けに、i-POT が届いた日から1か月間、利用料無料でサービスを体験できる「1か月無料お試しキャンペーン」も実施している 7 。このキャンペーンを利用した人たちの約8割が本契約をし、利用継続に至っているという。

上述した機能面、契約面の特長もさることながら、「みまもりほっとライン」の最

大の特長は、電気ポットの使用状況を通して「さりげなく」高齢者をみまもることができる点である。以下では、象印マホービンがこのサービスを開発し、提供するに至った経緯を概観したのち、「さりげなく」みまもることにこだわる同社の真意について検討したい。

「さりげなく」みまもることへの こだわり

1. 「みまもりほっとライン」の誕生

1996年4月、東京池袋のある下町で、病気の息子と看病していた高齢の母親が亡くなってから1か月後に発見されるという痛ましい事件が起きた。このニュースにショックを受けた東京都の医師である網野氏が、「日用品を利用してご高齢者の日々の生活を見守る仕組みができないか」と象印マホービンに相談を持ちかけた。このひとつの相談をきっかけに、象印マホービンにおける研究開発プロジェクトは始動した。

当初は炊飯ジャーと電気ポットの両方で 実験していたというが、実験を重ねる中で、 ポットの方が生活リズムをつかみやすいこ とが分かり、その後はポットの研究開発に 一本化されたという。だがポットと電話回 線を接続する配線の問題や、インターネッ トサービスという象印マホービンがノウハ ウを持ちあわせていない事業分野への進出 に伴うリスクの問題、社内での反対など、 次々と大きな壁に直面した。

そうした中でも、開発担当者の熱意と粘り強さ、さらにはこの研究開発プロジェクトが秘める斬新な魅力により、NTTドコモ関西と富士通関西システムズの共感と技術的な協力を得られることになり、事業化

が実現した⁸。こうして 2001 年 3 月、「みまもりほっとライン」は誕生し、現在に至るまで 20 年以上にわたり、3 社が協力し、サービスを提供している。

だが、スマートフォンやタブレットなど、 手軽に使える通信機器が普及している今日 において、ポットの使用状況を通してみま もる。この点に象印マホービンがこだわる のは、ただ単に、自社製品の電気ポットを 活用することにこだわっているからではな い。「さりげな」いみまもりが、社会のニー ズとして確かに存在する。だから、電気 ポットというツールにこだわっているので ある。

2. 遠距離介護問題をいかに解決するか

「超高齢社会」の日本では元気な高齢者 の増加とともに、その単独世帯も増加して いる。これに伴う問題のひとつが、遠距離 介護の問題である。この問題への対応とし て大きくは、親が子どもの近くに引っ越し する、子どもが親のいる実家やその近くに Uターンする、という選択肢が考えられる。 しかし前者では、親が環境や近所付き合い に馴染めずストレスを抱えてしまう、後者 では、子どもが介護離職により経済的・精 神的に不安定になってしまうといった新た な問題の発生も懸念される。そこで、親子 ともにそれぞれの生活環境を維持しなが ら、ストレスや不安なく生活できる。そん な遠距離介護のあり方を模索することが重 要となる。それを実現する選択肢のひとつ としてあげられるのが、「みまもりほっと ライン」である。

3. 高齢者の習慣からみた存在意義

ただし電話や LINE を使えば、すぐに連絡がとれる時代である。実際、このサービスについては、「スマホや LINE で安否

確認ができるから要らないです」という声が圧倒的に多いという。しかし、電話を掛けても気づかず出てくれない、携帯電話を持たずに外出してしまう、LINEが既読にならない、毎日電話が掛かってきたり、LINEがくるのをうるさがる、LINEの使い方を覚えてくれない、または覚えられないといったように、みまもる側とみまもられる側の間でトラブルが生じることもままある。

これに対して、毎日使う家庭日用品の中でも、最も使用頻度が高い電気ポットを安否確認のツールとする「みまもりほっとライン」では、高齢者がお茶を飲むためにポットの電源をつける、お湯を沸かす、お湯を注ぐといった動作を普段どおりにするだけで、家族は何もしなくても、1日2回届対で、家族は何もしなくても。また、翌年間のよりでは、過去1週間のポットを強力がら過去1週間のよりでは、過去1年間できる。そのため、いつもは寝ているはずの夜中にポットを使っているはずのを察知し、認知症の早期発見につながったケースもあるという。

このように高齢者の習慣をふまえ、ストレスなく、みまもり、みまもられることが 実現できる。この点が、「みまもりほっと ライン」の存在意義のひとつとして指摘で きる。

4. プライバシーの視点からみた存在意義

だが今日、高齢者が電話やLINEに応答しなくても、安否確認できるサービスも多様に展開されている。たとえば、そのひとつにカメラ型のみまもりサービスがある。この種のサービスはカメラで安否確認ができるほか、声かけをしたり、対話をしたりすることが可能なサービスもある。ただし、こうしたサービスは認知症による徘徊対策

には有効と言えるものの、重大な問題を抱えている。プライバシーの問題である。この種のみまもりサービスはどうしても監視されている感が否めない。高齢者自身がプライバシーを守りたいとして拒否するケースも多いという。また日常の安否確認が目的であっても、無断でカメラを取り付けそれがバレてしまうと、最悪の場合、親子間に亀裂が生じてしまうといった問題も懸念される。

その点、「みまもりほっとライン」はみ まもられる側も監視されている感がない。 ポットでお湯を沸かす、お湯を注ぐ。これ だけで、自分が元気であることを家族に知 らせることができる。むしろ、「お母さん 元気だよってことが分かると思うと、何回 も給湯ボタンを押しちゃうんですよしと いった利用者の声もあるという。つまり、 ポットの使用状況が家族に分かることがプ ライバシーの侵害にならない。この点がこ のサービスの最大の強みであり、みまもる 側としても能動的なアクションを起こすこ とができる、唯一無二のサービスだと象印 マホービンは自負している。実際、みまも る側の子どもも親のことは心配だが、プラ イバシーは保ちたいとして、あえてこの サービスを選び、契約するケースも多いと

とくに近年、社会のデジタル化に伴って さまざまなプライバシー問題が顕在化して おり、この問題は親子間であっても例外で はない。「みまもりほっとライン」はプラ イバシーの面でも、親子ともにストレスフ リーで、「さりげなく」みまもり、みまも られることを実現する。そんなニーズに対 応するニッチなサービスとして、その積極 的な存在意義を見いだすことができる。

「みまもりほっとライン」の課題

以上のように、「みまもりほっとライン」 はみまもる側とみまもられる側という同 サービスの当事者、ひいては時代のニーズ に対応した高齢者みまもりサービスとして 位置づけられる一方、課題も抱えている。

1. 契約数の伸び悩み

2001年に「みまもりほっとライン」の 提供を始めた当初は、IoT のようなものが まだなかったこともあって、大きな話題を 呼び、同サービスの契約数は右肩上がり だった。しかし契約数は2010年にピーク を迎え、東日本大震災が起こった2011年 から急激に減少したという。この要因のひ とつは、新規契約数の伸びが鈍化しつつ あった中で、被災地の利用者による契約が 一気に解約となったことで、契約総数が減 少したことであった。このサービスの利用 者は都市部での利用が数で見れば多いもの の、地方部での利用も決して少なくはな かった。このため、東日本大震災が象印マ ホービンに与えた影響も小さくなかったと いう。

2. 市場の動向

さらに近年では、IT 関連を中心に多くの企業が高齢者みまもりサービスを提供するようになっていることにくわえ、きわめて低価格でのサービス提供も目立ってさいる。こうした競合サービスの増加は、「みまもりほっとライン」の契約数減少の一因だという。この市場のターゲットは高齢者単独世帯というよりもむしろその子ども世帯だが、後者が増えていないこともまた、契約数減少の一因だという。つまり、高齢者単独世帯を支える子ども世帯にいかに必要だと思ってもらえるかがカギを握る一

方、高齢者みまもりサービス市場の規模は 拡大していないばかりか、そのような状況 の中で、競合サービスは増えている現状に ある。

また象印マホービンでは、コロナ禍で調理器具に対する巣ごもり需要は非常に好調だったことから、「みまもりほっとライン」についても需要増加を期待したが、問い合わせ自体は非常に多かったものの、契約にまでは至らなかったケースが多かった。手軽さが特長の同サービスだが、導入にあたっては、ポットの設置や使い方を教えるために子どもが親を訪問するケースも少なくなく、コロナ禍でそれができないことが、契約数が足踏みしている背景にあるという。

3. サービスに対する具体的認知

象印マホービンでは「みまもりほっとライン」に対する認知を広めるため、リスティング広告やキーワード広告を出稿してきたほか、自治体の地域包括支援センタのような窓口をやっている民間企業とのでは、アレビ CM 放映などもやって発表機、テレビ CM 放映などもやっているときは、放映翌日には多くの問いとさらないたときは、放映翌日には多くの問いという。ただしこのサービスについては、「こういうサービスがあるんだ」ということは CM で知っているが、その特長 契約が具体的に認知されていない点が、契約が伸び悩んでいる一番の要因だと考えている。

こうした状況分析をふまえ、象印マホービンでは、「みまもりほっとライン」の露出を増やしていくことを当面の課題として位置づけている。この課題への具体的な取組みの一環としては、たとえば、東京ビッグサイト(東京国際展示場)で開催される

介護福祉関係の展示会に出展するなどしている。

4. サービスの限界

また、「みまもりほっとライン」の認知を広めるためのさらなる取組みとしては、介護保険の適用や自治体との連携の可能性についても模索したという。しかし、最悪ではないることを最優先する行気気を回避することを日常の安否を気がした。 うという位置づけの同サービスは、繋が低な知サービスよりもどうして結果は得られなかったという。「さりげなく」みまもり、みまもられる点が同サービスの最大でが、この特長ゆえ、他社のサービスにはかなわない側面もある。

このほか、市場の特性に起因する課題もある。高齢者みまもりサービスについては、たとえば連絡がつかないから、子どもが親のところに行ったら倒れていたという状況が起こり、そこで、平常時の異変に気付きれどいった何かのきっかけがあって初め、で導入するケースが少なくない。つまくないもゆる予防医学の考え方が通用した市場である。したがって、こうした市場である。したがって、こうした市場にやはである。という中ービスへのニーズとシーン、会のニーズを楽していくかという点も、象印マンでは対処すべき課題だと考えている。

象印マホービンにおける 「みまもりほっとライン」の 位置づけと展望

ここまでは、「みまもりほっとライン」 の社会ニーズへの対応という側面に焦点を 当て、その意義や課題をみてきた。以下で は、象印マホービンという会社にとって、 このサービスの提供がどういった意義を持 つのかを検討するとともに、同社が描くこ のサービスの展望について述べたい。

1. CSV としての意義

象印マホービンでは「みまもりほっと ライン | の提供を、電気ポットという同 社の本業の製品を活用した社会問題への アプローチであるとともに、2001年とい う IoT の黎明期に、それに先駆けたサー ビスの提供を開始したという点では、企業 価値向上へのエポックを画するひとつの アプローチでもあったと述べ、その側面 だけではないとしつつも、CSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造)としての 意味合いを持つものと位置づけている。た だし、このように位置づけるようになった のは、2016年、2017年頃といった比較的 最近になってからであり、この背景には、 CSR (Corporate Social Responsibility: 企 業の社会的責任)への注目の高まりという、 いわば時代の要請が少なからずあったとい う。こうした要請をきっかけに、100年以 上続く、多くの人たちに認知されている企 業として、ひいてはそうであるからこそ、 「みまもりほっとライン」を提供する意義 を社会とのかかわりの中で捉え直したこと で、CSVという用語で言語化するに至っ たという経緯がある。

象印マホービンでは、このサービスの提供を CSV としてカテゴライズしたことにより、この事業の当事者だけでなく、直接的には関わっていない社員の意識向上も図ることができたのではないかと考えている。また同社ではこのサービスの提供を CSV としてカテゴライズしたり、近年高い関心を集めている SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)

と関連づけたりすることは、社会からの認知が向上し、わかりやすい目印になるというメリットもあると考えている。一方、それと同時に、象印マホービンという会社が存続する限り、時代の潮流とは関係なく、CSRやSDGsという用語であらわされることに取り組むことが重要であり、こういった概念をうまく活用しつつも、自社ができることを着実にやっていくことが最も大切だと考えている。

2. 象印マホービンのスタンス

現在、湯沸かしツールとしては、若い世 代を中心に電気ケトルが圧倒的シェアを占 めている。また、実際にアンケートをとる と、ケトルの方が使いやすいという利用者 の声が非常に多いという。こうした中に あって、象印マホービンが電気ポットを通 じたサービス提供を継続している理由とし ては、とくに地方部に居住する高齢者の場 合、寄り合いなどで大量にお湯を使う機会 が多いことや、ポットは最も使用頻度が高 い家庭日用品であること等、高齢者の習慣 があげられる。しかしこれらにくわえ、同 社では火傷等の怪我の危険性をできる限り 低減させるという意図もある。モニタリン グで社員の家族にケトルを使ってもらった ところ、重さが気になるという声があった という。「みまもりほっとライン」の主た る利用者は80~90代である。そこで、握 力や腕力が弱っている高齢者でもボタンを 押すだけで給湯できるポットを、メーカー として意識的に採用し続けている側面も小 さくないという。時代の潮流や目先の利便 性にとらわれず、生活者の視点に立ちつつ、 メーカー(企業)としての責任を全うする という同社の姿勢がうかがえる。

さらに、「みまもりほっとライン」の料金について、このサービスを必要とする人

たちに情報がきちんと届きさえすれば、値 引きの必要はなく、むしろ「こんな機能が あったら便利だな」の実現に向け、投資金 ていくべきだと考えている。そこで、料金 を下げるためではなく、サービスを強化す るためのコストダウンを図るべく、開発に 取り組んでいる。「製品の基本性能の強み であり、同社を体現するポイントのひとつ でもある。つまり、既存の商品・サービス の強化による付加価値の提供は、同社の基 本スタンスであることがわかる。

3.「みまもりほっとライン」の展望

象印マホービンでは、利用者からの要望 も多いケトルを含め、現在さまざまな商品 で検証しているが、基本的には上述したス タンスのもと、既存の電気ポットの機能強 化により、サービスの付加価値の向上を図 りたいと考えている。たとえば、さまざま な利用者のポットの使用状況、操作時間、使用時間や頻度等の情報を蓄積したデータ を AI を駆使して解析することで、普段と 異なる使い方が検知されると情報を発信す る、といったような機能の提供によるサー ビス強化などを考えているという。

おわりに

「みまもりほっとライン」は、高齢化の進展とそれに伴う高齢者単独世帯の増加により深刻化が懸念される遠距離介護や、孤独死といった社会問題の解決に向け、電気ポットを活用するというユニークなアプローチを採用している高齢者みまもりサービスである。だが、このサービスはただ単に電気ポットをツールとしているからユニークなのではない。高齢者の習慣やプラ

イバシー保護といったニーズをふまえた上で、互いにとってストレスフリーな距離感を保ちつつ、「さりげなく」みまもり、みまもられることを実現する。そんな唯一無二の特長を持つ点が、このサービスの何よりのユニークの本質であった。

「みまもりほっとライン」が、他社が提供する高齢者みまもりサービスにかなわない側面があるとはいえ、それは逆もまた然りである。さらに健康寿命が過去最長を更新し続ける日本では、元気な高齢者はより一層増えると予測される。つまりこうした動向は、「さりげなく」というユニークなつながりのあり方とその意味があらためて評価されること、すなわち、このサービスの積極的な存在意義が認知される機会が増大していく可能性を示唆しているとも言えるのではないだろうか。

また象印マホービンにおいて「みまもりほっとライン」の提供は、社会ニーズへの対応と同時に企業価値の向上に結びつくものでもあることから、CSVとして位置づけられるとしていた。しかしこうした位置がありつも、「暮らしを創る」という側がありつでも、「暮らしを創る」というのコンセプトスローガンである『日常といった同社の基本スタンスがあり、同社ではその上でCSVと関連づけ、この概念を活用することの意味も明確化していた。

今回のインタビューの中で、象印マホービンではこれまでも CSV や SDGs に相当することに取り組んできたものの、それを言語化することがあまり得意ではなかったという話があった。しかしながら流行りの概念を用いて言語化しても、内実が伴っていなかったり、その取組みが一過性で終わってしまっては意味がない。この点、同

社では CSV や SDGs などの概念の流行り 廃れに関係なく、自社が存続する限り、そ れらのことに取り組むことが重要だと考え ていた。

企業としてのブレない基本スタンスがあり、あくまでそのスタンスのもとで、時代や社会の要請や潮流にもうまく対応する。とくに、SDGsへの異様とも言える注目の高まりの中にある昨今においては、象印マホービンの企業としての姿に学ぶところは大きいのではないだろうか。

注

- 1 総務省 (2021)「統計トピックス No. 129 統計 からみた我が国の高齢者:『敬老の日』にちなん で」(2021 年 9 月 19 日付) 4 頁。
- 2 内閣府(2021)『令和3年版高齢社会白書』9頁。
- 3 小林雅史(2017)「高齢者見守りサービス:多様なサービスの提供と今後の可能性」『ニッセン基礎研レポート2017-06-23』1頁。
- 4 以下、象印マホービンに関する記述は、象印マホービン株式会社 CS 推進本部の樋川潤氏、同社広報部の濱田捷彦氏へのオンラインインタビュー調査 (2022 年 1 月 28 日実施)、同社からの提供資料、同社ウェブサイト (https://www.zojirushi.co.jp/ 2022 年 2 月 3 日閲覧) による。
- 5 たとえば、同社の炊飯ジャー、電気ポットが台 湾ではトップシェアを獲得したほか、中国でも 売上が増加しているという。
- 6 6ヶ月以内に解約した場合は、解約料(6ヶ月 利用料を支払った月数)×3300円(利用料・税込)という所定の解約料がかかる。
- 7 初期費用 5500 円 (税込) がデポジットとして必要だが、お試し期間終了後、本契約しない場合は全額が返金される。
- 8 なお、社内でも事業化には反対の声が大きかった中、唯一事業化を後押ししたのが、象印マホービンの現・代表取締役 社長執行役員(当時取締役)の市川典男氏だったといい、市川氏の先見の明がうかがえる。

書評01

多賀 幹子 著

『孤独は社会問題 孤独対策先進国イギリスの取り組み』

光文社 /2021 年 7 月刊 /248 ページ /860 円+税 ISBN 978-4-334-04552-4

評者:浮網 佳苗 京都大学文学部 非常勤講師



昨今の新型コロナウィルスによるパンデミックによって、人どうしが直接触れ合う機会が減少し、孤独を感じるという人が増えたといわれる。孤独や孤立が大きな問題として取り上げられるようになり、わが国でも政府によって孤独対策がすすめられている。もっとも、孤独はパンデミック以前から社会問題として認識されており、この問題に先駆的に取り組んできたのが、イギリスである。メイ首相時代の2018年に世界で最初の孤独担当大臣が創設されたことは記憶に新しい。本書はそのようなイギリスの孤独問題への取り組みを、在英経験のあるジャーナリストの著者が実際に見て経験した豊富な事例とともに紹介している。

イギリスにおいて、孤独をめぐる状況がどのようなもので、それがいかなるものとして認識されているのだろうか。第1章では、パブや教会などのかつて人々の結びつきの場として機能していたコミュニティの役割が低下し、孤独に陥る人が増加している実態や孤独担当大臣創設までの経緯、民間レベルでの孤独対策の取り組み事例が述べられる。イギリスでは、政府が動き出す以前から、草の根の活動として、企業やチャリティー団体が孤独対策のための様々な取り組みを行っており、この活動を政府が支援するかたちで、孤独対策が広がったという。

第2章では、孤独に陥りやすい高齢者のため の様々な取り組みが紹介される。高齢者の支援 には複数のチャリティー団体が充実したサポー トを提供している。高齢者が無料で電話や直接の対面によってボランティアと会話を楽しむことができたり、老人ホームに暮らす高齢者が地域の文化・スポーツイベントに参加できたりする。このように、チャリティー団体が中心となって、地域のコミュニティを基盤とした高齢者の孤独を救うための実践が行われている。

孤独救済に大きな役割を果たしている存在として、王室もまた重要である。第3章では、国内の多数のチャリティー団体を支援することで、高齢者をはじめ障害者や難病患者、ホームレスなどの社会的弱者に寄り添う王室の人々の姿を描く。現女王は600以上ものチャリティー団体を支援しているし、チャールズ皇太子は複数のチャリティー団体を創設し、400以上の団体の支援も行い、環境問題への関心からオーガニック食品メーカーの経営にまで携わっている。このように、王室はチャリティー団体の支援を通して、弱者を救済する模範としての役目を果たしている。

第4章は経済的社会的に恵まれた境遇にいる 者は社会的弱者に手を差し伸べることが責務で あるという、イギリス社会に浸透している「ノ ブレス・オブリージュ」の考え方を詳述してい る。名門大学の学生や王室、貴族をはじめ、恵 まれた立場の人々には、自らの地位を恵まれな い人々のために使うという精神が強く存在して いるという。

社会的弱者に手を差し伸べることが当然のイ

ギリスでは、それを街の至る所で実感することができる。第5章では、高齢者や障害者などに配慮した工夫についてロンドンを事例に紹介している。例えば、一般の小売店と同じように、街の様々なところにチャリティー団体が運営するチャリティー・ショップが存在していたり、個人によって寄付され、寄付者の名前が刻印されたベンチが至るところに設置されていたりする。また、駅は住民の生活の邪魔にならないような場所にあり、踏切がないため、事故の心配がないこと、スーパーマーケットではレジ打ちの店員は椅子に座り、客とのささやかな会話がみられることも特筆すべきこととして言及されている。

第6章でも、社会的弱者を切り捨てない工夫 が様々な形となって人々の日常に表れている事 例の紹介が続く。身体障害者が特別視されるこ となく、社会に溶け込んでいること、高齢者の 公共交通機関の利用が無料であることなどが述 べられる。さらに、企業も弱者をサポートする 取り組みを充実させており、障害者や性的マイ ノリティーの人々に光を当てた商品やサービス の提供、チャリティー活動に力を入れる。ま た、複数のチャリティー団体はがんや認知症の 患者を支援する取り組みに尽力する。最後に筆 者は、高齢化がすすみ、コロナ禍で孤独感を抱 える人々が増える日本にとって、人々が様々な 形で結びつき、関わりを持ち、助け合えるため の実践や制度が充実している「イギリスに学ぶ 点は多いのではないか」と締めくくっている。

以上、本書の概要を紹介した。以下では評者の感じたことを述べたい。世界初の孤独担当大臣が創設されたことから、本書でも政府の政策の詳細や政治の話が中心的話題なのではと思われた方も多いかもしれない。実際は、上述したように、本書の大半は、民間での地道な取り組み事例で埋められている。紹介される事例は、日常のささやかな事柄から、国際的に活動するチャリティー団体まで、実に幅広い。通常であ

れば見落としてしまいそうな日常の一コマにも イギリスならではの、弱者に配慮したしくみや 人どうしのあたたかな交流を見出しており、筆 者のジャーナリストとしての観察力が発揮され ていると感心してしまった。本書で示される 様々な取り組みにおいてとりわけ際立っていた のはチャリティー団体の存在である。欧米のな かでもイギリスでは、チャリティーを筆頭に非 営利の活動が非常に活発である。このことが、 孤独対策の積極的な取り組みにつながっている と考えられる。

一方、イギリスという国でこれほどまでに非 営利の活動が盛んになった理由については述べ られていない。この答えを知るためには19世 紀の産業革命以降の社会について理解する必要 があるが、歴史的な話にはほとんど言及がなさ れていないのが残念である。19世紀に資本主 義経済のしくみが確立されるなかで、貧富の格 差や劣悪な労働環境、大気汚染など現代に通じ る様々な問題が生じた。経済活動において自由 が重視され、政府ではなく、民間の活動が活発 だったイギリスにおいてこうした問題の緩和に 奔走したのが、チャリティーや協同組合などの 非営利組織であった。とくにチャリティー団体 は、苦しんでいる人々を見つけ出しそれを社会 問題化することに重要な役割を果たしてきた。 こうした過去から続いてきた営みが、現在のイ ギリス社会の特徴を形成しているといってもい いだろう。昨今問題化されるようになったヤン グケアラーについても世界で最も先進的な支援 を行っているのはイギリスである。歴史的視点 も含めて広い視野でイギリスの孤独対策を理解 することが、日本の対策の参考とするうえで重 要になってくるのではないだろうか。

もっとも、本書の文体は総じて読みやすく、イギリスの社会や文化についても知ることができ、日本でも深刻さを増す孤独問題について考えるための入り口として多くの人の手元に届いてほしい一冊であることに変わりはない。

書評02

坂村 健 著

『DX とは何か 意識改革からニューノーマルへ』

KADOKAWA/2021 年 4 月刊 /248 ページ /900 円+税 ISBN 978-4-0408-2339-3

評者:上野秀剛 奈良工業高等専門学校



本書が解説するDX(デジタルトランスフォーメーション)を一言で言ってしまうと「やり方の改革」です。小規模な改善ではなく、やり方、考え方を根本的に変えることで社会の効率化を目指します。その手段として、近年発達が著しい AI やネットワーク、蓄積されたビッグデータを使う点がデジタルな所です(Transformation は変身、変化という意味で、英語圏では省略するとき T ではなく X と書きます)。

DXが目指す効率化は、「社会の成長」と置き換えると意味が理解しやすくなります。日本や欧米のような成熟した国家では、道路や建物などのハード面の整備によるのびしろは大きくありません。一方で、成熟国家の多くは少子高齢化が進んでおり、より少ない力で成長できる効率性を獲得しないと持続可能な社会にはならず、社会サービスの質を下げざるを得ません。そのため、残されたフロンティアとしてソフト面の整備による成長を目指します。

意味が似た言葉である「IT 化」は紙や電話、FAX をデータやメールに置き換えることで効率を上げることができますが、多くの場合、「やり方」は変わりません。例えば複数店舗の売り上げ集計を FAX からメールに変える IT 化は効率こそ上がりますが、店舗の誰かが本部に連絡し、本部の誰かが受け取って処理するという形は変わりません。一方、DX では各店舗の売り上げ情報は POS レジから本部に自動送信さ

れ、連絡、受け取りが要らない上に、よりリア ルタイムな情報として見ることができます。

DX は社会のやり方を変えるので、生活のあらゆる面で DX が起こる可能性があります。コロナ禍によって一気に実現したテレワークはその典型です。テレワークをうまく進めるためには仕事のやり方や「勤務」に対する考え方を変える必要があります。また、通勤が不要となり、従来のやり方ではあり得ない効率化が起こりました。一方、仕事相手がテレワークに対応していなければこちらもテレワークにすることは難しく、新しい考え方に対応した環境やルールの整備も必要です。そのため、DX は社会全体で取り組む必要があります。

他のDXの例として有名なものとして、都市交通のDX、サービスとしての移動(Mobility as a Service: MaaS)があります。A 地点から B 地点に移動したい人がこのサービスを注文すると、付近を走る乗り合いの自動車が迎えに来て、ドア to ドアの移動を実現します。迎えに来る自動車は、すでに乗っている客の移動をできるだけ遅くしない様に選ばれ、移動経路も最適化されます。決まった経路を決まった時間に走る現状の公共交通に比べて利便性が高く、自分で車を保有・管理する必要も無く、乗り合いなので安く、車の総量を減らすことで環境にもないで安く、車の総量を減らすことで環境にもないで安く、車の総量を減らすことで環境にもないで安く、車の総量を減らすことで環境にもないませんが、その本質は「移動手段は自分の車か、決まった路線を走るバス」のような従来の

やり方を変えることにあります。

従来のIT 化ではなく DX が可能になった理由、つまり、同じデジタルなことなのに「やり方の改革」が可能になったのは、AI 技術とネットワークの発達、それと(日本以外では)社会が使えるデータの蓄積のおかげです。

AI は 1960 年代に生まれた技術ですが、2012 年の画像認識コンテスト(猫と犬の画像を区別 する AI の精度を競う) でディープラーニング という手法が精度を10%引き上げた(それ以 前は年1%程度の改善)ことで注目され、音声 認識や翻訳など様々な分野に急速に拡大しまし た。ディープラーニングがやることを例えると、 足先を見てどれだけ猫っぽいか、顔を見てどれ だけ犬っぽいかというように、特徴を元に「可 能性」を積み上げていき、最終的に最も可能性 の高い候補を結果として出す、という感じです。 大量にある特徴それぞれに対して可能性を計算 するためには膨大な処理が必要で、コンピュー タの能力が向上するまで実用化されませんでし た。しかし、コンピュータのGUI化とコンピュー タゲームの発達によって画像を処理するための 専用部品である GPU が発達、流通したことで 多量の計算をしやすい環境がいつの間にか手元 にあり、ディープラーニングの実用化につなが りました(ちなみに、GPU の発達のおかげで スマホも生まれています)。実用的な精度を持 つ AI が生まれたことで、従来は人間しかでき なかった「判断」や「推測」をその前後の定型 的な処理ごとプログラム化できる可能性が広が り、DX が促進されます。

また、AIやIT化された業務で使用するデータはネットワークを通じて簡単に集めることができます。携帯電話を例に挙げると、1979年に始まった第1世代(IG)の通信速度9.6Kbps対して2020年開始の5Gでは20Gbpsと、40年で200万倍早くなっています。通信料も圧倒的に安くなっており、小型化を続ける電子装置をネットワークにつなぐことで気温や湿度、バ

スの混雑度、機械装置の稼働状況など様々なデータを簡単に集めることができます(そのための装置や技術が IoT です)。IT 化された業務で作られる書類や資料もデータとして活用すると、AI に学習させるための様々なデータがすでに集められています。それでも、AI は大量のデータを学習するほど適切な特徴を見つけ、より精度の高い「可能性」を計算できるようになるため、データはまだまだ足りません。そこで重要なのがデータの共有です。

アメリカでは政府の持つデータを公開する 「オープンデータ」という取り組みが2009年に 始まり、自治体や企業も積極的にデータを公開 しています。情報工学の分野では以前からプロ グラムの元となるソースコードについても企 業、個人が公開しており (オープンソース)、 プログラミングができる人なら誰でもオープン なデータとソースコードを元に新しい AI やア プリを作成、ビジネスを作れる土壌があります。 高い効率を目指し、今までと異なる「考え方」 が必要な DX を推し進めるためには、このよう な新しい試み、イノベーションが社会のあらゆ る所で起こることが求められます。しかし、残 念ながら日本ではオープンデータはなかなか進 んでおらず、自治体などが公開するデータも量 が少なかったり、そのままではプログラムで処 理できない形式だったりと目的が理解されない まま形だけの対応が取られている現状です。

AIの利活用、データの共有が圧倒的に遅れている日本は、ゆでガエルになる前に新しい考えを浸透させ、DXが進んだ強い社会になることが必要です。繰り返しになりますがDXは「やり方の改革」であり、技術よりも考え方が重要です。そして、その対象は「くらし」であり、社会の「協同」を、推し進めるための取り組みです。本誌読者の皆さんも、自分の職場や地域社会、家庭のDXについて考えていただければ日本社会のDXが加速することでしょう。

くらしと協同の研究所主催

第2回 コロナショック特別研究会 (2021年11月) の基調講演 (誌上掲載)

基調講演

コロナ禍での人々の暮らしと医療福祉生協の課題 ─社会政策の視点と協同組合の視点から─



佐藤 卓利

立命館大学特任教授・乙訓医療生活協同組合理事長 (2021 年 11 月 14 日(日)開催)

はじめに

みなさんこんにちは。立命館大学の佐藤 卓利です。今日は、滋賀県草津市のびわこ・ くさつキャンパス (BKC) の研究室から 参加しています。この「くらしと協同の研 究所」主催の「第2回 コロナショック特 別研究会」で報告の機会をいただいたこと に感謝します。この研究会の報告依頼を立 命館大学の小田巻友子さんからいただいた のは、8月の中旬であったかと思います。 「喜んでお引き受けします」とお返事した 後、「肩書はどうしましょうか」と訊かれて、 ちょっと考えました。本職は研究者ですの で立命館大学特任教授でいいのですが、3 年前から乙訓医療生活協同組合の理事長を しています。「くらしと協同の研究所」主 催の研究会で、その名称が「コロナショッ ク特別研究会」であれば、もう一つの肩書 も表示していただき、その立場からも報告 させてもらおうと思いました。それで今回 の報告については、乙訓医療生協の理事会 でも理事のみなさんにお知らせし了解を得 ております。

今日の報告は、最初にレジメにも書きましたが2つの視点からさせていただこうと思います。1つは「社会政策の視点」です。

わたしは、これまで医療と介護の政策につ いて研究してきました。それは医療や介護 の内容ではなく、それらがいかに必要とし ている人々に上手く提供できるかについ て、患者や利用者側から考えるというテー マです。もちろん医療や介護の内容を無視 して提供のあり方を論じることはできませ ん。この30年近く、機会のあるごとに医療・ 介護そして福祉の関係者からお話をお聞き し、また研究会や学会を通して学んできま した。しかし医療や介護の内容については、 あくまでも「素人」です。そのことを自覚 しつつ、「素人」の立場で、すなわち普通 の市民としてそのサービスを直接・間接に 受ける患者や利用者の立場で、おもに日本 の医療と介護の問題点を探り、解決の方策 を考えてきました。

もう1つは「協同組合の視点」ですが、これは直接には乙訓医療生協の理事就任の時から数えれば5年間ほどの経験から学んだものです。こちらは、この研究会の第2部で経験豊かなみなさんからの「実践報告」で補っていただきたいし、この機会にわたしももっと学びたいと願っています。前置きは、このくらいにして本題に入ります。

1. 社会政策の視点から

(1) 公衆衛生

人類は、有史以前からいろいろな感染症 に苦しめられてきたと思いますが、その原 因が分からなくても、感染者を隔離するこ とで感染の広がりを防ぐという対策を取っ てきたと思います。というか、お祈りや供 物を捧げて病気の快復を願う以外の対策 は、感染者の隔離しかなかったと思いま す。感染症は、多くの犠牲者を出し、ある 社会がまるごと消滅してしまうということ もあったかもしれません。歴史的に遡れる 感染症の事例は何なのかは不勉強で確認し ておりませんが、歴史的に有名なのは、ペ ストでしょう。これについては、村上陽一 郎著『ペスト大流行―ヨーロッパ中世の崩 壊』(岩波新書)が参考になります。ヨーロッ パだけでなく、アジアも新大陸のアメリカ でもペストの大流行に襲われていますが、 14世紀にヨーロッパで広がったペストは、 当時の人口の3分の1を死亡させたという ことで、農民や職人などの労働力不足を引 き起こし中世社会から近世社会への転換の きっかけになったともいわれています。原 因の分からない感染症の広がりは、それに 襲われた人々に大変な恐怖を与えたことで しょう。

ペストなどの感染症を引き起こす原因が、特定の細菌であることが発見されるのは、19世紀の後半からで、ペスト菌の発見は1894年、コレラ菌の発見は1854年で最終的にコレラを引き起こす病原体として確認されたのは、1884年にロベルト・コッホによるということです。

しかし病原体の発見以外に科学的な対策がなかったかというと、そうではありません。それ以前に、1854年のロンドンのコレラ大流行において、ジョン・スノウがコ

レラで死亡した患者の分布と飲料水の供給源との関連を徹底的に追求し、特定の井戸水が流行の原因であることを突き止めまていませんが、特定の井戸水にコレラを引されてませんが、特定の井戸水にはり立ち、それまで原因があるとの推測が成り立ち、ららいます原因があるといという対策が立ています。との疫学調査にもとでき、住民の病気を防ぐ集団的方法を公衆衛生といいます。公衆衛生は、感染症に対して個人的な対応ではなく、まさに社会全体の安寧(well-being)のために国家が行うべきものです。

WHO 憲章では、その前文の中で「健康」について、次のように定義しています。 Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. 日本 WHO 協会の訳では、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます」と表現されています。わが国では、すべての人々の「健康」を実現する公衆衛生の第一線機関として保健所があります。

新型コロナ感染症に対して、現在全国各地の保健所が懸命に公衆衛生の業務に取り組んでいます。その具体的な状況と問題点については、後半で述べたいと思いますが、その前に簡単にその歴史を振り返って見たいと思います。1937年に公布された保健所法により、保健所が全国に設置の主要な自然になりました。保健所設置の主要な自動の1つは、当時国民の死亡原因の第1位であった結核の対策でした。毎年10万人以上の人々が結核で亡くなっていました。病原体である結核菌に対する有効な薬、ストレプトマイシンなどの抗生物質が発見され、実用化されるのは、1940年代以降で

すので、なかなか結核による死亡者は減り ませんでした。

保健所が設置された 1937 年は、日中戦争のきっかけとなった盧溝橋事件が起きた年です。その後 1945 年の敗戦まで、日本はずっと戦争をし続けていました。実際のところ当時の保健所に政府が求めたのは、総力戦遂行のために必要な健康な若い男子を確保のするための公衆衛生、「健民健兵政策」としての公衆衛生でした。

敗戦後、連合国総司令部 (GHQ) の占 領政策下に、戦時体制が解体され、非軍事 化・民主化が進められることになりまし た。今日のこの研究会に参加されているみ なさんにとっては、あらためて言われるま でもないことかと思いますが、敗戦の翌年、 1946年に日本国憲法が制定されました。 その第25条で「①すべて国民は、健康で 文化的な最低限度の生活を営む権利を有す る。 ②国は、すべての生活部面について、 社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及 び増進に努めなければならない。|と謳わ れています。この新しい憲法に基づいて、 保健所法が全面改正されました。この改正 により、それまで警察署が担当していた食 品衛生、急性感染症予防等の警察業務が保 健所に移管され、保健所は公衆衛生の第一 線機関としての機能が強化されることにな りました。(『平成26年版 厚生労働白書』 4-10ページ参照)

(2) 医療制度-医療提供体制と国民皆保険

公衆衛生は、国民全体の健康を守るために、国や自治体が責任をもって行う事業で、個人ではなく集団を対象とする総合的な科学と技術の体系と言えるでしょう。それを構成する学問としては、疫学や生物統計学などの自然科学だけでなく、社会医学などの社会科学にまたがる分野もあります。一

方、個人を対象とするのが臨床医学とよば れる分野です。こちらの方は、わたしたち になじみ深く、内科・小児科・外科・眼科 などのさらに細かい分野に分かれます。

わが国では、医療は憲法第25条に規定されている社会保障制度の中に位置づけられ、社会保険の仕組みを使った健康保険と、健康保険にカバーされない場合は生活保護の中の医療扶助によって、病気や怪我などの治療にあたります。医療を直接提供するのは、病院や診療所などの医療機関であり、そこで働く医師・看護師等の専門職です。わが国では、国や自治体などが運営する公的医療機関は、全体の2割程度で残りの8割くらいは民間が担っています。しかし民間であっても、その経営には非営利原則が求められます。

わたしたちが経済的負担を心配せずに、 いつでも、どこでも安心して医療を受ける ことができるよう保障する責任が国にあり ます。国はすべての人に平等に医療を提供 しなければなりません。この原則が大事な のですが、現実にはこの原則が揺らぐ事態 が生じています。何故かというと、わが国 の医療制度は、社会保険の仕組みを使って 運営されていますが、この仕組みは、病気 や怪我という「将来起こるかも知れないリ スク」に備え、「仲間たち」が保険料を出 し合って基金を作り、不幸にして病気や怪 我をした仲間に、その基金から治療費を出 すという保険の仕組みを柱にしています。 そして法律にもとづいて職場や地域ごとに 保険への加入と保険料の支払いを強制しま す。保険に入りやすくするためには、保険 料を安くする必要があります。しかしリス クの高い人、つまり病気になりやすい人が 多く保険に入ると、保険からの支出が増え 保険料を値上げしなければなりません。保 険の仕組みには、こうした矛盾がありま

す。この矛盾を解消する方法が、保険の財 政を国や自治体が税金で支える仕組みなの です。ここが民間保険と社会保険の違いで す。

ちょっと説明がややこしいかも知れませ んが、みなさんは、それぞれ健康保険に入 られていますよね。民間企業にお勤めなら ば、その企業の従業員で構成される健康保 険組合、あるいは小規模な多くの企業を一 つにまとめた協会けんぽ、公務員は共済組 合に加入していますね。これらは、職場ご との仲間によってつくられた健康保険で す。職場ごとの健康保険に入れない、自営 業者・非正規雇用者・退職者・失業者などは、 自分が住む市町村と都道府県が運営する国 民健康保険に入ることになっています。こ の仕組みを国民皆保険制度と言います。こ れは、1961年に国民健康保険法という法 律が施行されて実現されたのですが、法律 の組み立てとしては、まず国民全員が国民 健康保険に加入することになり、そのうえ ですでに健保組合などの保険に入っている 人は、そこから除かれるという仕組みです。 すべての国民が、さらに言えば日本に住所 を有する外国籍の人も国民健康保険に加入 するという仕組みによって、日本で暮らす すべての人に公的な医療を提供するのが国 民皆保険制度です。この制度を維持するめ には、多額の税金の投入が必要です。ちな みに2019年度の「国民医療費」のうち国 と地方自治体が負担した公費は、約20兆 円です。国民医療費の38.3%を占めます (厚生労働省『平成30年度国民医療費の概 況』)。このように社会保障は、つねに税金 の使い方と密接につながっています。税金 の投入によって保険の矛盾の発現は、一定 程度抑えることはできますが、国民健康保 険も保険である限り、そこからの「給付を 受ける条件は、保険料を収めることしとい

う原則は貫かれます。事情によって保険料 支払いの減額や免除がなされるという仕組 みはありますが、保険料の支払いがハード ルとなって国民健康保険に入らない人が大 勢います。国民健康保険に入っていなくて、 医療が必要になった場合、生活保護制度の 医療扶助という仕組みがありますが、その 適用も実際にはいろいろ困難があるようで す。

もう1つ公的医療保険が、社会保障制度 であるといえるのは、各保険から提供されるのは医療費ではなく医療サービスであるということです。民間保険のような現金給付ではなく、現物給付であるということもです。この現物給付には、検査や薬なども含みます。その現物給付の水準は、医学の進歩を反映した適切で安全なものである選歩を反映した適切で安全なものである報酬制度があること、医療機関や医として診療報酬制度として登録することをがありますが、説明は以上にしておきます。

(3) 社会政策と人々の暮らし

ここまで公衆衛生と医療制度についてお 話してきましたが、視点をもう少し広げ て経済と社会のなかにそれらを位置付け、 とと社会のなかにそれらを位置付け、 といます。の役割について考えてみたいと 思います。経済活動とは、簡単にいえば をしたちの生活の基礎はばわ たちが生きて消費する活動です。 活動が安定的に継続されなければ、わたし たちの生活は成り立ちません。生産は社会 的に行われます。わたしたち個人は、 れとして社会的な生産活動の一端を担っ います。これを社会的分業といいます。

一方、消費は基本的に個別的で私的なものです。したがって消費の単位は、個人か家族です。そして生産と消費は流通によっ

て結び付けられています。流通とは、生産 者から消費者へのモノの流れを担う経済活動です。これも大切な経済活動です。流通者 も社会的な性格を持っています。流費者と して商品を購入します。つまり自分の持 して商品を購入します。これを り手に渡し、そ商 るお金を商品を手にしたちの社会は 経済といいます。わたしたちの社会は 経済といいます。わたしたちの社会は の行動を律する世界です。損得、 金勘定といってもよいかも知れませんが、 それを判断基準として競争が展開する世界 です。

資本主義経済とは、生産や流通のおもな 担い手が個人から組織にかわり、その組織 が営利を目的にして常にその規模を拡大し ようと活動する「資本」という性格を持ち、 その資本が主役となった経済です。資本と いうより「会社」といったほうが、なじみ のある表現ですが、会社は経済学的に見れ ば、巨額のお金の塊で、常にその金額を拡 大しようと運動しています。その運動が生 産活動であり、その延長としての流通つま り商業です。そしてその運動場が市場です。 さて、今日の研究会のテーマである医療や 介護について、経済学的にはどう考えたら よいのでしょうか。医療や介護は、人が人 に直接働きかけるという意味で、サービス といえます。人の働きかけの対象がモノで あれば、その成果は生産物で、それは市場 で商品として販売されます。実はサービス も商品として売られています。美容院やエ ステティック・サロンが身近な例です。こ のようなサービスと医療や介護の違いは何 かというと、それはサービスではあるけれ ど商品ではないということです。つまり、 市場での売り買いではなく、社会保障制度

として市場のルールとは別の仕組みで運営されているということです。「そんなこと、分かり切ったことではないか」と思われるでしょうが、あとでお話しする「新自由主義」の広がりとは、社会保障制度への市場の侵入ということですので、あらかじめここで確認しておきたいと思います。

医療や介護は、自分が支払うことができる金額によってその質と量が決まる商品ではなく、つまり私的に購入し消費するサービスではなく、必要に応じて誰にも平等に提供されるべき社会的サービスです。字沢弘文さんは『社会的共通資本』(岩波新書)で、医療を「制度資本」と呼び「人間が人間らしい生活を営むために、重要な役割を果たすもので、決して、市場的基準によっては支配されてはならないし、また、官僚的基準によっても管理されてはならない。」(6ページ)といっています。

社会のすべての領域が「市場的基準」つまり、市場のルールによって支配された現すれば、まさに「弱肉強食」の世界が出現し、弱者は強者の食い物にされ、少数の弱者を支配することになります。社会の中での対立が深まり、多数の人義の不満は社会の仕組み、つまり資本主義とのかうことになります。世の中の多先をのが、社会の矛盾を感じその批判の矛先をのが、社会の矛盾を感じその批判の矛先を付組みを根本的に変えることを目指さない出るを根本的に変えることを目指さない出る。国家は、市場のルールを一定程度修正し、資本の自由な活動を制限する必要に追られます。

先に、社会保障制度を憲法第25条に謳われた基本的人権を保障する制度といいましたが、これは大事な点で、これをしっかり確認したうえで、社会保障制度のもう1つの側面つまり資本主義を維持するという

側面からも見る必要があります。人権を保障するという側面と体制を維持するという側面、この2つの側面を持った社会保障制度のあり方を巡って、それぞれの側面を支持する勢力がせめぎあっているというのが現実です。

わたしが学んできた社会政策という学問は、こうした視点に立って国家が行う医療や介護あるいは福祉などの社会保障の政策や制度を批判的に検討する学問です。時間がないので端折りますが、第二次世界大戦後の先進国、アメリカや西ヨーロッパ、そして遅ればせながら日本などは、経済制度の組み合わせによって国民に登を実現し、その成果の一部を社会保障民にを担税制度の組み合わせによってのような体制を「福祉国家」体制といいます。戦後復興から1970年代までが、福祉国家が確立し発展を見せた時期です。もちろん各国立とに違いがあり、日本などは未熟な福祉国家といわれていました。

こうした福祉国家への批判が、1970年代末から80年代かけて全世界的に広がりました。サッチャリズムとかレーガノミクスという言葉で象徴される「新自由主義」の到来です。さらに、その後の「社会主義体制」の崩壊が、資本主義体制批判の思想と運動にも大きく影響し、世紀をまたいで広がったグローバリズムと呼ばれる、資本の国境を越える世界的展開が、国家による資本への規制を弱めてきました。それに伴って、国家財政の赤字が拡大し、「新自由主義」からの社会保障への批判が強まり、「福祉国家の後退」と呼ばれる事態が各国で広がりました。

以上、非常に大雑把に福祉国家について 述べましたが、社会政策の視点では、国家 が政策の主体で、国民は、特に働く人々と その家族は、政策の対象つまり客体である という位置づけになります。この視点の問題点を、つぎの「協同組合の視点から」で述べたいと思います。

2. 協同組合の視点から

(1) 消費生活協同組合法に基づく組織

協同組合を広くとらえれば、農業協同組 合などの生産者による協同組合も含みます が、ここでは消費生活協同組合法に基づく 組織、いわゆる生協を念頭に置きます。消 費生活協同組合法は1948年に制定されま した。日本国憲法が公布された2年後です。 その第1条は、「この法律は、国民の自発 的な生活協同組織の発達を図り、もつて国 民生活の安定と生活文化の向上を期するこ とを目的とする。」と謳っています。戦後 日本社会の民主化への強い期待を反映した 法律といえます。ここでわたしが注目した いのは「国民の自発的な生活組織」という 生協の性格付けです。そして国民が生協と いう組織を通じて「生活の安定と生活文化 の向上」を自発的に目指すことが、期待さ れているということです。

わたしは、ここであえて「社会政策の視点」、つまり国家が政策の主体であって国 民が客体であるという社会保障へのアプローチの仕方に対して、国民が自発的ある いは自覚的にみずからの知恵と力そしてお 金を結集して、組織をつくり事業と活動の 経験を蓄積しながら、国民の側から国家の 政策に対峙し対案を提起しその願いを実現 するという、もう1つのアプローチを提起 したいのです。つまり「協同組合の視点」 です。

生協は、地域・職場・大学などで事業を 展開していますが、生協法の第10条は生 協の事業の種類を規定しています。以下の

8種類が規定されています。

- 1 組合員の生活に必要な物資を購入し、 これに加工し若しくは加工しないで、又 は生産して組合員に供給する事業
- 2 組合員の生活に有用な協同施設を設置 し、組合員に利用させる事業 (第6号及 び第7号の事業を除く。)
- 3 組合員の生活の改善及び文化の向上を 図る事業
- 4 組合員の生活の共済を図る事業
- 5 組合員及び組合従業員の組合事業に関 する知識の向上を図る事業
- 6 組合員に対する医療に関する事業
- 7 高齢者、障害者等の福祉に関する事業 であって組合員に利用させるもの
- 8 前各号の事業に附帯する事業

この8項目のうち、今日の報告でお話しさせていただくのは、6と7の項目です。私が理事長を務めております乙訓医療生協もおもに6と7の事業を行っています。生協法が2009年に改訂されて、その事業として6と7の事業が明示されました。生協の中で6と7の事業を中心にしている生協が、いわゆる医療福祉生協という組織です。

(2) 医療福祉生協の理念

2009年の生協法改正をきっかけに、従来から生協の全国組織である日本生活協同組合連合会の医療部会に結集して活動してきた医療福祉生協は、2010年に新たな全国組織として、日本医療福祉生活協同組合連合会を立ち上げました。私が所属します乙訓医療生協も、この後に実践報告をしていただく姫路医療生協と岡山医療生協も連合会に入っています。

ここでわたしが、医療福祉生協の関係者 を前にして、パソコンの画面越しにですが、 あらためて「医療福祉生協の理念」を紹介 するのは、大変気が引けるのですが、やは り医療生協がどんな組織かということを 知っていただくには、いちばん分かりやす いメッセージかと思います。

端的に「健康をつくる。平和をつくる。 いのち輝く社会をつくる。」が医療福祉生 協の理念です。この3つの理念は、それぞ れ憲法の第25条「生存権」、第9条「平和 主義 |、第13条「幸福追求権 | を分かりや すく述べたものだと思います。「そのため に地域まるごと健康づくりをすすめます。 地域住民と医療や福祉の専門家が協同しま す。多くのひとびとの参加で、地域に協同 の"わ"をひろげます。」と理念は宣言し ています。この理念の実現に向けて、全国 各地の医療福祉生協は、日々それぞれの定 款地域で事業と活動を展開しています。今 日の研究会の第2部で、コロナ禍での実践 例を報告していただきますが、わたしのこ の報告は、その「前座」として聞いていた だければと思います。

3. コロナ禍は人々の暮らしに どのような影響を及ぼして いるか

ここからは、コロナ禍が人々の暮らしに 深刻な影響を与えていること、特にその影響を被る人々の間には大きな格差があるこ とに注目して、現時点での状況を確認した いと思います。まず日本について見ていく 前に、世界の状況を簡単に見ておきたいと 思います。

(1) 各国間での感染率・死亡率の相違

今日の新聞に11月13日午後5時現在の世界の新型コロナ感染者数と死者数を示す表が載っています。世界計で感染者数が、2億5254万1971人、死者数が508万8550

人です(「朝日新聞」2021年11月14日付)。 わたしは、毎日この表を見るのが日課になってしまいました。感染者数の上位10カ国は、米国・インド・ブラジル・英国・ロシア・トルコ・フランス・イラン・アルゼンチン・スペインですが、各国の人口が異なりますので、感染状況を見るには感染率で見たほうが良いと思います。また深刻さの度合いは、死亡率で見ることができると思います。

以下の数字は、昨日 (2021 年 11 月 13 日) インターネットからひろったものですが、 おもな国の「人口 100 万人あたりの感染 者数」は、アメリカ 140,288.8 人、イギリス 136,797.2 人、アルゼンチン 117,162.7 人、 フランス 111,857.1 人、ブラジル 102,853.4 人、日本 13,625.4 人、韓国 7,367.2 人、中国 67.9 人となっています。

https://web.sapmed.ac.jp/canmol/coronavirus/ また、「人口 100 万人あたりの死者数」は、 ブラジル 2,865.4 人、アルゼンチン 2,568.4 人、アメリカ 2,277.7 人、イタリア 2,188.7 人、イギリス 2,092.0 人、フランス 1,820.5 人、日本 144.7 人、韓国 57.7 人、中国 3.2 人です。

https://web.sapmed.ac.jp/canmol/coronavirus/death.html

この感染率と死亡率の国ごとの際立った 違いは、1つは各国政府の感染対策への姿 勢の違いが反映していると思います。米国 のトランプ大統領やブラジルのボルソナロ 大統領は、新型コロナウイルス感染症に対 し積極的な公衆衛生対策は取りませんでした。当初はインフルエンザのような捉え方 をしていました。ヨーロッパの国々は、感 染拡大を防ぐためにロックダウンなどの対 策も講じましたが、その効果は十分に出高 いません。ヨーロッパの国々や米国では いません。ヨーロッパの国々や米国では いません。ヨーロッパの国々や米国で いません。コーロッパの国々や し、死者数の増加につながったようです。

日本は、アメリカ大陸の国々やヨーロッパの国々に比べれば感染率・死亡率とも桁違いに低いですが、東アジアの中では最も高く、日本国政府の対応が決して立派なものであるとはいえません。中国の感染率・死亡率の際立った低さが注目されますが、政府による個人を特定しその行動を強力に規制できる仕組みは、感染防止対策には有効かもしれませんが、「平時」においても、その仕組みが望ましいとは思いません。

各国間での相違の2つ目の原因は、おそらく国民の行動様式・思考様式の違いでしょう。マスクの着用が法律で義務づけられているヨーロッパの国々では、それにもかかわらず着用しない人がいて、警察ましたが、他方日本ではそんな法律がないを前しています。また、人と人との距離の取りたなども、生活習慣の違いがありますね。それが家庭や地域などでの感染率の違いにも反映されているのかも知れません。

今のところ、有効な対策はワクチン接種ですが、ウイルス株が変異することで、その有効性にも限界があるようです。とはいえ、様々なワクチンが開発され、先進国を中心にその接種が進められています。しかし全世界に行渡るにはまだまだ時間がかかりそうです。発展途上国はワクチンが行渡らず、経済力のある国との格差がますます広がっています。

アフリカなどの発展途上国では、従来からマラリヤや結核などの感染症で、毎年多数の人が亡くなっています。清潔な飲料水の確保、下水処理、栄養価のある食糧の確保、予防接種などの公衆衛生が、十分に行渡らない状況に加えて、今回の新型コロナウイルス感染症は、発展途上国の苦難をさ

らに強めています。わたしたちは、ともすると自国のことに関心が向きがちですが、コロナ禍は世界的な出来事であり、世界を俯瞰する視点で、まさにパンデミック(pandemic)としてこの事態を捉えなければならないと思います。

(2) 新型コロナウイルス感染症による国民 生活への影響

国内に目を向けると、新型コロナウイルス感染症は、従来から仕事や生活において厳しい状況下にある人たちに、より大きな影響を与えています。『令和3年版 厚生労働白書』が、その第1部「新型コロナウイルス感染症と社会保障」で、その概要を述べていますので、この報告では、『白書』にもとづいておもな特徴を紹介します。

2020年1月15日に国内で最初の感染者 が確認されました。そして4月7日に7都 府県を対象に緊急事態宣言が発出され、16 日には対象が全国に拡大されました。それ により外出自粛要請と飲食店等に休業要請 がなされました。この自粛要請と休業要請 は、とくに宿泊業、飲食サービス業、生活 関連サービス業などの雇用に大きな影響を 与えました。とくに大きな影響を受けたの は、非正規雇用労働者です。さらにその中 でとりわけ女性のパートやアルバイトの数 が大幅に減りました。2020年4月の対前 年同月比の女性パートの数は、50万人以 上減っています。その後の「宣言」発出、 終了の繰り返しのなかで、数の変動はある ものの、女性パートの減少傾向は変わらず、 2021年2月は1年前にくらべて60万人近 く減っています。また、雇用労働の形態を とらない、いわゆる「フリーランス」で働 く人たちが、仕事が減り売上高が落ちて困 窮していることも指摘しておきます。

コロナ禍による働き方の変化という点

で、広がったのはテレワークですが、これについても正規雇用と非正規雇用では際立った違いが見られます。正規雇用ではその実施割合が 42.2%であるのに対して、非正規雇用では18.0%です。業種別で見れば、教育・学習支援業で 50.7%、金融・保険・不動産業で 47.5%であるのに対して、医療・福祉・保育関係はわずか 9.8%に過ぎません。コロナ禍で「エッセンシャル・ワーカー」という言葉が広がりましたが、まさにエッセンシャル・ワーカーである、医療・福祉・保育労働者は、感染のリスクにさらされながら毎日仕事をされています。

テレワークの時間が増えれば、自宅で過 ごす時間も増えるわけですが、家事・育児 時間における夫婦間の役割分担の変化を見 ると、内閣府の調査によれば「夫の役割 が増加した」ケースは26.4%で、「妻の役 割が増加した」が16.7%、「夫・妻ともに 役割が増加」が10.4%、「変化は無い」が 46.3%でした。従来からの性別役割分業が、 コロナ禍で大きく変化したとはいえないよ うです。というよりも、「テレワークの普 及や学校の臨時休業などにより、男女とも 家事・育児の増加が見られたが、その度合 いは女性の方が大きい」「身体的・精神的 な面でも、家事・育児の負担は女性に大き くかかっていたことがうかがわれる」(65 ページ)というのが、『白書』の分析です。 こうしたなかで、自宅で家族と過ごす時間 が増え家庭内での「配偶者から暴力(DV) の増加が懸念される」(67ページ)とも述 べています。確かに、全国「DV 相談件数」 は、2020年3月の9.516件から2021年3 月の17.320件へ増えています(同ページ)。 もう1つ心配される事態は、自殺者数の増 加です。2020年7月以降、自殺者が増加 傾向で、特に女性と若者の増加が著しいと いうことです。『白書』は、「女性の自殺の

背景として、経済生活問題、DV 被害、育 児の悩みなど自殺の要因となりかねない 様々な問題が新型コロナウイルス感染症の 影響下において深刻化し、自殺者数の増加 に影響を与えている可能性が指摘されてい る | (68ページ) と述べています。自殺者 数については、内閣府男女共同参画局が作 成した「コロナ下の女性への影響につい て」(令和3年10月)が、その推移を示し ています。「2020年計は、前年より男性は 23 人減少、女性は935 人増加。2021年1 ~9月計は、前年より男性は199人増加、 女性は433人増加|で、直近の「2021年9 月の女性の自殺者数は513人 | (19ページ) です。自殺者数における男女の差が気にな ります。『白書』の分析をより具体的に進 めなければなりません。

4. 医療提供機関の困難と奮闘

(1) 保健所体制の問題

先にわが国の公衆衛生と保健所の歴史について触れましたが、ここであらためて新型コロナウイルス感染症に対する保健所の役割について述べたいと思います。以下のお話は、『社会保険旬報』(No. 2826、2021年7月21日号)に掲載された「鼎談 新型コロナウイルス感染症と公衆衛生の役割一保健所の体制強化に向けて一」(6-19ページ)によっています。

新型コロナウイルスは、海外から持ち込まれたものですが、これを防ぐのが「検疫による水際対策」ということになります。しかし検疫は国の管轄であり、保健所は自治体の管轄という体制のため、その連携がうまくいかなかったのではないか、との指摘がなされています。入国者を検疫でチェックしたうえで、各地の保健所で2週

間フォローアップする体制になっていましたが、検疫所と各地の保健所の連携が十分に出来たのかが問題だということです。専門家は、検疫によってウイルスの侵入を100%防げるわけではないが、感染のピークを遅らせるという意味では重要な対策だと述べています。

感染症対策として、感染ルートを探るという調査、先に述べた19世紀ロンドンでのコレラの発生源を探った疫学調査ですが、日本では従来から保健所の重要な仕事でした。1999年制定の感染症法の第15条によって、保健所は「積極的疫学調査」を実施する役割を担っています。この調査は、一人一人感染源をたどっていくという手法です。これは、結核対策で使われた手法ですが、今回の新型コロナの場合、感染者が急速に拡大し、保健所の対応が追い付かなくなりました。

保健所は、さらに感染者の療養方針を決定し、入院や外来診療の調整、宿泊療養者や自宅療養者の健康観察などの仕事もしなければなりません。管轄内の病院の機能や病床数の調整、開業医との連携も必要ですが、そうした仕事を保健所は十分に果たせていないという問題が浮かび上がります。その根本的原因は、政府による保健所数の政策的削減です。

1994年に「保健所法」が全面改正され「地域保健法」と名称も変更されました。この法律により公衆衛生全般が見直され、感染症対策から生活習慣病対策へとその重点が移されるとともに、都道府県や政令都市などが設置する保健所は、地域保健の第一線機関としての役割を市町村が運営する保健センターに譲り、都道府県の保健所は、専門的・広域的観点から保健センターを指導する機関になりました。1994年に全国で847ヵ所あった保健所は、2020年には

469ヵ所まで減らされました。京都府では、 「2003 年度まで 12 保健所体制であったも のが、2004年度から7保健所1分室体制 に統廃合され、保健所の管内エリアが拡大 するとともに保健師数も 2003 年度の 89 人 から 2018 年度には 75 人へと削減されてき ました」(中村智彦「コロナ感染症第5波 のもとコロナ禍の京都府保健所職場を訪問 して」、京都自治体問題研究所月報『くら しと自治・京都』2021年10月号、7ペー ジより)。新型コロナ感染症対策に多くの 人手がとられ、従来の保健所業務に手が回 らず、事務処理などは他部門からの応援・ 増員があるものの、医師・保健師などの専 門職の応援は限られ、保健所スタッフの長 時間労働、労働負荷の増大は大変深刻な事 態です。

(2) 民間病院中心の医療供給体制

日本のベッド数はおよそ165万床です が、「対人口比世界一」という誤解があり ます。病床にはその機能によって区分があ ります。一般病床 (89 万床)・療養病床 (32 万床)・精神病床(33万床)・結核病床(5 千床)・感染症病床(1.8千床)の5つの区 分です。欧米では、療養病床や精神病床は、 病院の病床数には含まれないとのことで す。国際比較するならば、165万床ではな く、89万床でなければなりません。さら に一般病床の89万床が、すべて急性期に 対応できるとの勘違いがあると、日本病院 協会の相澤孝夫会長は、述べています。以 下の説明は、相澤さんの講演「新型コロナ ウイルス感染症の対応と病院への影響」『社 会保険旬報』No. 2830、2021年9月1日号、 16-28 ページ) によります。

本来、新型コロナウイルス感染症に対応 する「特定感染症指定医療機関は4病院 10床、第一種感染症指定医療機関は55病 院 103 床、第二種感染症指定病院は 348 病 院 1758 床 しか政府は準備していません でした。そこで、厚生労働省はあわてて 2020年2月9日に「緊急その他やむを得 ない場合について、感染症病床以外の病床 への入院を可とする」という旨の事務連絡 を出しました。感染症指定病院は、国公立 病院や日赤病院など公的医療機関が大部分 を担っていますが、そのベッド数では到底 足りず、民間病院が大半の「一般病床を感 染症病床に転用する | ことになったのです が、「転用するという発想はまったくなかっ たから、病院も慌てた」ということです。 「転用」は、簡単なことではありません。「病 院が病床数の確保を考えるときは、入院を 必要とする患者が1日に何人出るか、その 患者が何日入院するかを掛け算することで 必要な病床が出る」ということですが、「コ ロナ患者は、何日間入院すれば安定するの かというデータがない。どのくらい病床を 準備するのか、実際に答えを出すのは非常 に難しかったしのです。さらに「転用する ためには、患者の移動などを考えると最低 3週間は必要というのが大半の病院の意見 だしそうです。

問題はまだまだあります。「コロナ患者を診るには、病棟をゾーニングしなければならない。これをできる病院と、できたいる病院があったことも混乱に拍車をかけた」。「感染症病床を持っている病院でも、感染症病床に関しての人員配置は十分行っ程度は十分行ったので・・・一般病床をある程度に投入するしかなかった」。「一般病床をあるして、一般病床を多いして、一般病床を多り削減しない」など。医療現場の混乱と苦労が分かります。

こうした医療現場の努力は、報われてい

ません。一般の入院患者だけでなく外来患者も激減し、さらにがん検診も「2019年度に比べて、2020年度は30%減った」が、「検診が減ることによって、がんの早期発見の患者が減る」という事態も生じています。いずれにせよ、経営的には患者減による収入減という問題です。コロナ感染症患者への診療を熱心に取り組むほど、経営的には困難が増すという問題です。この点については、第2部の実践報告でも触れていただけたらと思います。

コロナ禍が露わにした医療提供体制の問題とは、医療の領域に市場メカニズムの「効率」という観点を持ち込んだという誤りです。それは端的にいって、「トヨタ生産システム」の主な要素である「ジャスト・イン・タイム方式」、つまり生産現場の組み立てラインには、在庫は極力置かないという方式です。必要なときに必要な部品を取りに行くという仕組みです。この仕組みは、生産現場だけでなく今では流通の領域にも広がっています。コンビニの配送システムがそうです。店舗に置かれる商品数は限られ、日に何回も配送車で商品が補充されます。

この仕組みを医療現場に適用すれば、使われていない病床はムダとみなされます。病床は常に100%近い利用が求められ、空床は極力減らされます。病床に余裕はありません。通常の医療現場ですでにこうした状態であったところへ、新型コロナウイルス感染症が広まったわけです。病床だけではありません。医師・看護師等の医療スタッフにも余裕がありませんでした。先に述べたように、新型コロナウイルス感染症に対応する「特定感染症指定医療機関は4病院10床、第一種感染症指定医療機関は55病院103床、第二種感染症指定西療機関は55病院103床、第二種感染症指定の調査では、2020

年6月の時点で「感染症の指定医療機関に 常勤専門医がいる割合は35% | (『朝日新 聞』2021年10月21付)だったそうです。 この結果の悲惨な事例が、自宅療養を余儀 なくされた人々です。朝日新聞の記事を紹 介します。「新型コロナウイルスに感染し、 自宅や高齢者施設での療養中に亡くなった 人が、8月末までに全国で少なくとも200 人を超える」とのことで、この数には「入 院調整中や、高齢などを理由に本人や家族 が入院を拒否したケースも含まれる。ホテ ルなどの宿泊療養施設で亡くなった人は含 まない |。さらに「都内の自宅療養者は第 3波で約9400人まで増加。第4波では最 大約 2400 人に減ったが、第5波では8月 下旬に約2万6千人に達した。8月の死者 44 人のうち、25 人が50 代以下だった。都 の担当者は『(第5波で) 医療態勢が逼迫 (ひっぱく) していたのは事実。急変して 亡くなる方が多かった』と話す。」と報じ ています。(『朝日新聞』2021年9月24日付)

おわりに

予定の時間が来ました。最後に、乙訓医療生協の現況について、ひと言いわせていただきます。密閉・密集・密接いわゆる3密を避けることを余儀なくされたために、「緊急事態宣言」下の組合員の活動は大きく制約されました。外に出る、人と出会う、集う、語らう、行動するという活動が思うようにできずフラストレーションがたまっています。乙訓医療生協の理事会は、対っていますが、支部レベルでの諸会議や活動は、オンラインの利用も難しく苦慮しています。

とはいえ、支部の活動としてスマホ講座

「LINEの使い方」を開催したり、「おしゃべりお茶会」をオンライン開催したりしています。またハイキングや「歩こう会」などの戸外での活動も感染対策をしっかりしながら取り組んでいます。自治体とタイ

アップしての「コロナ禍のフレイル予防体操」にも取り組んでいます。

以上で、わたしの報告を終わらせていた だきます。ありがとうございました。

注:第2回コロナ特別研究会について [開催趣旨]

新型コロナウイルス感染症の広がりは、経済やくらしに大きな変化をもたらしました。とりわけ医療・福祉の現場では、災害ともいうべき危機的状況の中で、専門職・地域住民の奮闘により人々の命や日々のくらしが支えられています。本研究会では、地域医療・地域福祉を専門とする研究者からの基調講演と医療福祉生協・地域生協の事業と組合員活動に関する実践報告から、この困難を乗り越えるための方策を参加者とともに考える機会として開催しました。

(2020 年 11 月 『コロナショックを乗り越える』 特別研究会につづいて 2 回目の開催)

[開催概要]

第1部 基調講演と質疑応答

 $13:40\sim15:00$

基調講演:佐藤卓利氏(立命館大学特任教授・乙

訓医療生活協同組合理事長)

第2部 実践報告と意見交換

 $15:15\sim16:45$

- ・実践報告
- ○姫路医療生活協同組合
- ○岡山医療生活協同組合
- ○生活協同組合コープしが
- ・コメント 川口啓子氏(大阪健康福祉短期大 学付属福祉実践研究センターセン ター長)
- ・コーディネーター 小田巻友子氏(立命館大学 当研究所運営委員)

講座 「生協 10 の基本ケア」を開催しました。

主催: くらしと協同の研究所 後援: 京都府生活協同組合連合会

この講座は、日本生活協同組合連合会が推奨する介護の考え方とスキル「生協 10 の基本ケア」を学ぶ講座です。「あなたの介護は誰がする? ピンピンコロリはむずかしい!」「元気なうちに学んでおきたい介護のこと」を学びました。

■講座は1期6回(1回2時間)で2期開催(1期2021.11/10~11/24・2期2022.2/9~3/2)

口	講座の内容
1回	「生協 10 の基本ケア―」の概要― 超高齢化社会ってどんな社会? ①換気の大切さを学ぶ
2回	「座る」大切さを知る ②床に足をつけて座る ③トイレに座る (オムツに頼らない)
3回	「美味しそう」「気持ちいい」 ④温かい食事をする ⑤家庭浴に
4回	「一人暮らしでも孤立しない」 ⑥座って会話をする ⑦町内におでかけする(車イス体験)
5回	「地域で・自宅で・最後まで」 ⑧夢中になれることをする
6回	「認知症を怖がらないで!」 ・認知症ケアでの大切なこと ・修了式

- ●各回とも大阪福祉短期大学福祉実践研究センターの川口啓子氏、同大学の小田史氏、上 山小百合氏に講師をお願いしました。
- ●会場は「くらしと協同の研究所」があるコープ御所南ビル 4F 会議室。なお定員は 20 名に限定し、コロナ感染対策をおこない対面で開催しました。







車いす体験に出発する参加者

参加者の感想

- ・介護する側の視点で今まで考えていたということに気づけ、自分が利用する立場になった 時のことを、より具体的に考えられるきっかけをくださったと思います。
- ・車椅子体験は貴重な体験でした。介助として夫を乗せて押していましたが、前がよく見えずに置いてあるものにあたってしまったことがありました。
- ・介護の道具、介護食も随分いろいろあって、そういう知識を持つことは大切だなあと思っ

た。介護食、おいしかった。

当研究所の企画委員会(会員生協代表と研究者で構成)の議論をうけて、介護について学ぶ「生協 10 の基本ケア」を大阪福祉短期大学福祉実践研究センターのご協力で開講しました。参加いただいた方々から高い評価をいただきました。

この講座が会員(生協)の間に広がっていくことを願っています。 開講を検討される 生協、団体がございましたら、当研究所の事務局までお問合せください。

くらしと協同の研究所 2021年度

第5回 くらしと協同全体研究会を開催しました

開催日時 2022年3月5日(土)13:30~17:30(リモート開催/参加者38名)

[開催概要]

- 1 2021 年度 研究所主催の企画紹介
 - ・2021 年総会記念シンポジウム (7/3 (土) ~ 4 (日))
 - ・『くらしと協同』を読む(合評会)9/4(土)
 - ・第2回 コロナショック特別研究会 11/14(日)・講座『生協 10 の基本ケア』 開講
 - ・第 22 回生協組合員理事トップセミナー 12/4 (土)
 - ・第5回くらしと協同全体研究会 3/5(土)
- 2 当研究所の各研究会の活動報告
 - ○基幹研究会からの報告
 - · 次世代生協研究会 辻村英之氏 (座長 京都大)、加賀美太記氏 (阪南大)、 玉置了氏 (近畿大)
 - ·生協労働研究会 杉本貴志氏(座長 関西大)
 - ○公募研究会からの報告
 - ・オルタナティブ農業研究会 小池恒男氏(座長 研究所)
 - ○自主研究会からの報告
 - ・新しい協同の研究会 浜岡政好氏(研究所)
 - ○コーポラティブ・ラボからの報告 片上敏喜氏 (日本大)
 - ※コーポラティブ・ラボ:協同組合及び協同組合とつながりのある研究等に関心のある メンバーで構成
- 3 個人報告及びコメンテーター
 - ・岩橋涼氏(名古屋文理大学) コメンテーター:鬼頭弥生氏(京都大学)
 - ・長島洋介氏(ラボラトリオ株式会社) コメンテーター:近本聡子氏(愛知学泉大学)

また全体研究会では、2021年度に発行した研究所所属研究者の著書が紹介されました。

季刊号

よくらしと協同

2021 (第38号)

2021.12.25 発行

発電を通じた地域活性化への挑戦

エネルギー問題を自分事として考える



2021 (第 37 号)

2021.09.25 発行

2021 年総会記念シンポジウム 東日本大震災と協同組合 - これまでとこれからの 10年を見据えてー





2021 (第 36 号)

2021.06.25 発行

特集

生協入門



2021 (第 35 号)

2021.03.25 発行

特集

手ざわりある情報技術の使い方

AI を多面的に考える



2020 (第34号)

2020.12.25 発行

特集

コロナに克つ~つながりと協同の 新たな地平へ

座談会

コロナ禍のもとでのくらしと生協



2020 (第33号)

2020.09.25 発行

特集

くらしと協同をたずねて

研究紹介

地域フードシステムを育む協同組合の可能性 食や農を「つなぐ」アプローチとしての ツーリズム

増刊号



2019 年 9 月増刊号

2019.09.25 発行

第27回総会記念シンポジウム特集 "見えない"格差・困窮・貧困と 日本経済を考える

働き、学び、育て、暮らす 現場の視点からー



2018年9月増刊号

2018.09.25 発行

第26回総会記念シンポジウム特集 現代のくらしにおいて、 わたしたちには何ができるのか? - 『無印良品』のあり方と 仕組みから考えるー





本号では、2020年12月に発刊したNo.34に続き、コロナにかかわる特 集を企画しました。この間、生協でも総代会のオンライン開催や、組合員活 動でのオンラインツール活用などが進められた結果、「今までよりも参加し やすくなった」という肯定的な意見が寄せられたと聞いています。図らずも、 それまでのつながり方の課題が明らかになったわけです。コロナ後を見据え て、新しい技術をどのように活かすのか、見失ってはいけない本質は何か、 改めて考える必要があると感じています。(太)



季刊 くらしと協同 2022 春号 (第39号) 2022 年3月25日発行

編集企画|『くらしと協同』編集委員会 電 話 075-256-3335 編集長 | 加賀美太記 F A X | 075-211-5037

くらしと協同の研究所 発行所 E-mail | kki@ma1.seikyou.ne.jp 理事長 若林靖永 URL http://kurashitokyodo.jp

| 京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町 258 コープ御所南ビル 4F(〒604-0857)



表紙紋様 「大小霰地に桜散し」

一見普通の霰地(大小霰、小さい丸、大きい丸)の柄の中に、隠れるように、ひっそりと、満開の開花を待つ桜の花を散りばめています。よく見ないと、桜の花を感じさせないほど、ちらほらと散りばめた柄です。 桜をモチーフとした柄の中では、比較的桜の主張が弱い部類の柄である。 柄自体が細かいので、遠目に見れば桜の花があるとは気づかない。 近づいて観て初めて桜の花の存在に気付く、淡さやさみしさを感じさせる柄です。

いまだに、訪れない春を、先取して迎えようとする、江戸時代当時の人々の生活や季節の楽しみ方を思わせる図柄である。

京小紋の目立たないように桜の花びらを柄に閉じこめる職人の粋さや、桜に思いを込め、春を待つ町衆 の心が伺える図柄であると思います。

田内隆司/京小紋画像提供(田内設計事務所)